

末日聖徒イエス・キリスト教会・2002年3月号

# リアホナ



# リアホナ



## 表紙

表紙—「マムレの平地に住むアブラハム」ハリ・アンダーソン画。裏表紙—「イサクを犠牲に」ジェリー・ハーストン画。「犠牲の律法」10ページ参照



## 「フレンド」表紙

どこに住んでいる子どもたちにも、少なくとも一人、同じ友達があります。それは救い主、イエス・キリストです。「世界のお友達」12ページ参照

## 一般

- 2 大管長会メッセージ—<sup>きよ</sup>聖き御<sup>みたま</sup>霊との交わり  
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 8 生ける預言者の言葉
- 10 犠牲の律法 十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード
- 25 家庭訪問メッセージ—  
聖文の研究を通してイエス・キリストに対する<sup>あかし</sup>証を増す
- 28 苦闘の中から生まれる強さ—七十人 L・ライオネル・ケンドリック
- 36 末日聖徒の声—「栄光を受けるように備えられる」  
信仰の力 マリベル・エセラ・チャコーン  
ボート部 ウンベルト・エイティ・カワイ  
家までの長い上り坂 メービス・グレース・ジョーンズ  
「見つけました！」 マドレン・クルツ
- 48 「リアホナ」2002年3月号の活用法

## 青少年

- 21 兄を<sup>ゆる</sup>赦す ディオサフロール・テンプロール
- 22 すぐりの木 十二使徒定員会 ヒュー・B・ブラウン
- 26 列車に乗り続ける 七十人 グレン・L・ペイス
- 42 教えに教え—イエス・キリストへの信仰
- 44 次の一步を踏み出す ジェーン・フォーズグレン

## フレンド

- 2 預言者と使徒たちの言葉—<sup>ことば</sup>敬虔<sup>けいけん</sup>さ  
十二使徒定員会<sup>じゅうにしとていじんかいがいん</sup>会員 L・トム・ペリー<sup>ちやうろう</sup>長老
- 4 心に感じたささやき—  
ウィラード・ローザンダーがアリサ・マクブライドから<sup>き</sup>聞いた<sup>はなし</sup>お話
- 7 新約聖書ものがたり—イエス、3つのたとえを<sup>はな</sup>話される、  
いなくなったひつじ、なくなったぎんか
- 12 世界<sup>せかい</sup>のお友達<sup>ともだち</sup>
- 14 かみのみ<sup>わ</sup>やか<sup>あ</sup>ち<sup>じかん</sup>合いの時間—かみのみ<sup>わ</sup>やか  
ビッキー・F・マツモリ
- 16 「わたしのようではなければならない」  
七十人<sup>しちじゅうにん</sup> スペンサー・J・コンディー<sup>ちやうろう</sup>長老

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。  
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギリバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：デニス・B・ノイエンスバウダー  
顧問：J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、ステイブン・A・ウェスト

教科課程管理部責任者  
実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・クリー  
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーグ

国際機関誌スタッフ  
編集主幹：マービン・K・ガードナー  
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン  
編集副主幹：ロジャー・テリー  
編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド  
編集補助：スーザン・バレット  
出版補佐：コレット・ネベカー・オウ  
デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ  
アートディレクター：スコット・バン・カンベン  
デザイナー主任：シェリー・クック  
デザイナー：トーマス・S・チャイルド  
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ  
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、クリー・ブラッド、ローランド・F・スピークス、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワーナー  
デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン  
予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス  
配送部長：クリス・クリステンセン  
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてはお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社  
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
半年予約1,200円(送料共)  
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月  
原題—International Magazines March, 2002.  
Japanese. 22983 300

For Readers in the United States and Canada:  
March 2002 no. 3. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

## 読者からの便り



### 「<sup>じゅうぶん</sup>什分の一の大切さ」の記事に感謝します

わたしは、1986年にバプテスマを受けて教会員になりました。それ以来「リアホナ」(ポルトガル語版)は、わたしの生活に欠かせないものになっています。これまで霊的に弱くなったとき、「リアホナ」はいつもわたしを力づけてくれました。また、伝道するときや、ホームティーチャーとして訪問するとき、真の福音を知る機会にまだあずかっている友人とともにいるときにも力を与えてくれます。

特に2000年12月号の「什分の一の大切さ」という記事にとっても感謝しています。この記事は、自分が監督として什分の一の面接を効果的に行うのに大変役立っています。

ブラジル・ディアデマステーク、  
パルケドロディアワード  
アマリルド・マルティンス

### 天のお父様は祈りにこたえられる

『リアホナ』(ウクライナ語版)を読んでいたとき、わたしは、聖霊の強い導きを感じて、人に証を分かち合いたいと思いました。時々わたしは霊的な試しを受けて圧倒されそうになることがあります。家族の中で教会員はわたし一人で、わたしの友人は、教会のことも、教会で教えられている標準についても良く思っていないからです。残念なことに、わたしはまだ彼らの考えを変えることができずにいます。

わたしのような境遇の人はたくさんいると思います。でも、わたしは、天のお父様がすべての人を愛し、一人一人に強く

なっていてほしいと望んでおられることを知っています。落胆したときはいつも天のお父様がどんなにたくさんの祝福を与えてくださっているかを思い起こすようにしています。天のお父様はいつもわたしの祈りに耳を傾け、時には友人、親族、またあるときには「リアホナ」を通して助けを与えてくださいます。『リアホナ』にはたくさんのすばらしい証や話が掲載されています。読む度に証が強くなります。

ウクライナ・キエフ伝道部、  
チェルニヒフ・ツェントラルニー支部  
イエレナ・シボブリヤス



### 「リアホナ」の不思議な力

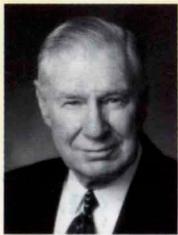
我が家では「リアホナ」はほんとうに不思議な存在です。「リアホナ」(ロシア語版)を家に持って帰ると、決まって行方不明になってしまうのです。父は教会員ではありませんが、仕事場に「リアホナ」を持って行ってすべての記事に目を通し、大変気に入ったと言いながら、翌日返してくれるのです。また、母も教会員ではありませんが、読み始めたら午前中いっぱい読みふけてしまうと言います。母は、特に2001年3月号の「日本—輝きを増す東洋の光」という記事がことのほかおもしろかったと言っていました。「リアホナ」のこの不思議な力に感謝しています。家族に福音を伝えるうえで、「リアホナ」はとても大きな力になっています。

ロシア・ヤカレリンバーグ伝道部、  
クルガン・ツェントラルニー支部  
マリヤ・コノバロバ

個人の啓示は、物心両面にわたる導きとして、あるいは真理の証<sup>あかし</sup>として与えられます。末日聖徒は、日常生活の様々な決定も含めて、生活のあらゆる面において御霊<sup>みたま</sup>の勧めを受けられることを知っています。



# 聖き御霊との 交わり



第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

何年か前の記者会見で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように尋ねられました。「現在、あなたの教会が抱えるいちばんの問題は何ですか。」それに対してヒンクレー大管長は、教会の急速な発展が問題ですと答えました。

末日聖徒イエス・キリスト教会が組織されてから170年以上たちました。この教会がこのように目覚ましく繁栄し、発展を続けているのはなぜでしょうか。この教会はほかの教派とどこが違うのでしょうか。その答えとして、わたしたちの信仰には特有なものが幾つかあると言えるかもしれません。その一つは組織そのもので、パウロが教会の土台と呼んだ使徒と預言者(エペソ2:20参照)、それに七十人定員会が挙げられます。ほかに、無給で奉仕する一般の教会員が神権を受けて指導者となっていること、宣教師のシステム、福祉プログラム、神殿、家族歴史活動など、際立った特徴はいろいろあります。

しかしながら、教会の発展にはほかのあらゆるもの

を超越した一つの要因があります。1839年に、預言者ジョセフ・スミスと当時合衆国大統領であったマーティン・バン・ビューレンが会見しましたが、そのときのことがこう記録されています。「その席で大統領はこの教会と世のほかの教会との違いについて尋ねた。ジョセフ兄弟は質問に答えて言った。『この教会には、バプテスマを施す正しい方法と<sup>あんしゅ</sup>按手による聖霊の<sup>たまもの</sup>賜物とがあります。そのほか重要な事柄はすべて聖霊の賜物の中に含まれています。』」(*History of the Church*, 第4巻, 42)

預言者のこの返答は靈感に満ちたものでした。なぜなら、聖霊の種々のすばらしい賜物を享受する権利が、バプテスマを受けた全教会員に授けられているからです。これは、救い主の次の約束を実現するものです。「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。」(ヨハネ14:16)

## 教化と理解

この力強い賜物のおかげで、教会の指導者やふさわしいすべての教会員が、神会の御一方であり、靈感と啓示を授け、すべてのことを教えてくださる聖霊の種々の賜物とその交わりとにあずかれるのです。この教会の指導者や教会員が、義と善に導く、絶えざる啓示と靈感を教会設立以来受けてきたのは、この賜物が与えられたためです。そしてこの状態は今も続いています。靈感と啓示は、この教会の指導者と教会員の間にも広く行き渡っているのです。彼らの行動の背景には確固とした霊的な土台があります。それは、大小を問わず教会員の集う所に見いだされます。

この教会はなぜ発展し、繁栄しているのでしょうか。そ

これは指導者と教会員を神が導いておられるからです。近代における神の導きは、1820年の早春に父なる神とイエス・キリストがジョセフ・スミスを訪れられたことに始まりました。しかしわたしたちは、神の靈感は末日聖徒でない人々にも与えられると主張します。大管長会は次のような声明を出しています。「マホメットや孔子、宗教改革者など世界の偉大な宗教指導者や、ソクラテス、プラトンなどの哲学者たちは、神の光の幾分かを受けました。国々を啓蒙し、個々人の理解をより高い水準に引き上げるために、倫理的真理が神から彼らに与えられました。……わたしたちは、神がすべての人に永遠の救いに向かって歩むに十分な知識を授けてこられたこと、またそれが今後も続くことを信じています。」(“Statement of the First Presidency regarding God’s Love for All Mankind”, 1978年2月15日付)

しかしながらわたしたちは、来るべき世における救いは、末日聖徒イエス・キリスト教会が教えるイエス・キリストの福音を受け入れることにかかっている、と厳粛に宣言するものです。救いの一要素は個人への啓示です。ジョセフ・スミスはこのように語っています。「だれも啓示を受けずに、聖霊を授かることはできない。聖霊は啓示者であられる。」(History of the Church, 第6巻, 58)

### 個人の啓示

按手によって聖霊の賜物を受けた末日聖徒は、巨人ゴリアテのような人生の大問題から小さな出来事に至るまで、個人として靈感を受ける権利を与えられています。もしふさわしければ、わたしたちは自分自身のために、また、親として子どもたちのために、会員として自らの召しのために、啓示を受ける資格があります。しかしながら、ほかの人々のために啓示を受ける権利は、わたしたち自身の管理の職を超えて与えられることはありません。

エッサイの末子で、一介の羊飼いの少年にすぎなかったダビデは、自ら望んで巨人ゴリアテと戦いました。この恐

るべき巨人は、ダビデやイスラエルの兵士たちを屈辱的なものしりによって嘲弄しましたが、ダビデは自分にイスラエルを救うようにとの靈感があったことを確信していました。サウル王はこの少年の信仰と決意に動かされ、ダビデにゴリアテと戦うよう任じました。ゴリアテは、まだ年若く何の武装もしていないダビデを見て愚弄しました。それに対してダビデは、自分は万軍の主、イスラエル軍の神の名によって立ち向かう、「この戦いは主の戦いで」あって、主は救いを施すのに剣や槍を用いられない、それを全会衆に知らせるのだと返答しました(サムエル上17:47参照)。ダビデが石投げ器を使って投げた石は、勢いよく飛んで、ゴリアテの額に命中して深く突き入り、ゴリアテは倒れました。死んだようになって地に倒れたゴリアテを見て、ペリシテ人は震え上がって逃げ出しました。

ダビデを導かれたこの生ける神はどうなったのでしょうか。旧約聖書の預言者たちにあのように率直に語られた神が、今は口をつぐみ、黙して語られないと決めてかかるのはこの上ない冒瀆です。

どうなのでしょう。神は古代の預言者たちによって導かれた民ほどわたしたちを愛しておられないのでしょうか。わたしたちには神の導きや教えが必要ないのでしょうか。そんなはずはありません。神はもう心に留めてくださらないのでしょうか。声を失われたのでしょうか。永久の休みに入られたのでしょうか。眠っておられるのでしょうか。これらがどれも理に合わないことは明白です。

救い主はカペナウムの会堂で教えておられたときに、御自身の神性についてはっきり告げられました。使徒ヨハネは次のように述べています。

「それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。

そこでイエスは十二弟子に言われた、『あなたがたも去ろうとするのか。』

シモン・ペテロが答えた、『主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあ



この教会はなぜ発展し、繁栄しているのでしょうか。それは指導者と教会員を神が導いておられるからです。近代における神の導きは、1820年の早春に父なる神とイエス・キリストがジョセフ・スミスを訪れられたことに始まりました。

なたです。

わたしたちは、あなたがキリストであり、生ける神の御子であることを信じ、また知っています。』(欽定訳ヨハネ6:66-69から和訳)

わたしたちは、ペテロが受けたと同じ、キリストは神の御子であられるという証が、わたしたちの神聖な知識であることを認め、世の人々に証するものです。

個人の啓示は、物心両面にわたる導きとして、あるいは真理の証として与えられます。末日聖徒は、日常生活の様々な決定も含めて、生活のあらゆる面において御霊の勧めを受けられることを知っています。全能の神の靈感を求めずに、だれを伴<sup>はんりよ</sup>侶に選ぶべきか、どのような務めをなすべきか、どこで、どう生きるべきかなど、重要な決定を下すことをどうして考えられるでしょうか。

信仰篤い大勢の末日聖徒が、負傷や死の危険に直面したときに、御霊により警告を受けています。その一人が、ウィルフォード・ウッドラフ大管長です。彼はこのように述べています。

「[1847年]開拓の旅からウィンタークォーターズへ戻ったとき、[ブリガム・]ヤング大管長から、『ウッドラフ兄弟、

奥さんや子どもたちと一緒にボストンへ行き、そこに滞在してニューイングランドとカナダ在住のすべての聖徒を集め、シオンへ送ってください』と言われました。

わたしは言われたとおりにしました。2年ほどかけて全員を集め、送り出し、とうとう最後の一行(100人ほどだったと思います)を導いて出立することとなりました。ある日、わたしたちは日没ごろにピッツバーグへ到着したのですが、そこで宿泊したくなかったので、間もなく出港する汽船の所に行きました。船長に会って乗船を頼みました。ところがその手続きを終えたときに、御霊がわたしにささやきました。それも胸に強く迫ってくるようなささやきでした。『あの汽船に乗ってはならない。あなたの一行のだれも乗ってはならない。』そこで無論、わたしは船長のところに取って返し、次の船にすると行って乗船を取りやめました。

こうしてその船は出港しました。ところが、川を5マイル[約8キロ]ばかり下った所で船火事を起こし、300人の乗客は、ある者は焼死し、ある者は溺死しました。もしもわたしがあるとき御霊に従わず、一行とともにあの蒸気船に乗り込んでいたら、その結果どうなっていたかは分かりでしょう。』(The Discourses of Wilford Woodruff, G・ホーマー・ダラム選[1946年]294-295)

### 啓示を受けるには

啓示や靈感を受けるには、幾つかの決まりや指針といったものがが必要です。それには、(1)誠実に真心から神の戒めを守ろうと努める、(2)神からのメッセージを受ける者と



フォトイラストレーション/デレック・イストラエルセン

して霊的に整えておく、(3)謙遜<sup>けんそん</sup>で熱心な祈りを通して、神に尋ねる、(4)揺るぎない信仰をもって答えを求める、などがあります。

わたしは、この靈感があらゆる人の希望と導きと力の泉になり得るということを証します。靈感は尊んで大いなるものとすべき一生の宝物の一つです。神についての無限の知識を得ることを可能にしてくれるのです。

啓示や靈感はどのように作用するのでしょうか。すべての人は、よく調整すれば神からの通信を受けられる備えつけの「受信機」を持っています。エリフはヨブにこう言いました。「人のうちには霊があり、全能者……が人に悟りを与える。」(ヨブ32:8)必要であれば、ニーファイのように、「前もって自分のなすべきことを知らないまま」ひたすら御霊に導かれることもあります(1ニーファイ4:6参照)。

靈感はどのようにして受けるのでしょうか。エノスはこう語っています。「わたしがこのように心を込めて祈っていると、見よ、再び主の声がわたしの心に聞こえ……た。」(エノス1:10)必ずしも耳に聞こえる声ではありません。啓示の霊は神からの確証として授けられます。「あなたに降<sup>くだ</sup>ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう」と(教義と聖約8:2)、主は言っておられます。

主の声を、テシベ人エリヤはどのようにして聞いたでしょうか。その声は、「山を裂き、岩を砕いた」強い風でも、「風の後[の]地震」でも、「地震の後[にあった]火」でもありませんでした。主の声は「静かな細い声」でした(列王上

あんしゆ たまもの  
**按手によって聖霊の賜物を受けた末日聖徒は、巨人ゴリアテのような人生の大問題から小さな出来事に至るまで、個人として靈感を受ける権利を与えられています。**

19:11-12参照)。

御霊の内なる声には万物を貫き通してささやく力があるのです(教義と聖約85:6参照)。聖文にはこう説かれています。「それは雷のような声ではなく、大きな騒々しい音でもなく、まるでささやきのような、まったく優しい静かな声であり、それでいて心の底までも貫いた。」(ヒラマン5:30)

このように、主は啓示によって、あなたも声かけられるかのように、人の心に靈感をお授けになります。十二使徒定員会の会員であったとき、ハロルド・B・リー長老(1899-1973年)は次のように証しました。「わたしは、子どものころに得た、簡単な証から始まった信仰心を持っています。10歳か11歳だったと思います。ある日わたしは農場の、家から遠く離れた所に父と一緒にいました。父が家に戻る用意ができるまで、夢中で遊んでいました。わたしたちがいた所のさくの向こう側に、今にも倒れそうな小屋が見えました。それは好奇心の強い少年を強く引きつけるものでした。そしてわたしは冒険好きな子どもでした。そのさくをよじ上ろうとすると、ある声が聞こえてきました。それは今皆さんがわたしの声を聞いているのと同じように、はっきりと聞こえてきました。その声は、わたしの名前を呼び『そこへ行ってはならない』と告げました。わたしはひ

よっとして父が話しかけているのかと思い、振り返ってみました。しかし、父は農場のずっと離れた方にいました。その辺りには、だれの姿も見えませんでした。そのとき、わたしは子どもながらに、自分の目には見えないだれかがいるのだということを理解しました。なぜなら、わたしは確かにその声を聞いたからです。それ以来、預言者ジョセフ・スミスの物語を〔聞いたり〕読んだりすると、声を聞くということが、どういうことかを理解してきました。自分自身が見えない御方の声を聞いていたからです。』(Divine Revelation, Brigham Young University Speeches of the Year〔1952年10月15日〕5)

### 今日の教会における啓示

個人の啓示を受ける権利は教会の忠実な会員すべてに与えられていますが、教会にかかわる啓示を受けるのは地上でただ一人です。ウィルフォード・ウッドラフ大管長(1807-1898年)はこう語っています。「神の教会は啓示なしでは1日24時間たりとも存続することができません。」(Discourses of Wilford Woodruff, 61)

ある会員は次のように書いています。「毎日多くの男女が、神はこの福音と教会を回復されたという根本の真理を、啓示によって理解するに至っている。

日々、中央、地方を問わず教会の指導者は啓示により導かれ、全世界で教会の諸事をつかさどっている。

毎日、末日聖徒の宣教師が啓示の霊に感じて証を述べ、語るべきこと、なすべきことを知り、啓示の霊により教えている。

毎日、教会の標準聖典の中で明らかにされた主の御旨と御心は、啓示の霊によって末日聖徒の心を照らしている。

毎日、明らかな啓示によって信仰は忠実な人々の心の中で培われている。啓示は、結婚や職業、家庭問題、事業の運営、レッスンの準備などにおける決定、また危険をあらかじめ察知することなど、実に生活のあらゆる面において与えられている。

すべての末日聖徒は、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長〔1876-1972年〕の次の言葉が真実であることを啓示の霊によって理解できるであろう。

『主は今日、教会の頭に立ち王国の鍵を持つ人々ばかりではなく、信仰の篤いすべての人に靈感の霊を与えられる。』(ロイ・W・ドクシー, Walk with the Lord〔1973年〕173-174。強調部は原文のまま)

現在のこの世の預言者はだれでしょうか。今日、地上における預言者は大管長として働いているゴードン・B・ヒンクレーであることを証します。ヒンクレー大管長は、地上における神の王国の鍵をすべて持っている人です。末日聖徒イエス・キリスト教会は、地上における神の教会です。救いを得て神の前に住むには、主の教会で教えられているとおりにイエス・キリストの完全な福音を受け入れることが必要です。

この教会が170年以上にわたってこのように目覚ましく発展し、今もなお急速な発展を続けているのはなぜでしょうか。それは、神よりの啓示と靈感があるからです。

願わくは、わたしたちが聖霊を伴侶として生活できますように。聖霊は、全能の神の指示を受けて、教会がささやかに誕生してから今日の一大霊的勢力に育つまで、この民と指導者を導いてこられたからです。□

### ホームティーチャーへの提案

1. 聖霊の種々のすばらしい賜物を享受する権利は、バプテスマの後すぐに全教員に授けられる。

2. 聖霊の賜物のおかげで、教員は巨人「ゴリアテ」のような人生の大問題から小さな出来事に至るまで、個人として靈感を受けることができる。

3. 聖霊から啓示や靈感を受けるための4つの指針として以下が挙げられる。(1)誠実に真心から神の戒めを守ろうと努める、(2)神からのメッセージを受ける者として霊的に整えておく、(3)謙遜で熱心な祈りを通して、神に尋ねる、(4)揺るぎない信仰をもって答えを求める。



ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告

# 生ける預言者

## 聖約の民

「皆さんは聖約の民です。皆さんはバプテスマを受けてこの教会に入ったときに、主が望んでおられるとおりの生活を続けるという責務を生涯負うようになりました。毎週皆さんは、主の犠牲、すなわち主が皆さんに代わって苦しみを受けてくださったことの象徴である聖餐<sup>せいさん</sup>を受けます。またその聖餐は、イエス・キリストの御名<sup>みな</sup>を受け、主の戒めを守るという聖約を皆さんが交わしていることを思い起こさせるものです。そうするときに主は、皆さんに祝福として主の御霊<sup>みたま</sup>を授けるという聖約を交わしてくださるのです。」<sup>1</sup>

## 世の善いものを増し加える

「わたしたちが信じているのは、わたしたちすべてが神聖な生得権の幾分かを授かって生まれた神の息子や娘であること、またわたしたちの中には善いものがあること、そしてその善いものを養い育てて人々の前に輝かせ、世の一般的な善いものを増し加えなければならないということです。」<sup>2</sup>

## 様々な文化の真価を認める

「誤解は無知と疑いから生じます。わたしたちが様々な文化の人々を知り、正しく理解するようになると、様々な文化の真価を認めるようになります。」<sup>3</sup>

## 善良な末日聖徒になる

「善良な末日聖徒になることは難しい

ことではありません。善良で、礼儀正しく、親切で、優しく、友好的で、親しみやすい人になるだけでよいのです。そうすれば、主は皆さんの努力を受け入れ、皆さんを強め、祝福し、皆さんの家庭と家族と子どもたちに数々の祝福を授けてくださいます。……末日聖徒になりましょう。もう少し高く立ち、もう少し頭を高く上げ、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員らしく歩みましょう。」<sup>4</sup>

## 主の祝福を受けるにふさわしくなる

「毎朝毎晩、ひざまずいてください。……祈りたいという思いを失わせるものを皆さんの生活の中に入れてないようにしてください。皆さんの天の御父と話してください。愛をもって話してください。祝福に対して御父に感謝を述べてください。皆さんにとって最も大切な事柄を御父に願ってください。そうすれば、御父は皆さんの祈りを聞き、答えを与えてくださいます。皆さんが御父に嘆願し、御父の祝福にふさわしく生活するならば、御父は皆さんの前に道を開いてくださいます。」<sup>5</sup>

## 忠実に<sup>じゅうぶんに</sup>自分の一を納めている人々

「わたしは忠実に自分の一を納めているこの教会の人々に対する感謝の念に圧倒されるばかりです。主がこうした人々を愛しておられることを、わたしは知っています。わたしは、主が彼らをこよなく愛しておられ、喜んで天の窓を

開いて彼らのうえに祝福を注いでくださることを知っています。わたしはこれまで何度も何度も何度もそれを目にしてきました。」<sup>6</sup>

## 希望

「人は希望なしではいられません。人は皆、最も悲惨な状況の中にも希望の要素があるということ、過去の行いから立ち直れること、よりふさわしい行動を取れること、立ち戻れること、改善が図れること、そして、そうすることによってさらに深い幸福を味わえることを認識すべきです。」<sup>7</sup>

## 扶助協会

「この注目すべき組織[扶助協会]は、人との交わり、またとない奉仕の機会、啓発と教育、助けの必要な人々への援助、そのほか多くの機会を提供します。[女性の皆さんにとって]扶助協会は愛と思いやりに満ちた母親です。病気の時も健康なときも、扶助協会は皆さんの生活に祝福をもたらします。成長と発展の機会を与えます。世界で最もすばらしい女性たちの友情を皆さんに提供します。そして、悲しみのときには慰めを、苦難のときには祝福を、また皆さんと同じような人々との交わりによって比類なき喜びをもたらしてくれるのです。」<sup>8</sup>

## 注

1. 2000年6月17日、ニューカレドニア島

# の言葉

ヌーメア, 集会

2. 2000年8月14日, 『ボストングローブ』  
(*Boston Globe*), インタビュー

3. 2000年3月8日, ナショナル・プレス・  
クラブ, 話

4. 2000年5月21日, ユタ州オグデン, 地  
区大会

5. 2000年6月17日, アメリカ領サモア,  
バゴバゴ, 集会

6. 2000年1月2日, ソルトレーク第10ワ  
ード建物の再奉獻, 話

7. 2000年2月11日, 『役立つ人となる』  
(*Standing for Something*)に関する記者会  
見

8. 2000年9月12日, プリ  
ガム・ヤング大学同窓会,  
ディポーショナル



「毎週, 皆さんは  
聖餐を受けます。  
その聖餐は,  
イエス・キリスト  
の御名を受ける  
という聖約を  
皆さんが  
交わしていること  
を思い起こさせる  
ものです。」

# 犠 牲 の

犠牲の律法が持つ二つの主要な目的は、わたしたちを試験してその本質を明らかにすること、そしてキリストのもとへ来るよう助けることです。

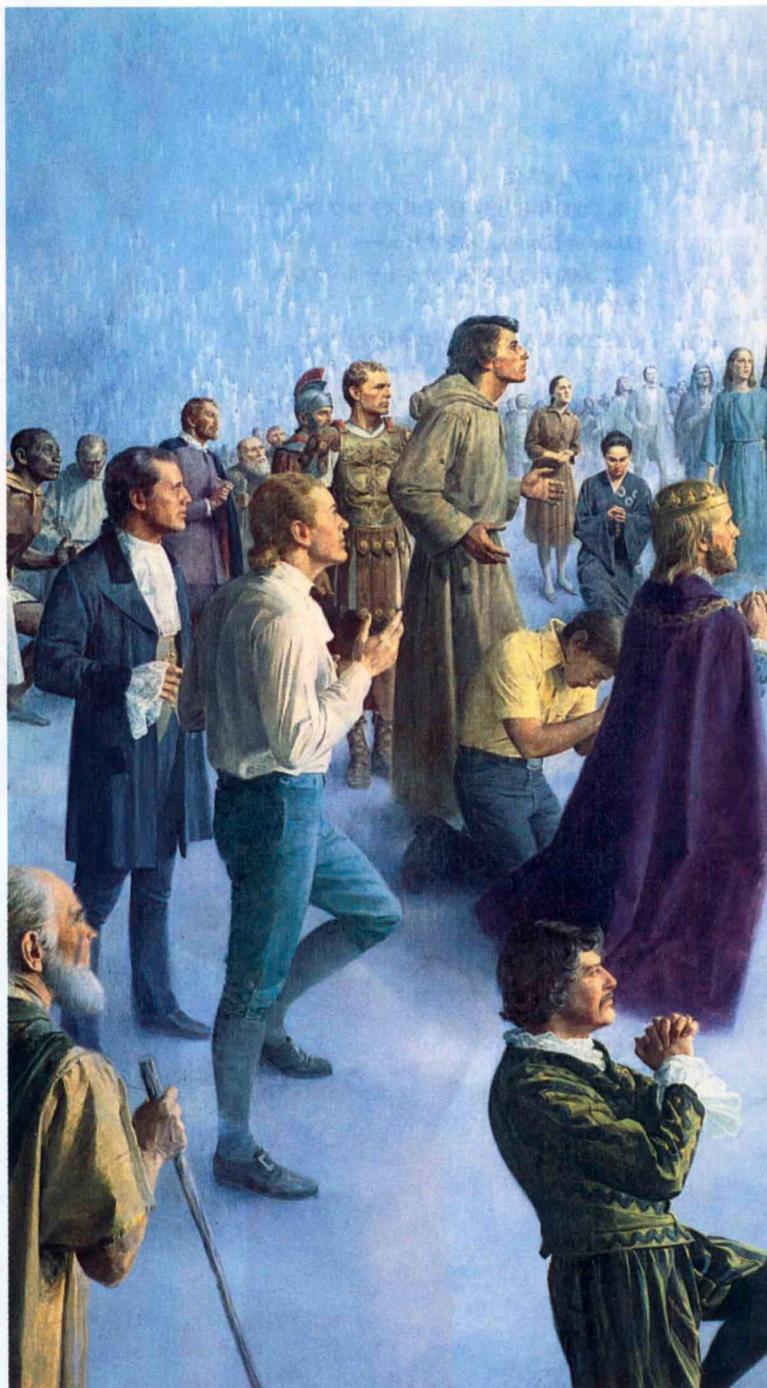


十二使徒定員会  
M・ラッセル・バラード

何年か前に、わたしたちは家族でニューヨーク州パルマイラとオハイオ州カートランド、そしてイリノイ州ノーブーを訪れました。その旅を通して教会の初期の歴史を改めて学び、教会の先駆者たちがこの最後の神権時代に神の王国を築くために払ったこの上なく大きな犠牲に思いをはせることができました。

謙遜に従った教会の先駆者たちについて深く考えていると、イエス・キリストの福音の重要な要素である犠牲の律法の永遠性に思いが集中していきました。犠牲は旧約時代、新約時代、そしてモルモン書の時代に実施されました。新約時代にその方法は変えられましたが、犠牲の律法の目的は、キリストの贖罪によってモーセの律法が成就した後もそのまま残されました。

普通人々が「モーセの律法」と聞いて最初に思い浮かべるのは動物の犠牲です。それは血による犠牲という身の毛のよだつような性質を持っているため、次のような疑問を抱く人もいます。「そのような行為は愛の福音と一体どのようなかわりがあるというのだろうか。」犠牲の律法が持つ二つの主要な目的を理解すればその答えをよく理解することができます。アダム、アブラハム、モーセ、新約時代の使徒たちはこれらの目的のために犠牲をささげました。そして、わたしたちが犠牲の律法を受け入れて従うときに、それらの目的は今日のわたしたちにも当てはまるものなのです。犠牲の律法が持つ二つの主要な目的は、わたしたちを試験してその本質を明らかにすること、そしてキリストのもとへ来るよう助けることです。



「最後の晩餐」ジョン・スコット画

# 律法



「あなたがたがふさわしいと認められるように、死に至るまでもわたしの聖約の中にとどまるかどうか、あらゆる点でああなたがたを試すことを、わたしは心の内に定めたからである、と主は言う。

もしあなたがたがわたしの聖約の中にとどまらなければ、あなたがたはわたしにふさわしくないからである。」(教義と聖約98:14-15, 強調付加)

犠牲の律法はわたしたちがほかの何ものよりも主を愛していることを主に証明する機会を与えてくれます。そのために難しい事態を結果として招くことが時にはあります。なぜならば、これは「とこしえにいつまでも神とそのキリストの前に住む」日の栄えの王国にわたしたちを備える、完成への過程だからです(教義と聖約76:62)。

次に、エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)は「教会の神聖な使命……とは、すなわち、『キリストのもとに来るようにすべての人を招く』」ことです(教義と聖約20:59)」と説明しました(「キリスト御許に来てキリストによって全くなれ」「聖徒の道」1988年6月号, 89。モロナイ10:32も参照)。この意味において、犠牲の律法は常に、神の子らが主イエス・キリストのもとに来るための手段となってきました。

では、わたしたちがキリストのもとに来るために犠牲はどのように助けてくれるのでしょうか。救い主を受け入れるには、まず救い主を信じる信仰を持たなければなりません。したがって、福音の第1の原則は主イエス・キリストを信じる信仰なのです。このため、預言者ジョセフ・スミス(1805-1844年)は信仰の原則と犠牲の原則との間にある重要な関係について、次のように説明しました。「あらゆるものを犠牲とすることを求めない宗教は、命と救いを得るために必要な信仰を人々に持たせることができないとわたしたちはここで理解しようではないか。……人は地上のあらゆるものを犠牲にして、神の目に喜ばれることを行っていると実感するのである。真理のためには自分の命をも差し出す覚悟で自分が持てるすべてのものを犠牲にし、また神の御心を行<sup>みこころ</sup>うためにこの犠牲を払うように召されたのだと神の前に信じるならば、その人は神が自分の犠牲とささげ物を受け入れてくださり、神の顔を尋ねても決して無駄にはならないのだと間違いなく理解するであろう。このような状態にあってこそ人は永遠の命を得るのに必要な信仰を得られるのである。」(Lectures on Faith(1985年)69)

要約すると、わたしたちは神の前に喜ばれることを行っ

ていると実感しなければならず、またこの知識が犠牲と従順を通してもたらされるのだと理解しなければなりません。この方法によってキリストのもとに来る人は心に平安を告げる確信を得ます。そして、この確信は最終的に永遠の命を得させるのです。

## 犠牲が教えるもの

犠牲は自分自身に関して何かをわたしたちに知らせてくれます。すなわち、従順によって何を主に進んでささげようとしているかを知らせてくれるのです。

トルーマン・G・マドセン兄弟はヒュー・B・ブラウン副管長(1883-1975年)とともにイスラエルを訪れたときのことを話しています。ブラウン副管長は第二副管長、そしてその後第一副管長を務めた主の使徒でした。父祖アブラハムの墓が置かれているとの言い伝えを持つ、ヘブロンという名で知られている谷で、マドセン兄弟はブラウン副管長に尋ねました。「アブラハム、イサク、ヤコブの祝福とは何でしょうか。」ブラウン副管長は少し考えると、「子孫です」と答えました。

マドセン兄弟は次のように記しています。「わたしは半ば話を遮るようにして、次のように聞いた。『では、アブラハムはなぜモリヤの山へ登って、子孫を得る唯一の望みを差し出すような命令を受けたのでしょうか。』

90歳に近い[ブラウン副管長は]かつてその疑問について考え、祈り、涙を流していたことが明らかだった。やがてこう語った。『アブラハムはアブラハムについて何かを知る必要があったのですよ。』(The Highest in Us(1978年)49)

では、犠牲の律法が人々をキリストのもとへと導いたもう一つの方法について考えてみましょう。古代において、血を流す犠牲はキリストの命と使命の予型と影の役割を果たすことによって人々をキリストのもとへと導きました。

アダムは祭壇にささげた犠牲が「御父の……独り子の犠牲のひながたである」と教えられました(モーセ5:7)。これは、御父の子らが初めから、自分たちのささげ物である犠牲と神の小羊の犠牲との間にある関係を理解していたことを教えています(教義と聖約138:12-13参照)。

モーセの律法の下で行われていた犠牲の律法の目的について、教義的に最も明確にされた教えの幾つかをモルモン書の中に見つけることができます。ニーファイはそれがキリストの犠牲の予型として行われたことを教えました(2

ニーファイ11:4参照)。ニーファイはこのように記しました。「わたしたちはキリストを信じているが……確固としてキリストを待ち望む。この目的のために律法が与えられたからである。」(2ニーファイ25:24-25)アルマ書にはこのように書かれています。「彼らは……キリストの来臨を待ち望んでいた。彼らは、モーセの律法はキリストの来臨の予型であると考え[ていた]……モーセの律法は、キリストを信じる信仰を強めるのに役立った。」(アルマ25:15-16)

預言者ジョセフ・スミスはこう教えました。「主が昔の人々に御自身を現し、主に犠牲をささげるように命じられたときにはいつでも、人々は主が来られる時を信仰をもって待ち望むように、また罪の赦しを得させる贖罪の力に頼るように期待されました。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith, ジョセフ・フィールディング・スミス選[1976年])



預言者ジョセフ・スミスは教えました。

「あらゆるものを犠牲とすることを求めない宗教は、命と救いを得るために必要な信仰を人々に持たせることができないと、わたしたちはここで理解しようではないか。」

60-61;58ページも参照)

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)はあるとき、証を得ようと努力していた一人の若い男性に、イエス・キリストを通して救われるには努力と苦難を経験する必要があることについて次のように説明しました。キンボール大管長はわたしの友人に言いました。「人は犠牲と奉仕を通して主を知るようになるのです。」利己的な望みを犠牲にして、神と人々に奉仕を行うときに、わたしたちはいっそう神のような者となるのです。

十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はこのように教えています。

「わたしたちは現在も犠牲をささげるように命じられていますが、それは動物の血を流すことではありません。わたしたちがささげることのできる最大の犠牲は、自分自身をさらに神聖で聖い者にすることです。

これは神の戒めを守ることによってできることです。このようにして神の従順の律法と犠牲の律法は、あやなす糸のように互いにからみ合っています。こうした戒めに従う

とき何かすばらしいことが起きます。さらに神聖で聖くなり、主に似た者となるのです。」(「イヴからの教訓」『聖徒の道』1988年1月号, 96)

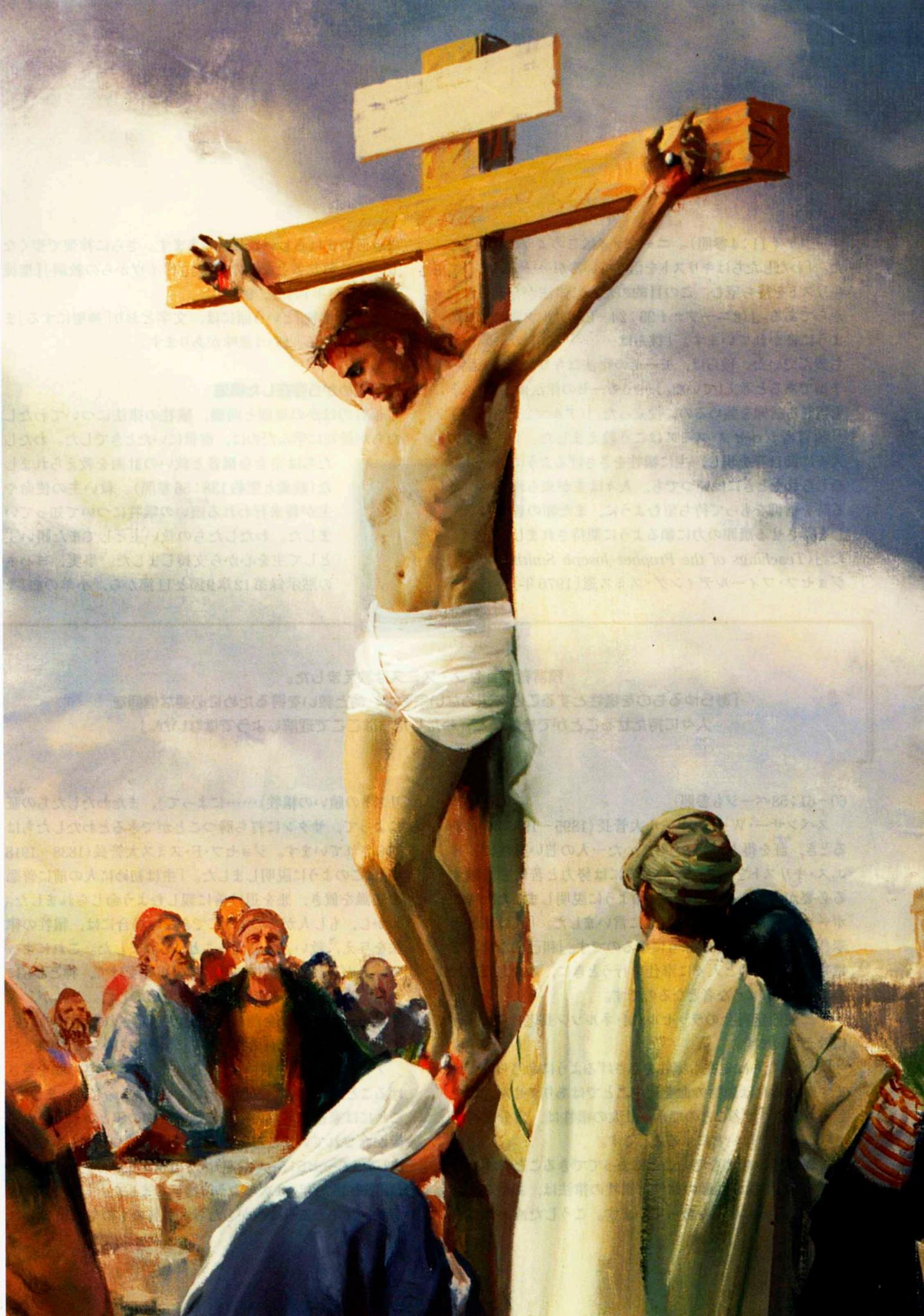
事実、「犠牲」という語には、文字どおり「神聖にする」または「聖くする」という意味があります。

### 時の初めから存在した律法

福音のほかの原則と同様、犠牲の律法についてわたしたちが最初に学んだのは、前世にいたときでした。わたしたちは完全な福音と救いの計画を教えられました(教義と聖約138:56参照)。救い主の使命や主が将来行われる贖いの犠牲について知っていました。わたしたちの救い主としてまた贖い主として主を心から支持しました。事実、ヨハネの黙示録第12章9節と11節から、「小羊の血(キ

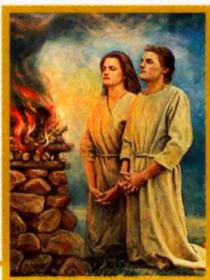
リストの贖いの犠牲)……によって」、またわたしたちの証によって、サタンに打ち勝つことができるとわたしたちは知らされています。ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)はこのように説明しました。「主は初めに人の前に善悪の知識を置き、悪を退け善に親しむよう命じられました。しかし、もし人がそのようにできない場合には、犠牲の律法を与え、救い主を備えることにされました。これによって、人が再び神の前に戻り、神の恵を受けて、神とともに永遠の命を受けられるようにするためでした。これが、人を地上に置く前に全能の神が選び制定された贖いの計画です。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』98)

アダムとエバは犠牲の律法を教えられ、ささげ物をささげることによってこの律法を実践するよう命じられました。これには家畜の群れの初子と畑の最初の実という二つの象徴が含まれていました。二人は疑問を持つこともなく従いました(モーセ5:5-6参照)。デビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)は次のように指摘しました。「この[律法]が意図するところは地がもたらす最良のものや家畜の群れ



の最良のものは自分のためではなく、神のために用いるべきであるということである。】(“The Atonement,” *Instructor*, 1959年3月号, 66) 家族に食べ物を確保するのが容易でなかった時代に、主を礼拝しようとする人々は自分たちの生活資源の中から最良のものを犠牲にすることを求められたのでした。それはアダムとエバにとってほんとうに信仰を試されることでしたが、二人は従いました。

アベル、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、そしてアダムからモーセに至る聖なる預言者は皆、同じような方法で主に犠牲をささげました。



犠牲の中で救い主と最も類似している点は、ささげ物そのものでした。以下の類似点に注目してみましょう。

第1に、動物はキリストのように、選ばれ、<sup>あんしゅ</sup>按手によって聖別されました(ヘブライ語のメシヤという称号とギリシヤ語のキリストという称号はともに、「聖別された者」を意味している)。第2に、動物はその命の血が流されました。第3に、動物は傷のないものでなければなりません。肉体上の欠点<sup>かんべき</sup>がまったくなく、完全で、無傷で、完璧でなければなりません。第4に、いけにえは清く、ふさわしいものでなければなりません。第5に、いけにえは家畜でなければなりません。つまり、

救い主によって究極の犠牲が成し遂げられてから、  
聖餐<sup>せいさん</sup>の儀式は犠牲の儀式に取って代わりました。

ある意味で、犠牲はささげ物からささげる人へと変わったのです。

## モーセの律法

モーセの時代のイスラエルの子らは不従順な性質があったため、犠牲の律法の実施方法が変更されました。勤めと儀式を毎日実行することを求める厳格な律法となりました。モーセの時代に、犠牲の律法によって求められるささげ物の数と種類が増やされました。モーセの律法の下で、ささげ物はおもに5種類あって、これらは義務のささげ物と自発のささげ物の二つの<sup>はんちゆう</sup>範疇に大別されました。義務と自発のささげ物の違いは<sup>じゆうぶん</sup>百分の一の律法と断食献金の律法の間にある違いにたとえることができます。

これらのささげ物に共通することが一つありました。モーセの律法の下で行われるすべての犠牲はキリストに照準が向けられていました。祭司はキリストのように、民と神の間の仲保者として行動しました。祭司はキリストのように、職を執行するための正しい血統を持っていなければなりません。ささげ物をささげる人はキリストのように、律法によって要求されるものを進んで犠牲にしました。



野生でなく、飼いならされ、人に役立つものでなければなりません(レビ1:2-3, 10; 22:21参照)。第6と7に、アダムによって実施された最初の犠牲とモーセの律法において最も一般的に実施されていた犠牲では、動物は初子<sup>あはれこ</sup>であって、雄でなければなりません(出エジプト12:5; レビ1:3; 22:18-25参照)。第8

に、穀物の犠牲はひいて粉にしてから、パンの原料としなければなりません。これは命のパンという主の称号を思い起こさせます(ヨハネ6:48参照)。第9に、ささげられた初穂はキリストが復活の初穂であられたことを思い起こさせます(1コリント15:20参照)。(『聖句ガイド』『犠牲』の項; ダニエル・H・ラドロー編, *Encyclopedia of Mormonism*, 全5巻(1992年)第3巻, 1248-1249も参照)

## 律法の成就

ささげ物をささげる方法とともにモーセに与えられた犠牲の律法は、新約の時代に入っても引き続き実施されてい



イエスはニファイ人の使徒たちに対して、もはや燔祭を受け入れないことを告げられました。  
弟子たちに「打ち碎かれた心と悔いる霊」をささげるようにと告げられたのです。  
主はわたしたちに動物や穀物ではなく、神の御心に添わないものをすべて捨てることを望んでおられます。

ました。新約聖書のイエス・キリストは旧約聖書のエホバでした。この御方は、そもそもモーセの律法をお与えになり、御自分が贖いの犠牲となられることを明確に示すためにその律法の詳細を規定されたのです。その後、キリストはその律法を成就する権能を持つ者としておいでになりました。キリストの最後の言葉、「すべてが終わった」は(ヨハネ19:30)、これが実行されたことを示しています。

アミュレクは律法の成就をこのように説明しました。

「それゆえ、大いなる最後の犠牲が必要である。そのときに、血を流すことは終わるであろう……。それで、モーセの律法が成就するのである。……」

見よ、これが律法の目的そのものであり、すべての部分がこの大いなる最後の犠牲を指し示している。そして、この大いなる最後の犠牲となるのが神の御子であるので、まことに、これは無限にして永遠の犠牲である。」(アルマ34:13-14)

さて、ここに非常に大切な真理があります。モーセの律法と犠牲の律法は同じものでないことを理解しなければな

りません。モーセの律法は成就しましたが、犠牲の律法の原則は引き続き、教会の教義に含まれています。犠牲の律法の第1の目的は依然として、わたしたちを試すこと、そしてキリストのもとへ来るよう助けることです。救い主によって究極の犠牲が成し遂げられてから、この律法の実施方法に二つの変更が加えられました。第1に、聖餐の儀式が犠牲の儀式に取って代わりました。第2に、この変更によって犠牲の焦点が人の家畜から人そのものに移りました。ある意味で、犠牲はささげ物からささげる人へと変わったのです。

動物の犠牲が聖餐に代えられたことをよく考えてみると、両者に強いつながりがあることに注目せざるを得ません。犠牲と聖餐はともに――

■ 個人の姿勢とふさわしさによって影響を受ける(アモス5:6-7, 9-10, 21-22; 3ニファイ18:27-29; モロナイ7:6-7参照)。

■ アロン神権において儀式を執行する祭司が執り行うよう定められている(教義と聖約13:1; 20:46参照)。

■ キリストに焦点が絞られている(ルカ22:19-20; アルマ34:13-14参照)。

■ キリストの肉と血を表す象徴を用いる(ルカ22:19-20; モーセ5:6-7参照)。

■ 神と聖約を交わし、新たに手段を人に提供する(レビ22:21; 教義と聖約20:77, 79参照)。

■ 安息日やそのほか特別な場合に定期的に執り行われる(レビ23:15; 教義と聖約59:9-13参照)。

■ 贖罪を象徴的に表す食事と関連を持っている(レビ7:16-18; マタイ26:26)。

■ 会員たちが自分自身のために何度もあずかる救いの儀式である。そのような救いの儀式はほかにはない。

■ 悔い改めの過程において大切な段階となる(レビ19:22; 3ニーファイ18:11; モーセ5:7-8参照)。

ジョセフ・F・スミス大管長は聖餐の目的について次のように述べました。「[聖餐の目的は]わたしたちを永遠の死から贖い、福音の力を通して再び命を与えてくださった神の御子をいつも覚えることです。キリストが地上に降臨される以前、……動物の命を犠牲にする別の儀式[血の犠牲]、すなわち時の中間に行われる大いなる犠牲の予型としての儀式によって、これを思い起こしていたのです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』102)

## 自身を犠牲としてささげる

キリストは地上での使命を果たされた後に、犠牲の律法を新しい段階にまで引き上げられました。この律法がどのような方法で継続されるかを説明するために、イエスはニーファイ人の使徒たちに対して、もはや燔祭を受け入れないことを告げられました。弟子たちに「打ち砕かれた心と悔いの霊」をささげるように告げられたのです(3ニーファイ9:19-20。教義と聖約59:8, 12も参照)。主はわたしたちに動物や穀物ではなく、神の御心に添わないものをすべて捨てることを望んでおられます。犠牲の律法に関して求められるこの一段と高度の実施方法は、わたしたちの心に焦点が当てられています。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老はこのように述べました。「個人の真の犠牲として、祭壇に動物をささげることはしません。代わ

りに、わたしたちの中の動物的な欲望を祭壇の上に置いて、焼き尽くすのです!」(『神の御心に添わないものをすべて拒みなさい』『聖徒の道』1995年7月号, 73)

わたしたちはどのようにして、象徴的に、今日の犠牲の祭壇に自分自身を乗せることを主に示すのでしょうか。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」(マタイ22:37)という第一の偉大な戒めを守ることによって主に示します。利己的な欲望に打ち勝ち、神を第一にして生活し、いかなる代価を支払っても神に仕えたと聖約するとき、わたしたちは犠牲の律法に従っているのです。

第一の偉大な戒めを守っていることを確認する最良の方法の一つは、第二の偉大な戒めを守ることです。主は自ら、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」と教えられました(マタイ25:40)。ベニヤミン王は「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもおさず、あなたがたの神のために務めるのである」と教えました(モーサヤ2:17)。わたしたちが主と隣人をどれほど愛しているかは、彼らのために何を進んで犠牲にするかによって測ることができます。犠牲とは純粋な愛の表れなのです。

ある原則を教えるのに、それを応用する方法を例示することによって最も高い効果を上げられる場合があります。わたし自身がよく知っている二つの例を紹介したいと思います。もちろん、多くの教会員はわたしと同じように、家族が経験した犠牲のすばらしい物語を分かち合うことができると思います。

わたしの曾祖父ヘンリー・バラードはイングランドで教会に入り、アメリカにやって来ました。ユタへ向かう旅の間、大変な窮乏生活を強いられました。同様に、曾祖母のマーガレット・マクニール・バラードも11歳のときに大平原を横断して、多くの苦難を経験しました。何年か前にわたしは家族と一緒に開拓者の歩んだ道を旅行して、忠実な人たちだったとはいえ曾祖父母はどのようにしてその旅を生き抜いたのだろうか、また彼らがどうしてあのようなすばらしいことを生涯を通じてなしえたのだろうかと思いました。彼らは御二方に仕えるためなら何でも進んで差し出し

ているうちに、神と聖なる御子を知るようになったに違いないのです。ヘンリー・バラードは40年に数か月足りない長い年月にわたってローガン第2ワードの監督を務めました。献身的な妻のマーガレットは30年間扶助協会の会長を務めました。

ささげる犠牲の形態が異なるとはいえ、わたしたちは忠実な先祖と同じように王国に対して献身する必要があります。今日の教会の中で、多くの模範を通して、福音のために犠牲を払うことがいまだに不可欠であること、また、キリストのもとに来るにはかつてと同じように今でも決意と献身が求められることを理解することができます。一例を挙げると、少し前に、わたしはボリビアのラパスで地区大会を管理する割り当てを受けました。遠くの小さな町や村からやって来た会員たちがいました。その集會に出席するために払った大きな犠牲と決意がうかがえました。神権指導者訓練集會の前にわたしは集まって来る兄弟たちを歓迎していました。ふと、一人の年配の兄弟を見ると、シャツの色が胸を境に上下違うことに気づきました。上が白で、胸から下が茶褐色に染まっていました。彼は同僚である3人のメルキゼデク神権者とともに長い時間旅をして会場にやって来ました。道のりのほとんどは徒歩でした。川を二つ渡って来ました。茶褐色の水が流れるその川に胸までつかって渡ったのでした。最後の2時間は、見知らぬ人のトラックに乗せてもらい、荷台に立ったまま揺られて来ました。

彼らの犠牲と犠牲に対する姿勢に触れたわたしは非常に謙遜けんそんになりました。これらの忠実な兄弟の一人はこう言いました。「バラード長老、あなたは主の使徒です。わたしたちはあなたから教えを受けるためなら、どんなことだってしますよ。」

わたしたちはステーキやワード、支部や地方部の指導者集會に出席するよう求められるときに同じような姿勢を持っているのでしょうか。

### 犠牲のもたらす祝福

わたしたちは「天の恵みのいけにえ」（訳注——「犠牲は天の恵みをもたらす」が直訳）と歌います（「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番）。これは正しい原則です。個人的な経験を紹介して説明したいと思います。

わたしは1958年にソルトレーク・シティー郊外の、あるワードの監督に召されました。当時、建物を建てる場合に、

地元の会員は費用の50パーセントを負担することを求められていました。建物を奉献する数週間前、人生で指導者として最も大切な経験をしました。わたしたちのワードは、いつも収支のやり繰りが大変な若い家族で構成されていました。しかし、建築費の地元負担金を納めるためにあと3万ドルの資金が必要でした。わたしは断食して祈り、この義務についてワードの会員たちにどう説明したらよいか知るために、御父に助けを願い求めました。もうすでに無理を言っていたからでした。

兄弟たちが神権集會に集まったとき、1919年1月7日に実の祖父であるメルビン・J・バラード長老が使徒に召された際に述べた証を読もうと思いつきました。1917年に、指針となる前例のない状況で主の助けを願い求めた経験の一部を引用しました。

「その晩、以後二度と忘れることのできないすばらしい示現と印象を受けたのです。わたしはこの場所、つまりこの部屋に連れて来られ、皆さんとともにここにいる自分の姿を見ました。さらにもう一つの特権が与えられると言われ、ある部屋へ通され、だれかに会うことになっていると告げられました。部屋に入ると、一段高い所に座っている御方がおられました。それはこれまでに会ったことのない栄光に満ちた御方でした。わたしは前の方へ導かれ、その御方に紹介されました。近づくと、その御方はにっこりと笑ってわたしの名前を呼び、両手を差し伸べられました。その御方はわたしを両手で抱き締め、口づけをして、わたしを祝福してくださいました。全身喜びに震えながら、わたしはその御方の足もとに身を投げ出しました。そして釘の跡のあるその御方の足に口づけをし、深い喜びに満たされ、まさしく天国にいるという気持ちを味わったのです。そのとき次のような強い思いがわき起こってきました。……ふさわしい生活を送り、主の御前みまへに行き、そのとき主みまへに会って感じた気持ちを再び味わえるように、現在、そして将来にわたってわたし自身のすべてをささげよう。」（メルビン・R・バラード、*Melvin J. Ballard: Crusader for Righteousness*〔1966年〕66）

主の御霊みたまがその日ワードの神権集會に出席していた忠実な兄弟たちの心を打ちました。皆、救い主、贖い主であるイエス・キリストを信じる信仰を増し加えるならば目標に到達できると確信しました。その日のうちに、次から次へと家族がわたしの事務所へやって来てお金を差し出し、わたしが監督としてこれまでに要請したよりもずっと多くの



一人の年配の兄弟のシャツは、胸から下が茶褐色に染まっていました。  
彼と3人の同僚は地区大会に出席するために長い時間旅をして来たのでした。道のりのほとんどは徒歩でした。  
胸まで水につかりながら川を二つ渡って来ました。

犠牲を払ってくれたのです。日曜日の夜8時までには、ワードの書記は3万ドルを幾らか超える金額の領収書を作成していました。

犠牲はまことにわたしたちのワードの会員たちに天の祝福をもたらしました。わたしはこれまでに、あれほど一致し、お互いを気遣い、関心を示す会員たちに囲まれて生活したことはありません。最大の犠牲を払うことによって、ワードの会員たちは愛と奉仕という福音の真の精神の下に、強く結ばれたのです。

永遠の命を確かなものにするほどの強い信仰をはぐくみたいと思うならば、今もなお犠牲は必要です。主と御父に対して愛を表すためには、主と人々に対してさらに霊的な献身と奉仕を行う必要があります。

### 豊かさという試練

生活における犠牲の律法について考えるに当たって、現在のわたしたちを取り巻く環境について考えてみたいと思います。現在わたしたちは途方もなく大きな祝福を与えら

れています。わたしたちは恩知らずにならないように注意しなければなりません。主はこのように言われました。「また、すべてのことの中に神の手を認めない者……のほかにも、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かって神の激しい怒りは燃えない。」(教義と聖約59:21)犠牲の律法の精神は感謝の気持ちを高めます。

わたしたちは大きな繁栄の時代に生きています。この時代について記す未来の歴史家は、開拓者の先祖が物質的迫害によって肉体に苦しみを被ったのと同じように、これらの繁栄がわたしたちの心を次々と破壊していったことを証明することでしょう。ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)はこのように警告しました。「わたしたちは貧困と迫害と敵対に耐えてきました。この世的な見方をすれば、わたしたちの多くはあらゆる物を失う苦しみを受けてきました。しかし、わたしたちは繁栄を得るとしたら、それに耐えられるでしょうか。進んで神に仕えるでしょうか。貧しかったときには持っていたものすべてを犠牲にすること

ができましたが、今そのときと同じように、何百万ドルの大金であっても進んで犠牲にするでしょうか。](Deseret News Weekly, 1870年10月26日付, 443)

モルモン書に見られる繁栄のサイクルを忘れないようにしなければなりません。人々は義のために祝福を受けて豊かになると、主を忘れました。現在、繁栄の時代に生きているわたしたちは、主を忘れることのないようにしなければなりません。犠牲の律法の精神を大切にして、たとえほかの人々ほど多くを持っていないとしても、受けているものについて常に主に感謝しましょう。

主はわたしたちにどの程度の犠牲を求めてお



めに御自身の命を差し出されたときに、御自身の使命において最も重要な場面を迎えられました。主は御自身を犠牲としてささげることによって、わたしたちの罪が赦されて、御父の前に戻るための道を備えてくださったのです。

歴史を通じて最も大切なこの出来事について、わたしは今日、特別な証人として立っています。あらゆるささげ物の中でこの最も聖い犠牲が果てしない力を持っていることについて証します。将来、現在の限りある理解力が広げられるときに、わたしたちは贖罪しよくざいの持つ深遠な力を完全に理解して、現在の状態ではなしえない方法で、救い主に対する感謝と尊敬と礼拝と愛で心が満たされることで

もしわたしが恐れていることがあるとするなら、

それはわたしたちが犠牲の原則を思い起こさなくなることです。もし、この教会の会員であることがきわめて安易簡単なことになるとしたら、証は表面的なものとなり、開拓者の先祖たちのように証の根が信仰の土壌の中に深く張り巡らされることはないでしょう。

られるかを聖典から見てみましょう。「自分自身を〔神〕へのささげ物としてささげ……なさい。」(オムナイ1:26。モーサヤ2:24も参照)「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。」(ローマ12:1)主は自ら、わたしたちが「また犠牲を払って、すなわち主なるわたしが命じるあらゆる犠牲を払って自分の聖約を進んで守〔る〕」べきであると言われました(教義と聖約97:8)。主がわたしたちに求めておられる犠牲は「生まれながらの人」と(モーサヤ3:19)、神の御心に添わないあらゆるものを完全に排除することです。わたしたちが自己を完全に主に従わせると、主は大きな変化を生じさせてくださり、わたしたちは新しい人になり、義とされ、聖められ、再び生まれ、自分の顔に神の面影を受けるのです(モーサヤ5:2; アルマ5:14; モーセ6:59-60参照)。

ほかのすべての事柄と同様に、救い主は犠牲について至高の模範を示しておられます。主はわたしたちを贖うた

しょう。

もしわたしが恐れていることがあるとするなら、それはわたしたちが犠牲の原則を思い起こさなくなることです。この原則は神の律法の一つです。わたしたちにはこれを理解して、実行する義務があります。もし、この教会の会員であることがきわめて安易簡単なことになるとしたら、証は表面的なものとなり、開拓者の先祖たちのように証の根が信仰の土壌の中に深く張り巡らされることはないでしょう。わたしたち一人一人が犠牲の律法を理解して、犠牲の律法が現在必要であることを確信できますように。わたしたちにとってこの律法を理解して、従うことは非常に大切です。□

1996年8月13日ブリガム・ヤング大学において、教会教育システム教育者に対して行われた講演より。

# 兄を赦す

ディオサフロール・テンブロール

11 歳のとき兄とけんかをしたわたしは、彼を赦そうとしませんでした。兄は3年にわたってわたしの赦しを得ようと努めました。わたしは兄を拒み続け、その努力を無視し続けたのです。常に罪悪感にさいなまれていたわたしは、まるで人生最大の重荷を負っているかのようなようでした。でもわがままでほんとうに高慢だったわたしには、自分の誤りを認められなかったのです。そんなわたしを兄がどれほど忍耐してくれたことか分かりません。

今14歳のわたしは、最近フィリピン・マニラ神殿へ死者のパペスマのため参入しようと準備する機会がありました。兄との関係を修復するうえで何かをしななければならないと気づいたわたしは、悔い改めて兄と仲直りをしたいと思いましたが、どうしたらよいか分かりませんでした。どうすれば「ごめんなさい」って言えるか毎晩考えました。でも恥ずかしくて言えなかったのです。幾晩も思案に暮れて、お祈りをした後、ついにわたしは1通の手紙を書こうと決心しました。そしてその手紙を兄の部屋に置いてから神殿に出かけました。

わたしはこれまでにないほど幸せな気持ちになりました。重荷はなくなり、喜びに満たされたのです。でももっと大切なことは、自分が主の宮に入るにふさわしいと感じたことです。聖霊の促しに耳を傾けていたら、ずっと早く兄を赦せていたことが分かりました。また長い間兄を赦そうとしなかったわたしを、兄と主が赦してくださるよう祈りました。

わたしは赦しの力と、イエス・キリストの贖罪しよくざいに家族に再び幸せをもたらす助けとなる力があることに感謝しています。□

ディオサフロール・テンブロール姉妹は、フィリピン・ドゥマゲテ地方部ドゥマゲテ第2支部の会員です。



# すぐりの木

「ほんとうにありがとうございます。あなたはわたしを愛したからこそ刈り込んでくださったのですね。」

十二使徒定員会

ヒュー・B・ブラウン (1883-1975年)



ヒュー・B・ブラウンは  
ユタ州グレンジャーに  
生まれ、カナダの  
アルバータで成長しました。  
1961年から1970年、  
彼は第9代大管長である  
デビッド・O・マッケイの  
副管長を務めました。  
教会の青少年への  
深い愛と理解を  
持つブラウン長老は  
力強い説教者であり  
教師でした。

皆 さんは時として「主は、わたしがどうあるべきかほんとうに御存じなのだろうか」、「わたしの方が主よりも、自分が何をなすべきか、そして何になるべきかよく知っているのではないだろうか」と思うことがあるかもしれません。わたしは今、一つの話をしたと思います。わたしは一つの出来事を通して、神がだれよりもよくわたしのことを御存じであることを学びました。

当時、わたしはカナダに住んでいました。そこで一つの農場を買いました。その農場は荒れていました。ある朝外に出てみると、すぐりの木が目に入りました。その木は6フィート(2メートル)以上の高さになり、裸の枝が林のように茂っていました。花もつけず一つの実も結んでいませんでした。カナダに来る前、わたしはソルトレークの果樹園で成長しました。それで、そのすぐりの木がどんな状態なのかよく分かりました。そこでわたしは剪定ばさみを持って来て、幹だけを残してすべて刈り込みました。日の光がちょうどさし込んできて、幹の切り口一つ一つには涙がたまっているように見えました。すぐりの木はまるで泣くようでした。わたしは純真な性格だったのかもしれませんが。(そしていまだに脱却できないでいます。)わたしはすぐりの木を眺め、ほほえんで言いました。「何をそんなに泣いているのかね。」すぐりの木が語っているのが聞こえるようでした。

「あなたはどのようにこのようなことをなさるのですか。わたしは十分生長してきたではありませんか。垣根の内側にある日よけの木や果樹と同じくらいに大きくなっていたのに、あなたはわたしを切ってしまいました。庭の木はみんな

なわたしを軽蔑するでしょう。もっと大きくなろうとしていたのに、できなかったのですから。どうしてあなたはこのようなことをわたしになさるのですか。わたしはあなたがこの庭師だと思っていたのに。」

わたしは、すぐりの木がそう言っているのが聞こえたような気がしました。そして、よくよく考えて答えました。「かわいいすぐりの木よ、わたしはこの庭師だ。わたしはおまえにどのような木になってほしいか知っている。それはおまえを果樹や木陰を作る木にするためではない。わたしはおまえにすぐりの木になってほしいのだ。いつかおまえがたくさん実をつけるとき、わたしに感謝して言うだろう。『ほんとうにありがとうございます。あなたはわたしを愛したからこそ刈り込んでくださったのですね。わたしは感謝して

います。』」

それから何年か後、わたしはイギリスに来ていました。カナダの陸軍の部隊で指揮を執っていたのです。英領カナダ陸軍の将校であったわたしは、自分の階級を誇りに思っていました。そのとき將軍になるチャンスがあり、わたしはすべての試験を受けました。そしてわたしには先任権がありました。英国陸軍のある將軍の死により、將軍に昇進する機会を得ることになりました。ロンドンからの電報には「明朝10時、出頭せよ」とあり、ターナー將軍の署名入りでした。

わたしはロンドンへ向かいました。わたしはきびきびとした歩調で歩き、將軍の部屋に入り、將軍にきちんと敬礼をしました。將軍は古參の將軍がいつもするような優越感をちらつかせるようなあいさつをしました。「腰かけなさい、



R. HULL O



ヒュー・B・ブラウンは、資格を備えていたにもかかわらず昇進できませんでした。ひどく失望した彼は、なぜそのような目に遭わなければならないか主に尋ねました。そのとき自分自身の声が聞こえたような気がしました。「わたしはこの庭師だ。」後に主が自分の人生を形作ってくださったので、はるかに祝福を受けたことにブラウン長老は気づきました。

ブラウン。」それから彼はこう言いました。「残念だが、將軍に任命することはできない。君は將軍になる十分な資格がある。試験はすべてパスしている。先任権もあり、優秀な將校であった。しかし任命することはできない。君はカナダに戻って、教育將校か輸送將校になるとよい。」10年間、わたしが希望し祈り求めていたものが、突然砕かれてしまいました。

そのとき別の部屋で電話が鳴り、彼は出て行きました。机の上に置いてあった書類が目に入りました。わたしの経歴書でした。下を見ると「この男はモルモンである」と書いてありました。当時わたしたちモルモンはあまり好まれていませんでした。それを見たとき、任命されなかった理由が分かりました。彼は戻って来て、言いました。「それだけだ、ブラウン。」わたしは彼にもう一度敬礼をしました。しかしきちんとではありませんでした。そして部屋を出ました。

汽車に乗り、120マイル(190キロ)ほど離れた町へと引き返しました。わたしの心はひどく傷つき苦々しさばかりが残っていました。車輪がレールの継ぎ目で鳴る響きは、まるでこう言っているかのようでした。「おまえは落伍者なのだ。」テントに着いたわたしは、あまりの苦々しさに、帽子を簡易ベッドの上に投げ捨てました。こぶしを天に向かって振り上げ、叫びました。「神よ、あなたはどのようにこのようなことをなさるのですか。あれほど努力してきたでは

ありませんか。できるはずだったのに、すべきはずだったのに怠ったことなど何もありません。それなのに、どうしてこのようなことをわたしになさるのですか。」苦々しさが胸が張り裂けそうでした。

そのときわたしは声を聞きました。その声がだれの声かすぐに分かりました。それはわたし自身の声でした。その声がささやきました。「わたしはこの庭師だ。わたしはおまえにどのような木になってほしいか知っている。」心の中からあの苦々しさが消えていきました。わたしはベッドのわきにひざまずき、心に抱いた不満と不敬の念について赦しを求めました。ひざまずいているとき近くのテントから主を賛美する歌声が響いてきました。大勢のモルモン少年たちが毎週火曜日の晩に集まっていたのです。わたしもいつも参加していました。わたしたちは床に座り、ミュージカルを開いていたのです。赦しを求めて、ひざまずいて祈っているとき、その少年たちの歌声を聞いたのです。

わが知らぬ道へと 呼ぶ声小さくも  
主によりこたえつつ み旨のまま行かん  
(『賛美歌』172番)

立ち上がったとき、わたしの心は謙遜な気持ちで満たされていきました。あれから約50年の歳月が過ぎました。今、わたしは主を仰いでこのように言うことができます。「ほんとうにありがとうございます。あなたはわたしを愛し、枝を払って刈り込んでくださったのですね。」当時、わたしが將軍にならなかったのは賢明なことでした。もし任命されていたら、わたしはカナダ西部方面の先任將軍として生涯十分な給料と家を支給され、退職後に恩給が支給されたでしょう。しかも6人の娘と2人の息子を陸軍兵舎で育てることになっていたでしょう。そしてきっと子どもたちは教会外の人と結婚していたでしょう。その結果、わたしが得るものは無に等しかったでしょう。現在でもわたしは大した者ではありません。しかし、わたしの望みどおりに主がかなえてくださっていたら、現在のようにはなっていないでしょう。

皆さんの多くは将来、落胆、失意、死別、敗北という非常に困難な問題にぶつかることでしょう。皆さんは試しに遣い、試みられなければなりません。わたしは皆さんに次のことを知ってほしいと思います。皆さんが当然受けるはずであるものを受けられないとき、このことを思い出してほしいのです。「神は庭師であり、皆さんにどのような者になってほしいかを御存じである。」神の御心に従ってください。神の祝福を受けるにふさわしくあってください。そうすれば祝福を受けることができるでしょう。□

『ニュー・エラ』(New Era)1973年1月号に掲載

## 聖文の研究を通してイエス・キリストに 対する証を増す

**以**下の文を訪問先の姉妹たちとともに読んで、質問や聖句、教会指導者の教えについて話し合ってください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

### 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

「わたしは皆さんに約束します。聖文を……読むなら、あなたの心に理解が注がれ温かい気持ちが宿るでしょう。ヨハネによる福音書を……読んでください。主御自身から皆さんに語りかけていただくのです。そうすれば、静かな確信をもって主の御言葉を聞くことができ、あら探しをする人々の言葉は無益なものとなるでしょう。新世界における聖典であるモルモン書も読んでください。モルモン書は「イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されること」(モルモン書タイトルページ)を証する書物としてもたらされました。」(Conference Report, 1966年4月, 87)

### ニーファイ第二書第33章4節

「また、主なる神がわたしの祈りを民の益となるように神聖なものとしてくださることを、わたしは知っている。また、弱点がありながらも書き記してきた言葉は、わたしの民のために力強いものとなるであろう。それは、この言葉が善を行うように説き勧め、また彼らに先祖のことを知らせ、イエスについて述べ、イエスを信じて最後まで堪え忍ぶように彼らに説き勧めるものだからである。」

### モルモン書ヤコブ書第4章6節

「わたしたちは預言者の書を調べている。また、このように証するものが数々あるので、わたしたちは希望を抱いており、わたしたちの信仰は揺るぎのないものになっている。実際にイエスの名によって命じれば、木々も山々も海の波も従うほどである。」

### 預言者 ジョセフ・スミス (1805-1844年)

「わたしが主イエスの名によって述べた証を思い出してください。……主がこれらの事柄をあなたの心に留めさせてくださるよう、わたしは祈っています。わたしは、主から与えられる知識を熱心に求めるすべての人に、主の御霊が証を述べてくださることを知っているからです。これらの事柄が古代の預言者たちと使徒たちの書き記してきた事柄と矛盾していないかどうか見るために、あなたは聖文を調べるようにしていただきたいと思います。」

(Teachings of the Prophet Joseph Smith, ジョセフ・フィールディング・スミス選 [1976年] 29)

### ヒラマン書第15章7節から8節

「彼らの多くは今真理を知っており、また聖文、まことに書き記されている聖なる預言者たちの預言を信じるようになっている。これらの預言は主を信じる信仰と悔い改めに彼らを導き、その信仰と悔い改めが彼らに心の変化をもたらしている。したがって、あなたが自身知っているとおおり、このようになった者は皆、信仰において、確固として堅固である。」

### 十二使徒定員会

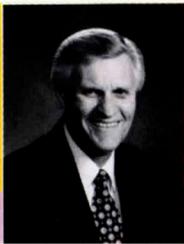
#### ニール・A・マックスウェル

「教会の青少年が聖文への愛を抱けるように励ますことは、決して消えることのないであろう炎をともすことです。こうして青少年は、両親や監督、アドバイザーからやむを得ず離れて行った後も、聖文とそれに関する理解をそれから先ずっと携えていくことができるのです。」('Unto the Rising Generation,' "Ensign," 1985年4月号, 10)

### 質問

- 聖文の研究によってイエス・キリストを信じるわたしたちの信仰はどのように強められるでしょうか。
- 定期的に聖文を研究したいという望みを自分自身や家族が、また、教えるように召された場合には青少年や子どもたちが強めるにはどうしたらよいでしょうか。□





# 列車に乗り続

自分自身の光をともすことを決して忘れないでください。

七十人 グレン・L・ベイス

絵/リチャード・ハル

子どものころのわたしは姉に頼りきりの生活をしていました。例えば、食べ物の好き嫌いが多かったわたしは、祖父母のところへ行くと、自分の口に合わないものを出されることがしょっちゅうありました。わたしはばつの悪い思いをするのを避けるために、嫌いな料理を盛った皿が回って来ると、姉の方を見て「姉さん、これほくが好きなもの？」と尋ねたものです。

それがよく知っている料理で、わたしが嫌いなものとき、「それは彼の好みじゃないわ」と姉は言いました。

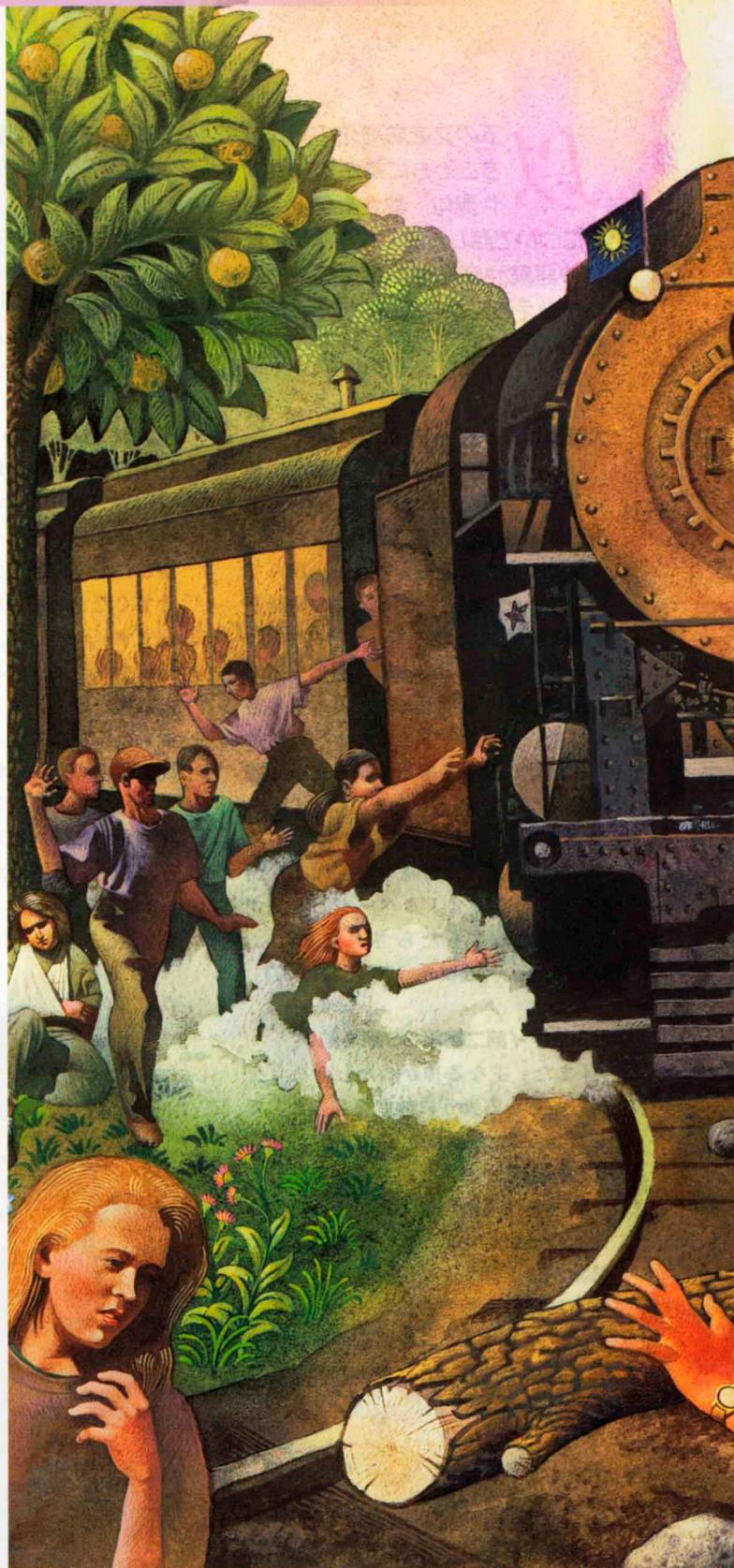
するとわたしはこう言うのです。「姉さんの言うとおりのおばあちゃん、ほく、これ好きじゃないの。」

食べたことがないものが出ると、姉は「ちょっと待って」と言ってから、自分で味見をし、わたしの口に合うかどうかを言うのが常でした。姉が、わたしの口に合わないと言ったら、どんなにおだてられてもわたしは食べませんでした。

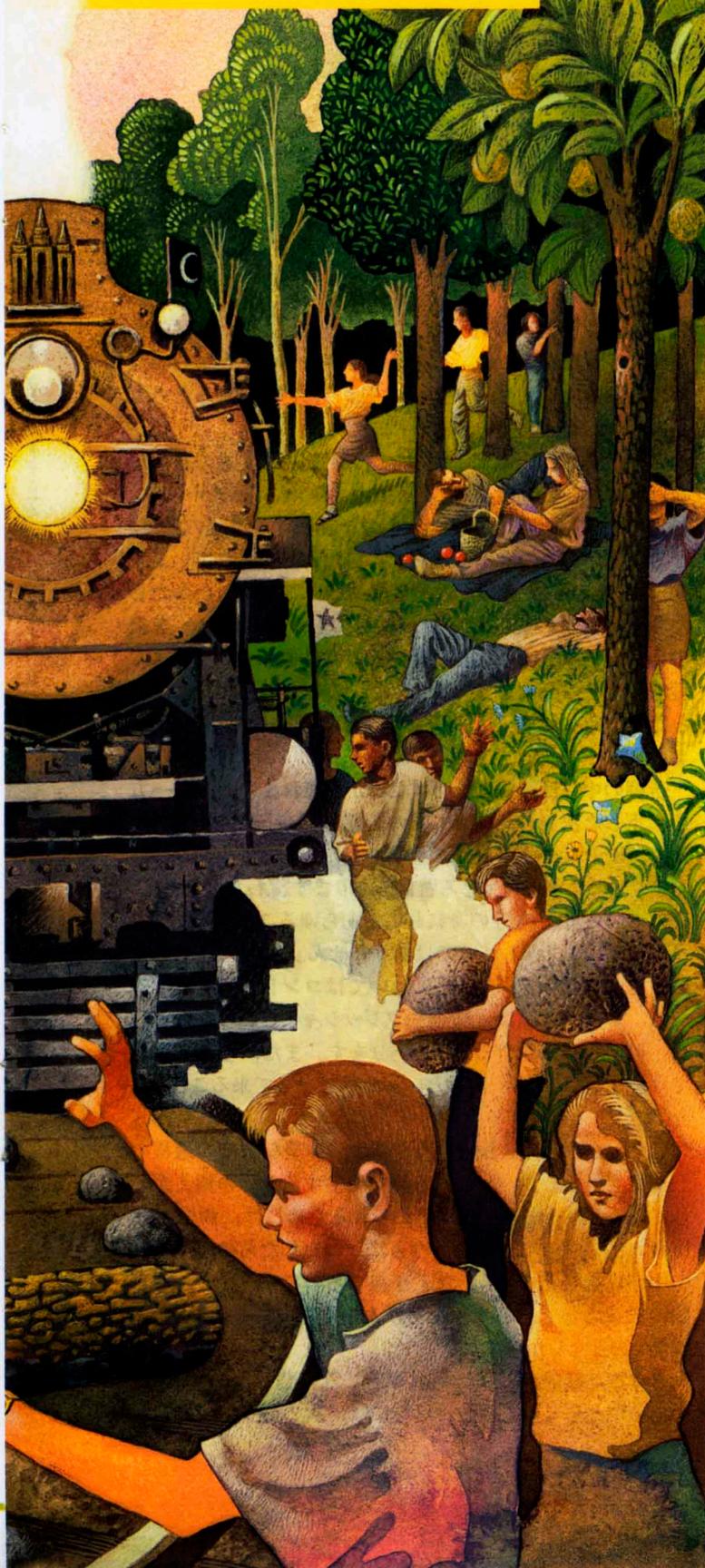
やがてわたしは自分の味覚を信じるようになり、単に「姉がそう言ったから」という理由だけで体に良い食べ物を避けるようなことはしなくなりました。

さて、今度はもっと重要な問題について話したいと思います。わたしたち皆にとって、人の証<sup>あかし</sup>ではなく、自分の証の実を味わう時が来ていると思います。わたしが今言っている証とは、単にこの教会が真実であるという証以上のものです。わたしたちは、自分は教会に対して忠実である、と言えるところまで成長しなければなりません。また個人的な啓示を受ける能力を増さなければなりません。ジョセフ・スミスが神とキリストにまみえたという証を得ることと、啓示を受ける自分自身の能力に霊的確信を持つということは、まったく別の事柄です。皆さんは自分で、啓示を受ける資格を授けられているのです。

わたしたちの多くは福音の祝福に対して感謝の心を忘れていています。わたしたちは、ゆっくりと規則正しく進む教会という列車の乗客にたとえられるのではないのでしょうか。時々窓の外を見て、「外は楽しそうだな、この列車には行動の自由がなさすぎる」と思うことがあります。そして列車から飛び降り、森へ行ってしまうの間、遊ぶのです。しかし遅かれ早かれ、わたしたちは、サタンが楽しく見せようとしていたものがほんとうはそれほど楽しくはないというこ



# 売ける



とに気づいたり、あるいは重傷を負ったりします。そして懸命になって線路に戻り、遠くまで進んでいる列車を見つけます。意を決して走り、ようやく追いつきます。そして息を切らしながら額の汗をぬぐい、悔い改めの機会を主に感謝するのです。

列車の車窓からは、外の世界で人々が、そして一部の教会員が、笑い、楽しそうにしている姿が見えます。彼らはわたしたちをおだてたりあざけったりして、列車から降りるようにそそのかします。中には線路に丸太や石を置いて、列車を脱線させようとする人さえいます。また、列車に寄り添うように走り、決して森に遊びに行くようには見えないのに、かといって列車に乗ろうともしない会員もいます。また列車よりもずっと先に走ろうとする人もいますが、多くの場合、彼らはわき道にそれてしまいます。

自分の好きな所で列車に乗り降りするぜいたくは、いづれ許されなくなることでしょう。列車はその速度を上げています。森も非常に危険になってきています。霧と闇が深くになってきています。

わたしたちを誹謗中傷する人々は、この列車を脱線させようとはしますが、それは「か弱い腕を伸べて、定められた水路を流れるミズーリ川をとどめようとするようなもの、あるいは逆流させようとするようなもの」です(教義と聖約 121:33)。しかし、それでも彼らは時として、一人、また一人と、首尾よく人々をなだめすかして、道からそれさせています。わたしたちはこれまで様々な預言の成就を見ましたが、「どうかわたしを再び乗客に加えてください」と言うためにさらにどのような大きな出来事が必要なのでしょうか。列車に乗り込み、目的地に着くまでそこにとどまるには、さらに何を見、体験しなければならないのでしょうか。今は霊的再生の時です。自分の内面の奥深くを見詰め、自分自身の光を再びと出す時なのです。

若い人々に特に申し上げたいと思います。皆さんが自分のエネルギーを将来の悔い改めではなく、今従順になるために使うなら、さらに安らかで幸福になっていくことができます。従順な人は、将来の問題に備えて基礎となるものを築いているのです。□

1992年10月の総大会説教から

# 苦闘の中から生ま

**主は、いつも近くにいてくださり、生涯のどんな暗黒の日であっても必ずわたしたちを導いてくださいます。主は改めてそのことを明らかにしておられます。**



七十人  
L・ライオネル・ケンドリック

人生はいつも順風満帆というわけにはいきません。しかし、そのような機会が与えられたら、それは理解できないほどの祝福ということになります。

わたしたちは、その生きる過程で、様々な苦闘に直面します。そして、その苦闘の多くは、わたしたちに悩みをもたらし、苦痛を経験させることとなります。個人的な苦闘の中で苦しんでいる人も数多くいるでしょうし、一方、自分の愛する人々が苦しんでいる様子を見て、それを苦しみと感じる人もいることでしょう。

苦闘の中から強さを得るためには、まず、救いの計画の中に含まれている数々の原則について、前向きな見方をしておく必要があります。わたしたちには一人一人に救い主がついていてくださり、必要とするときには、救い主を信頼し、救い主に頼ることができるということを認識する必要があります。また、苦闘するときに必要な強さを受けられるよう、主が与えてくださった様々な原則について学び、それに従って生きる必要があります。

## 前向きな物の見方

この地球は、わたしたち自身のふさわしさを証明し、主のもとに帰るための備えをする所です。主はこう説明しておられます。「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」(アブラハム 3:25)

なぜわたしたちがこの地上での経験を通じて試しを受けなければならないのか、その理由を主は次のように説明さ

れました。「わたしの民は、すべてのことにおいて試みを受けなければならない。それは彼らが、わたしが彼らのために持っている栄光……を受けるように備えられるためである。」(教義と聖約 136:31)

この計画の一部には、「すべての事物には反対のものがない」ということがあります(2ニーファイ 2:11)。わたしたちには、ふさわしさを証明する過程の中で、その反対のものの中から選択する自由が与えられています(2ニーファイ 2:27; 教義と聖約 29:35参照)。わたしたちは、前世の生活の中で、反対のものが存在し、選択の自由があるという原則を持つ救いの計画について、よく理解し、その計画を支持しました。この世の生涯では、闘ったり、時には苦しんだりするような経験をするを、よく承知していたのです。

苦闘の中には、決断を下すことが含まれます。その一方で、下した決断の結果としての苦闘も存在します。さらには、ほかの人が下す決断の影響をわたしたちの生活がまともに受けることから生じる苦闘もあります。わたしたちは、この世の生涯で自分の身に起こるあらゆることを、いつもコントロールできるわけではありません。しかし、それにどう対応するかということについてはコントロールが可能です。多くの苦闘は、問題やプレッシャーといった形で訪れ、時には痛みを伴うこともあります。また、場合によっては、誘惑、試練、苦難といった形でやって来ることがあります。

しかしながら、苦闘というものは、神聖な<sup>きよ</sup>聖めの過程の一部でもあります。救い主の前で生活するための備えができていくという段階にまで聖められるためには、軟弱で怠惰な方法は存在しません。さらに、わたしたちの担う重荷の中には祝福となるものさえ存在するのです。そうした苦闘の成果として、わたしたちの人格もさらにキリストのようなものとなるからです。

そうした経験が時には痛みや苦しみや悲しみを招くことがあったとしても、わたしたちには、次のような最終的な

# れる強さ

救い主は、無限の愛を抱いておられるがゆえに、わたしたちの罪の赦しを求めて神に嘆願しておられます。そして、もしわたしたちが真心から悔い改めるならば、その赦しを得ることができるのです。



確信が与えられています。「この地上で男女を問わず、人の受ける苦痛の中には、その苦痛を従容として受け入れ忍耐をもって対応するかぎり、相応の報いを伴わないものは決して存在しないのです。」(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編[1982年]168)

救い主は、預言者ジョセフ・スミス(1805-1844年)がリバティーの監獄で苦しんでいたときに、慰めと勧告を与え、重荷によく耐えれば必ず有益な成果と祝福が得られると説明し、次のようにおっしゃいました。「これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。」(教義と聖約 122:7)主はさらに続けてこう言われました。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境と苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。」(教義と聖約 121:7-8)

苦闘にどう対応するか、その方法は人によって様々です。敗北感にあえぎ、担うように召された重荷のために打ちのめされていると感じている人もいます。その問題の重さや敗北感から、他人にその責任を転嫁し始める人も数多くいます。そして、そのような人は主の勧告に従わなくなります。人生の旅路において、苦闘に直面したときに、安易な道を求め、頭の中を疑念で満たしつつ失望したり、時には絶望したりすることは、人の生まれ持った性癖です。

ニール・A・マックスウェル長老は、十二使徒補助であったとき、問題に対する対応に差があることをはっきりと認識して、次のように説明しています。「ある人々の信仰のろうそくを吹き消す苦難の風も、[ほかの人たち]には、信仰の炎を燃え立たせるだけなのです。」(「なぜ引き延ばすのか」『聖徒の道』1975年7月号, 185)

わたしたちは、啓示された永遠の原則に従うならば、苦闘の中から強さを得ることができます。そして、生涯で、重荷を担い、困難な問題に対処し、障害を克服するときには、祝福を受けることになるのです。もし必要な強さを獲得したいと望んでいるのなら、救い主を知り、救い主の勧告に従うようになる必要があります。

### 一人一人のための救い主

救い主は、わたしたち一人一人を個人的に知っておられ、わたしたちに何が必要かよく御存じで、わたしたちが必要とするときにはそばにいてくださるということを、折にふれて確認してくださっています。そしてこう教えておられます。「わたしはあなたがたに言う。わたしの目はあなたがたのうえにある。わたしはあなたがたの中にいるが、あな

たがわたしを見るができない。」(教義と聖約 38:7)十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、次のように説明しています。「救い主はわたしたちの中におられます。時には、個人的に、多くの場合、その僕たちを通じて、そしていつもその御霊によって、わたしたちの中におられるのです。」(The Lord's Way[1991年]14)

救い主は、過去のこと、現在のこと、そして将来のことをすべて御存じです。ヤコブは次のように教えています。「神はすべてのことを御存じであり、神の御存じでないことはない。」(2ニーファイ9:20)救い主は、わたしたちが求めるはるか以前からわたしたちに何が必要なのか、御存じなのです(3ニーファイ13:8 参照)。

救い主はまた、わたしたちが心に抱く思いや志をすべて御存じであり、わたしたちの永遠の霊のその最も深いところを見ておられるのです(アルマ18:32参照)。救い主はこう教えられました。「わたしはあなたがたの心にある事どもを知っている。」(エゼキエル11:5)

救い主はわたしたちが遭う誘惑も御存じです。救い主御自身も、わたしたちが受けるよりもはるかに大きな誘惑をお受けになったからです。聖文には、次のように書かれています。「独り子は数々の誘惑に遭われたが、それらを少しも心に留められなかった。」(教義と聖約20:22)主はわたしたちが誘惑に遭うときにいつでも救い出せるように、手を差し伸べておられます。パウロはこう書いています。「主ご自身、誘惑を受けて苦しまれたからこそ、誘惑の中にある者たちを助けることができるのである。」(欽定訳ヘブル2:18から和訳)また、ペテロはこう宣言しています。「主は、信心深い者を誘惑の中から救い出す方法を御存じなのである。」(欽定訳2ペテロ2:9から和訳)

救い主は「人の弱さを知って」おられます(教義と聖約62:1)。そうした弱さにもかかわらず、主はわたしたちを、理解できないほどの深さで愛してくださり、大いなる希望を与えてくださっています。「わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル 12:27)

わたしたちの思いや志、あるいは誘惑や弱さを御存じであるだけでなく、救い主は、わたしたちがこの世の生涯で行うこともすべて御存じです。救い主はこう言われました。「見よ、わたしの目は彼らのすべての行いを見て知っている。」(教義と聖約121:24。2ニーファイ27:27も参照)「わたしは、あなたのわざと、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐とを知っている。」(黙示2:19)



「もしその者があなたとわたしの前で罪を告白し、真心から悔い改めるならば、その者をあなたは赦しなさい。わたしもその者を赦そう。

そしてわたしは、民が悔い改める度に、わたしに対する彼らの過ちを赦そう。」(モーサヤ26:29-30)

わたしたちは、古代のエノスがしたように、主に近づく必要があります。エノスはこう言っています。「すると、わたしの霊は飢えを感じた。それで、わたしは造り主の前にひざまずき、自分自身のために熱烈な祈りと懇願をもって造り主に叫び求めた。わたしは一日中造り主に叫び求めた。また夜になっても、声が天に届くように、まだ大きな声を上げていた。」(エノス1:4)

罪によっては、赦しを受けるために、これほど集中した祈りが必要な場合もあるかもしれません。重大な罪の場合には監督に告白する必要があります。監督はイスラエルの一般判士だからです。

真の悔い改めと罪の赦しの結果は、平安と希望と喜び、そして良心に一点の曇りもないという思いです(モーサヤ 4:3参照)。アルマはその思いを次のような言葉で表現しています。

「さて見よ、このことを思ったとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなった。

おお、何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。」(アルマ36:19-20)

モルモンは、罪の赦しを受けるときに起きる過程について、次のように教えています。「罪の赦しは柔和で心のへりくだった状態を生じ、柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れがある。この慰め主は、希望と完全な愛を人の心に満たされる。そしてこの愛は、熱心に祈ることによって、すべての聖徒が神とともに住む終わりの日が来るまで続くのである。」(モロナイ8:26)

### 人を変える強さ

苦闘のさなかに強さを得られるよう、主が助けくださるのなら、わたしたちは主の勧告に従ってその教えを実践する必要があります。ここで言う実践の中には、主に心を向け、幾つかの福音の原則を実生活に応用することも含まれています。

主を信頼する。信頼するということは謙遜であるということでもあります。主に頼り、主の啓示された勧告に信頼を置くという、真心からへりくだった精神を持つことです。主は、次のような勧告をしておられます。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」(教義と聖約6:36)強さというのは、自分の思いではなく、主の御心みこころを求めるときにもたらされます。主はわたしたちに優しくこう教えておられます。「謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約112:10)主がその道です。そして、主を通じて

聖文は、主の勧告に従う者に対する力強い約束に満ちています。わたしたちは、このような力強い約束について深く考え、主を信じる信仰と主に寄せる信頼を深めていく必要があります。



のみ、成功に至ることができるのです。

主の勧告に従う。大いなる強さは、主の勧告に従うことから与えられます。ヤコブは次のように言っています。「主に助言しようとしなさい、主の手から助言を受けるようにしなさい。」(モルモン書ヤコブ4:10)また、アルマは次のように教えています。「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。」(アルマ37:37)

主は、祈りに対する答えの中で勧告をお与えになります。また、わたしたちが関心を持つことに対する答えを求めて聖文を探求するときに、勧告を下さいます。ニーファイは次のように書き残しています。「わたしは、キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」(2ニーファイ32:3)

主は、その選ばれた僕を通じて、勧告を下さいます(教義と聖約 1:38 参照)。靈感あふれる勧告は愛する者から来る場合もあります。苦闘しているときには、いつも物事ははっきり見えるわけでも、はっきりと考えられるわけでもありません。だからこそ、わたしたちは勧告に耳を傾ける必要があるのです。

自分の受ける勧告に従うためには勇気が必要です。主とその僕たちの助言、また愛する者の助言をないがしろにするなら、「必ず落ちて、公正な神の報復を自分に招く」と(教義と聖約 3:4) 主は警告されました。

主の約束について深く考える。聖文は、主の勧告に従う者に対する力強い約束に満ちています。わたしたちは、このような力強い約束について深く考え、主を信じる信仰と主に寄せる信頼を深めていく必要があります。主の約束は確かだからです。

リムハイ王を通じて、わたしたちは大いなる強さの約束を頂いています。「もしあなたがたが十分に固い決意をもって主に立ち返り、主に頼り、力のかぎり主に仕えるならば、もしあなたがたがこのようにするならば、主は御自分の意のまま、思いのままに、奴隷の状態から救い出してくださいであらう。」(モーサヤ7:33)

救い主はほかにも驚くほど力強い約束を与えてくださり、その約束によって、苦闘に挑むわたしたちは大いに強められることになります。

「元気を出しなさい。恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり、あなたがたの傍らに立つからである。」(教義と聖約68:6)

「そして、あなたがたが謙遜かつ忠実であり、わたしの名を呼ぶならば、見よ、わたしはあなたがたに勝利を与え

よう。

わたしはあなたがたに一つの約束を与える。あなたがたはこの度に限って、束縛から解放されるであらう。」(教義と聖約104:82-83)

主は、心の中に強さを得ることができるよう、ほかにも力強い原則を啓示してくださっています。そうした原則を実生活に応用するならば、わたしたちは、力と心の平安という祝福を受けることができるでしょう。

自分の選択に対して責任を取る。自分の選択とその結果をそのまま受け入れ、その責任を引き受けることは、自分を変えていく過程の中では、つらく、しかし避けることのできない段階です。主はこう説明しておられます。「あなたは自分の弱さを認めたので、強くされ……るであらう。」(エテル 12:37。教義と聖約 135:5も参照)偉大な計画の中で、主がお定めになったのは、「すべての人がわたしの与えた道徳的な選択の自由に応じて、……行動できるようにして、各々が裁きの日に自分自身の罪に対する責任を負うようにする」ことでした(教義と聖約 101:78)。

自分の行動の結果を他人のせいにしたり、自分の置かれている環境のせいにししたりしたら、わたしたちは決して人を変える強さを獲得することはできません。中には、自分の行動を正当化したり、言い逃れをしたりする性癖がある人が存在することは確かです。しかし、このような方法は、罪悪感から解放され、人生において適切な選択をしなかったときの敗北感から一時的に逃れるために用いられる、偽りのテクニックなのです。そのような方法を取っても、わたしたちの人格が損なわれ、悩みや問題が先送りされるだけです。

信仰を培う。信仰は、人生に必要な変化を生じる力を与えてくれます(2ニーファイ 1:10 参照)。もしわたしたちに十分な信仰がないのなら、自分の弱さを変えることも癒すこともできないのです(3ニーファイ 17:8 参照)。わたしたちの持つ弱さは、十分な信仰なくして、強さには変わることは決してありません。祈りの答えを得るためには信仰が必要なのです(教義と聖約 10:47 参照)。モロナイは次のように教えています。「見よ、あなたがたに言うが、何も疑わないうでキリストを信じる者には、キリストの名によって御父に求めるものは何でも与えられるであらう。」(モルモン 9:21)

自分に力がないと感じているときであっても、主の力を過小評価するようなことがあってはなりません。ニーファイは次のような言葉で、わたしたちに主の無限の力を思い起こさせようとしています。「まことに、人の子らが主を信じる信仰を働かせれば、主は彼らのために、御心のままに

何でもおできになります。そのことを忘れたのは、どういうわけですか。主に忠誠を尽くそうではありませんか。』(1ニーファイ7:12)

神はまことに奇跡の神です(2ニーファイ27:23参照)。モロナイは次のように警告しています。「もしも人の子の中にまったく信仰がなければ、神は人の子の中で何の奇跡も行おうことがおできにならない。』(エテル12:12)主は信仰に関して次のように警告しておられます。「信仰がなければ何も行えないことを覚えておきなさい。』(教義と聖約8:10)

義にかなった望みをはぐくむ。変えたいという強い動機は、心の望みから生じます。悔い改めようという深く神聖な望みがなければ、変化は起きません。アルマは、この力強い原則を、次のような言葉で教えています。「神が彼らの望むままにされることを知っているからである。』(アルマ29:4)

決意を強める。決意がなければ、望みも弱まり、消えていく傾向があります。決意をすることによって、わたしたちの望む適切な変化を起こす強さと力が与えられます。この決意は、古代のニーファイのようなものでなければなりません。ニーファイは、困難な任務が託されたとき、必ず成功するというキリストのような決意で、その要請にこたえました。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。』(1ニーファイ3:7。1ニーファイ3:15も参照)

断食し祈る。主はわたしたちに、「これから先、祈りと断食を続けなければならない」とお命じになりました(教義と聖約88:76)。苦闘や霊的な福利について断食し祈るとき、偉大な力が授けられます。

断食をするときには、ある目的をもって、祈りをささげながら、「神の栄光にひたすら目を向けて」行う必要があります(教義と聖約4:5)。自分の行動をきちんと律するように努め、思いを清くし、霊的な事柄について深く考えるようにします。断食の間は、聖文を研究することにより、強さを得ることもできます。また、解決策を求めて祈るときには、御霊の促しに耳を傾けるようにします。

わたしたちは、強さが得られるように、そして、自らの行いの束縛から逃れられるように、祈りの中で主に訴える必要があります(アルマ58:10; モルモン書ヤコブ3:1参照)。誘惑に対抗できる強さを求めて祈る必要があります。主は「あなたは誘惑に陥って自分の報いを失うことのないように、常に祈りなさい」と警告と勧告を与えておられます(教義と聖約31:12。教義と聖約61:39, 10:56も参照)。

わたしたちは赦しを求めて祈り、天の御父に対する愛と感謝とを伝えるために祈るべきです。

真心から悔い改め、祈り、断食するなら、その結果として、赦しが与えられます。そのときには、御霊の実を喜びと感ずることが出来ます(教義と聖約59:13参照)。わたしたちは聖められ(ヒラマン3:35参照)、永遠の命を受け継ぐ(オムナイ1:26参照)ことができるのです。

断食や祈りによって、思いや感情、激情、欲望といったものを制御することができるようになります。こうしたものや自分の肉体を、霊の支配下に置くことができるようになるのです。それに加えて、霊性が深まり、強さや力、謙遜さ、証が強まるのを実感できます。祈りに対する答えを得られるようになり、平安や慰めといった思いを享受することができるようになります。また、御霊を伴侶とする祝福にあずかります。さらに、愛が深まるのを感じます。邪悪な感情は、わたしたちの心から取り除かれます。誘惑に対抗する力や弱さを克服する力がさらに強まります。不必要な心配からは解放されます。信仰も希望も高まります。疑いや失意の念は一掃されます。

神権の祝福を思い出す。わたしたちは、苦闘しているときに、神権の祝福を求めることもできます。祝福が効果を発揮するためには、謙遜で、教えを受け入れやすい状態でいなければなりません。わたしたちは、祝福の中で宣言されるがままに、自分の意志よりも主の意志を喜んで優先させる必要があります。ここで受ける祝福は、主から頂く勧告の偉大な供給源となり得ます。心が啓発され、知識や理解力が高められます。主は、祝福を授ける神権者の宣言する言葉に関して、一つの力強い約束を与えてくださいました。「そして、何であろうと聖霊に感じて語ることは、……主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となり、主の声となり、救いを得させる神の力となる。』(教義と聖約68:4)

わたしたちは、与えられる勧告に完全な信仰を持ち、完璧な信頼を寄せる必要があります。そして、その勧告に従う勇気を持つ必要があります。わたしたちがそうするならば、苦闘を勝ち抜くためにさらに大きな力が与えられるでしょう。

祝福師の祝福について深く考える。わたしたちの受けた祝福師の祝福は、苦闘のさなかであって、力を増し加えるためのもう一つの源です。エズラ・タフト・ベンソン大管長は、救い主について次のように言いました。「イエスは、敵がわたしたち……に対してどのような策を用いてくるかも、前もってすべて御存じです。主はわたしたちの弱さも、強さも御存じです。祝福師の祝福を祈りの気持ちで注意

深く読むならば、自分にどのような力が授けられているかを個人的な啓示を通して知ることができます。」「[主の歩みにならって]『聖徒の道』1989年1月号、3参照)

ジェームズ・E・ファウスト副管長は、十二使徒定員会会員として仕えていた当時、次のように教えました。「[わたしたちの祝福師の祝福は]落胆したときには励まし、恐れがあるときには力づけ、悲しむときには慰め、不安に満たされたときは勇気を与え、霊が弱くなったときは奮い立たせてくれるのです。」「[祝福師の祝福]『聖徒の道』1983年6月号、29参照)

### 最後にお勧めしたいこと

もしわたしたちの苦闘が罪にかかわるものであったとしたら、次のようなアルマの熱心な訴えについて深く考えるとよいでしょう。

「さて、わたしの同胞よ、まことにわたしが心痛を感じるほどにひどく心配するとともに、心の底から願っていることがある。それは、あなたがたがわたしの言葉を聴き、罪を捨て、悔い改めの日を先に延ばすことのないようにということである。

しかし、あなたがたは主の御前にへりくだり、主の聖なる御名を呼び、自分が耐えられないような誘惑を受けないように、目を覚ましていて絶えず祈りなさい。そのようにして、聖なる御霊の導きを得て、謙遜、柔和、従順になり、忍耐強くなり、愛に富み、限りなく寛容になって、

さらに主を信じる信仰を持ち、永遠の命を得る希望を抱き、常に心の中に神の愛を持って、終わりの日に上げられて神の安息に入れる

ようにしてほしい。)(アルマ13:27-29)

罪の結果の苦闘ではない場合に関して言えば、救い主の次の言葉は、実に適切な勧告となります。「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。あなたがたがまっすぐに歩み、互いに交わした聖約を思い起こすならば、万事があなたがたの益となるようにともに働くであろう。)(教義と聖約 90:24)

聖文に書かれている勧告も教会の幹部から与えられる勧告も、すべて希望の言葉です。それは、救い主がわたしたちに対して抱いておられる愛を映し出すものであり、また、わたしたちに成功してほしいと望んでおられる救い主の願いを反映したもののなのです。

わたしたちが必要とするときに、それ以外の方法で強さを獲得することはできません。救い主の勧告に従うならば、どんな苦闘のさなかにおいても、わたしたちはきっと究極の強さを見つけ出すことでしょ。□

古代に救い主によって祝福を授けられた人々と同様、わたしたちも現在、神権の祝福を求めることができます。この祝福は、主から頂く勧告の偉大な供給源となり得ます。



# 「栄光を受けるように 備えられる」

**七**十人のL・ライオネル・ケンドリック長老はこのように説明しています。「わたしたちは、……生きる過程で、様々な苦闘に直面します。そして、その苦闘の多くは、わたしたちに悩みをもたらし、苦痛を経験させることとなります。」(本誌、28ページ参照)♥



どうしてこのようなことがあるのでしょうか。主は次のように言われています。「わたしの民は、すべてのことにおいて試みを受けなければならない。それは彼らが、わたしが彼らのために持っている栄光……を受けるように備えられるためである。」(教義

と聖約136：31) 試練がなければ、主がわたしたちに与えようと望んでおられる大いなる祝福を受ける備えをすることができません。ケンドリック長老は続けてこのように言っています。「苦闘というものは、神聖な聖めの過程の一部でもあります。救い主の前で生活するための備えができているという段階にまで聖められるためには、軟弱で怠惰な方法は存在しません。」♥

以下の記事は、人々がどのようにチャレンジを堪え忍び、克服したか、そしてその苦闘の結果、どのように強められ、聖められたかを示しています。

## 信仰の力

マリベル・エレラ・チャコーン

**数**年前、当時たった7歳だった娘は、首の前側がこぶのように大きいはれ上がりました。ジャネットを診ていた小児科医はそれが甲状腺腫こうじょうせんしゅであり、のどの内側も外側もはれが進行していて、非常に深刻な状態だと説明しました。医師は検査を施すために娘を病院に行かせました。恐らく手術が必要だろうとのことでした。

わたしたち家族は、すぐにジャネットの快復のために断食と祈りを始めま

した。わたしたちはすべてがうまくいくようにと祈りました。ジャネットは強い信仰を持っていて、よくこのように言いました。「ママ、神様が絶対にわたしを治してくださるから、手術をしなくて済むわ。」

何日かが過ぎ、コスタリカの首都サンホセの子ども病院に娘を連れて行く時が来ました。病院に向かう前に、夫とわたしの兄と弟が娘に神権の祝福を授けました。祝福の間、ジャネットは

自分の体内で大きな奇跡が起きているのを感じました。彼女は愛ある優しい手がのどに触れた気がしました。祝福が終わると彼女はこのように言いました。「ママ、もう大丈夫。入院も手術もしなくていいわ。」

**医師たちが娘を診終わると、娘の担当の小児科医はこのように言いました。「娘さんは大丈夫です。どこも悪くありません。」**





トレーニングは過酷で、数人の頭の切れる者たちは、近道をすれば走る時間を短縮できることに気づきました。その近道に「楽な帰り道」という呼び名まで付けました。

いつも感謝の念を抱きます。今でも優勝したときに表彰された金メダルを持っています。しかし、それ以上に重要なことは、そのときに楽な帰り道を決して選ぶまいと決心できたことです。

ウンベルト・エイティ・カワイはブラジル・サンパウロ・イピランガステーク、ピラマリアナワードの会員です。

## 家までの長い上り坂

メービス・グレース・ジョーンズ

わたしは1965年にイギリスで教会に入りましたが、父親の冷やかな反応やそのほかの圧力に遭い、次

第にあまり活発ではなくなりました。

当時は苦悩と不幸に満ちた時期でした。表面的には教会から離れている方が楽に思えました。そして今思えば、どうでもいいのだと自分に思い込ませようとして知恵の言葉を破り始めたのかもしれませんが。ついに、天の御父はもはやわたしなど愛しておられず、気に留めておられないのだと自分に言い聞かせるようになりました。そして、完全に拒絶され、孤立した気持ちになってしまいました。

会員たちはそれでも時々訪問してくれましたが、あまり助けにはなりませ

んでした。わたしは彼らを恨み、うらやみました。

すると、ある晩、一組の高齢の姉妹宣教師が訪ねて来ました。彼女たちが二度と来ないようにするために、ひどい目に遭わせようと決めていましたが、わたしの中の何かが彼女たちに引きつけられました。彼女たちはわたしに説教するために来たのでも、罪悪感を抱かせるために来たのでもなく、友人として来てくれたのです。

宣教師たちは何度も訪問しては、庭仕事を手伝い、古いたんすのペンを落として塗り直すのを助けてくれて、

病院の待合室で、わたしはジャネットに具合はどうかと尋ねました。

「とてもいいわ」と彼女は言い、自分に悪いところは何もないと再度主張しました。

夫とわたしは絶えず心の中で祈り、万事うまくいくという信仰を持ち続けようと思いました。一方で、ジャネットが癒されるのが主の御心にかなわないこともあり得るとも理解していました。そのような答えの場合でも、それを受け入れるだけの勇気と信仰を持てるようにと祈りました。

しばらくして、医師は娘を診療室へ呼び、診療を始めました。それからとても驚きながら、このように言いました。「申し訳ありませんが、ここで少しお待ちいただけますか。少々気になることがあるので、ほかの医師と連絡を取らねばなりません。」

医師は立ち去り、ほかの5人の小児科医を連れて戻って来ました。わたしは緊張のあまり震えていましたが、娘はうれしそうな表情で落ち着いていました。医師たちが娘を診終わると、娘の担当の小児科医はこのように言いました。「娘さんは大丈夫です。どこも悪くありません。何が起こったか知りませんが、今は何ともありません。どうぞ安心してお帰りください。」

娘は現在14歳ですが、とても健康で活発で、強い証を持っています。彼女の模範のおかげで、わたし自身の証も強められました。天のお父様がわたしたちの祈りを聞き、こたえてくださったことに感謝しています。医師たちは一連の出来事に混乱したようですが、わたしたちは何が起きたかを理解しており、生活において主の癒しの祝福があることに感謝しています。

マリベル・エレラ・チャコーンはコスタリカ・ナランホ地方部、サンカルロス支部の会員です。

## ボート部

ウンベルト・エイティ・カワイ

「それでは、我がボート部はここで終わってしまうのだろうか。決してそうではありません。これは伝統なのです。」その上級生は1年生たちを前に熱弁を振るいました。

わたしはその1年生の一人でした。ボート競技で何度も優勝していることで有名なサンパウロ大学の医学部に通い始めていたのです。ボート部員たちは新入部員の勧誘をするために教授に時間をもらっていたのです。卒業していった部員の穴を埋めてくれる新入生を見つけるためです。

熱烈な宣伝の結果、わたしたち新入生のうち30人が入部してみようと思いました。だれもボートをこいだ経験がありませんでした。コーチが何度もわたしたちに言っていたように、全全体がまったく運動に慣れていませんでした。コーチは軍隊にいたことがあり、わたしたちの貧弱な体に対する嫌悪感を隠そうともしませんでした。また、健康な体を維持するための研究をしている医学生が虚弱的な筋肉をしていることについて、皮肉めいた冗談をよく言いました。

トレーニングは過酷で、週6日間、朝5時から始まりました。トレーニング場へ行くバスに乗るためには、4時15分に目覚まし時計をセットしなければなりません。克己心のない者たちは長くは続かず、脱落していきましました。残ったわたしたちは、コーチが先輩部員にかかりっきりになっている

ことに気づきました。その一方で、わたしたち入部希望者は学校の周りを走るように命じられました。

サンパウロ大学の敷地は広大なので、走行距離はおよそ10キロに及び、わたしたちのような体力の持ち主には多大な努力を要しました。走り終えたときにはすっかり疲労こんぱいしてしまい、それを見たコーチは何も言わずにシャワー行きを命じました。

この日課は数週間にわたって続きました。次第に、数人の頭の切れる者たちは、近道をすれば走る時間を短縮できることに気づきました。学校の周囲を完全に走るのではなく、コースから外れて林を抜けるのでした。当然ながら、彼らはわたしたちよりも早くシャワーに行けることで自分たちを賢いと思っていました。その近道に「楽な帰り道」という呼び名まで付けました。

じきに、コーチは正式に入部できる学生たちの名前を挙げる準備が整ったと発表しました。驚いたことに、楽な帰り道を走っていた学生は一人も選ばれませんでした。コーチがどうやってそのことに気づいたのか、いまだになぞです。

わたしたちは、それぞれの人生の中でレースを走らなければなりません。時折、コースが過酷になることがありますが、わたしたちのことを熟知しているコーチがついていてくださいます。主はこのように約束されました。「忠実であって堪え忍ぶ者は、世に打ち勝つであろう。」(教義と聖約63:47)ある人々は規則を破ることによって有利になっているように思えますが、実際には戒めを守る努力は必ず報われるのです。

ボート部にいたころを思い返すと、

何よりもわたしの友人になってくれました。彼女たちが抱いていた、福音に従って生活することへの喜びが、我が家を満ちし、そのおかげでわたしは救い主の愛を感じ始めることができるようになりました。人を信頼することはわたしにとってとても難しいことでしたが、わたしは宣教師を信頼することができました。

瞬間に宣教師たちの伝道期間が終わり、彼女たちは帰還して行きました。わたしは後にアメリカに彼女たちを訪ねました。しかし、教会への反抗心がまだ心の中に燃えていたので、旅行中は教会の集会に出席しませんでした。

それどころか、二人の友人の目前でコーヒーを飲むことに楽しみを覚え、自分は教会

に戻すためのどんな働きも通じない「無感動人間」であることを証明しようとししました。しかし、すぐに自分を「無感動」と呼ぶには程遠いことが判明しました。

復活祭の前の土曜日、わたしたちはカリフォルニア州グレンデールにある記念公園を訪れ、救い主に関する絵画やそのほかの美術品を見て、深い感銘を受けました。贖い<sup>あがな</sup>が突然現実味を帯びてきたように思えました。翌週、わたしはユタ州南部に行きました。それは総大会の日曜日でした。一人になったときにテレビをつけると、トーマス・S・モンソン第一副管長が話していました。あの偉大な人の言葉に耳を傾けているうちに、罪悪感と羞恥心<sup>しやうち</sup>から来る涙を抑えることができませんで

した。

その日の午後、わたしは訪れていた国立公園の中にある一つの展望台まで上って行きました。歩きながら、自分の人生を見詰め直そうと努めました。所によって険しく、困難な上り道は、わたしの人生の試練によく似ていることに気づきました。前に進み続けて、頂上までたどり着いたおかげで、わたしは足もとに広がる創造の業の美しさを見下ろして、そうかいな気持ちを味わうことができました。

反抗心が完全になくなったわけではありませんでした。冷たい気持ちは溶け始めていました。わたしにとって新鮮で麗しく、なじみのない、愛という感情が芽生えてきました。そして、自分も愛されることができるのが分か

**上り道は、わたしの人生の試練によく似ていることに気づきました。前に進み続けたおかげで、足もとを見下ろして、そうかいな気持ちを味わうことができました。**



り始めました。真の悔い改めをするには、生活を変えなければならないことを承知していました。

帰宅したとき、わたしは別人になったような気持ちでいました。希望を感じ始め、導きと赦しを求めて祈るようになりました。真の悔い改めは一晩で終わるものではありません。赦されているのだと感じるまでに数か月かかりました。わたしはもう一度教会に行き始めようと決心しました。最も難しかったのは、教会の玄関まで行き、勇気を振り絞って中へ入ることでした。

救い主の贖いの意味について考えるとき、圧倒されるような思いになります。「ああ、わがため主は死にたもう、奇しき御業！」（「主イエズの愛に」『賛美歌』109番）また、あのときに二人の姉妹宣教師が現れて、愛と模範を示してくれたことのすばらしさについても考えます。わたしがついに神殿に参入して自分のエンダウメントを受けるとき、二人のうちの一人が付き添ってくれたとき、喜びでいっぱいになりました。

長年さまよった末、わたしはやっと家に帰ることができたのです。

メービス・グレース・ジョーンズはイギリス・ブリストルステーク、ブリストル第1ワードの会員です。

## 「見つけました！」

マドレン・クルツ

わたしと夫のロバートがフィリピンで専任宣教師として奉仕しているとき、カガヤン・デ・オロスステークセンターに家族歴史センターを設置し、訓練を行うためにカガヤン・デ・オロまで行きました。わたしたちはマレーバレー地方部の会員たちもそ

の集會に招きました。一部の地区にはフィリピン人以外の人が立ち入ることが禁じられていて、マレーバレーはそういった地区の一つでした。1年近くの間、マレーバレー地方部は家族歴史センターを設置するための機材を備えていたものの、それを設置するための訓練を受けられませんでした。

わたしたちはマレーバレー地方部の部長であるレイアードロ・ミオールに連絡し、彼とマレーバレーの聖徒たちがセミナーのためにカガヤン・デ・オロスステークセンターに来ることができるか尋ねました。山道を車で2時間以上走ることになるのですが、ミオール部長は喜んで出席すると答えました。夫はミオール部長に訓練セミナーの日時と場所を確認するための手紙を送りました。

セミナーの日、わたしが自分の担当部分の訓練を行っているとき、一人の男性が部屋に入って来て、夫と話し始めました。男性はポケットから手紙を取り出し、夫に読ませているようでした。二人が深刻なことについて話していることは明白でした。

訓練集會が終わった後、夫はその男性がマレーバレー地方部のミオール部長であること、そして部長と地方部の会員10人が朝8時からカガヤン・デ・オロスステークセンターで待っていたことを教えてくれました。ミオール部長が夫に見せていたのは、訓練集會の詳細を知らせた手紙でした。とても恥ずかしいことに、夫は場所を記す際にオロスステークセンターとするのを忘れてしまったのです。わたしたちは忠実な聖徒たちが何時間も訓練を待ち続けていたことを申し訳なく思い、カガヤン・デ・オロスステークセンターに行って訓

練集會を行うことを喜んで引き受けました。

わたしたちが到着したとき、聖徒たちは喜びました。祈りと賛美歌で開会してから、訓練を始めました。

マイクロフィルム読取機の使い方を見せ始めたとき、わたしは機械の中に1本のフィルムが残っていることに気づきました。そこで、デモンストレーションのために持参したフィルムは使わずに、すでに機械の中にあつたフィルムを使用しました。夫がつまみを回してフィルムを進め、わたしがフィルムのどこに名前が記載されているかを説明していると、だれかが静かにすすり泣く声が聞こえました。顔を上げると、ミオール部長が涙を流していることに気づきました。わたしはすぐに、何か気分を害するようなことを言ってしまったか尋ねました。

彼は涙ながらにこのように答えました。「見つけました！」彼はマイクロフィルム読取機のスクリーンに映った名前を指さし、そこにある名前、つまり自分の先祖の名前を見つけるために3年以上の間探し求め、祈ってきたことを話しました。そして今、その先祖の名前が、彼のいるはずのなかった建物の中の、彼の見るはずのなかったマイクロフィルム読取機に入っていたのです。

その日、わたしたちは「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられる」ことを思い起こしました（アルマ37：6）。□

マドレン・クルツは〔カナダ・〕アルバータ州フォートマクラウドステーク、フォートマクラウド第2ワードの会員です。

# イエス・キリスト への信仰



**わ**たしたちは幾つかの目的を果たすためにこの世に来ました。最も大切な目的として、肉体を得ること、信仰をもってイエス・キリストを受け入れ、従うことがあります。この世に生を受けた人は皆肉体を得ます。しかし残念ながら、すべての人が信仰をもってイエス・キリストを受け入れ、従うわけではありません。信仰はなくてはならないものですが、それを養うことは、個人に任されています。「イエス・キリストが救い主であられると信じてはいるが、主への信仰を持つとはどういう意味なのかあまりよく分からない」と思っている人もいますかもしれません。

使徒パウロは「信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認する〔または確信する〕ことである」と教えました(ヘブル11:1。ジョセフ・スミス訳ヘブル11:1〔英文〕参照)。この定義を分かりやすく説明してくれる実話があります。

何年も前のことですが、ある若い母親が妊娠初期の段階で問題があることを知りました。流産を恐れた彼女は、夫に神権の祝福を授けてくれるよう求めました。夫は祝福の中で、自分の望みではなく主の望みを言葉にするべきで

あると知っていました。ひざまずき、熱心に祈り、主の御心を求めました。しばらくして、この若い父親は子どもが生きるとい、はっきりとした霊的な確信を得ました。

祝福が授けられた後も、妊娠に伴う問題は消えませんでした。実際、子どもは3か月も早く生まれました。出産後最初の夜、医療専門家が未発達な肺から酸素を血管に送り込もうと懸命に努力を繰り返しましたが、まるで効果がないようでした。この様子を見たその若い父親は、以前受けた霊的な確信に思いを巡らしました。再び祈り、もう一度子どもが助かるというはっきりとした確信を得ました。医師がもう絶望的であると告げたときも、父親は心の中で言いました。「御霊がわたしに何を告げたかわたしは知っている。わたしは主を信頼する。」

間もなく、医師団は最後の手立てと思われる手段を取りました。それが効を奏したとき、父親は驚きませんでした。その後も厳しい状況は何か月も続きました。そして子どもが健康になり、普通の生活を送れるようになるということに関して、医療専門家らは何度も悲観的な見解を示しました。しかし今ではその子どもは健康で活発な12歳の少年

になり、最近執事に召されたのです。

その若い父親は、息子が回復するという確信を神から得ていたので、そのとおりになるという信仰がありました。将来が見通せて、確かな知識として聖餐を配る健康な12歳の少年が見えていたわけではありません。しかし御霊が告げたことが何であるか知っていました。それだけで十分な証拠でした。

このような主からの確信に基づいて行動するならば、わたしたちは信仰を行使していることになり、そしてその結果、信仰が強まるのです。そうなれば、主からより大きな確信を得ることができ、より大きな主への信仰を行使することができるのです。ヤコブは次のように説明しています。ヤコブ自身や過去の神の預言者は「多くの啓示」と「預言の霊」を受けていて、彼らの信仰は「揺るぎないものになっている。実際にイエスの名によって命じれば、木々も山々も海の波も従うほどである」(モルモン書ヤコブ4:6)。

わたしたちにも同じ原則が当てはまります。戒めおよび、主の預言者、教会の指導者、または両親を通して主からの勧告を受ければ、聖霊を通してその指示が確かに主から与えられているという証を得ることができます。そして信



# の 大

仰をもってその確信に基づいて行動すれば、主にわたしたちやほかの人々を祝福していただけるようになるのです。

御父はわたしたちに山々を動かすようにはお求めにならないかもしれませんが、以下のようなことはお尋ねになるでしょう。

「祈りの答えを受けるだけの信仰がありますか？」

「<sup>じゅうぶん</sup>什分の一をささげるだけの信仰がありますか？」

「わたしがあなたに、永遠の家族とともに築くことのできる相手を与えようとしていると信じ、あなたを神殿に連れて行くことのできる人以外とはデートしないだけの信仰がありますか？」

主がわたしたちにお求めになることの中で恐らく最も大切なことは、生活の中でどれだけ進んで主イエス・キリストを受け入れ、自分が変わろうとするときに主の助けをどれだけ進んで受け入れるかに関することです。

「<sup>ゆる</sup>罪を赦していただき、心を変えていただけるよう嘆願するだけの主への信仰がありますか？」

「戒めを守り、わたしが求めたように歩んでいくだけの信仰がありますか？」 □



# 次の一步を踏み出す

確かに車いすは必要かもしれませんが、けれどデビッド・イーブズは、宣教師としての奉仕など、夢を実現するために前進しています。

ジェーン・フォーズグレン

デビッド・イーブズは、人生は非常に急激に変化することがあるということに気づきました。それは1997年9月20日、ユタ州南部で友人たちとオフロード仕様の車に乗っていたときのことでした。

「わたしたちは地面の出っ張った所にぶつかって、コントロールを失ってしまいました」とデビッドは説明します。「空中を飛んでいたことを覚えています。次に耐え難い痛みで目を覚めました。友人たちがわたしを見下ろしているのに気づき、足の感覚がないと訴えました。今までと同じ状態には決して戻らないだろうと悟りました。」

デビッドはソルトレーク・シティーの病院へ空輸され、8時間にわたる手術を受けました。そしてその後3か月にわたって生きるための闘いが続きました。

デビッドはユタ州ラバーキンステーク、ラバーキン第2ワードの会員で、スポーツの花形選手でしたが、今や新しい試練に直面していました。食べ物を吐かずにいることも、話すこともできず、激痛に悩まされました。2か月の間に体重は78キロから45キロに激減しました。

毎日の生活は昼も夜も、長く耐え難いものでした。「痛み止めを使いたくなかったのですが、痛みは耐えられないほどひどいものでした。」デビッドは回想します。「モルモン書を読んでほしいと父に頼みました。父に読んでもらったとき、奇跡が起きました。モルモン書の御霊が深い平安をもたらし、わたしは

休息を取ることができたのです。」

けれどデビッドの症状はよくなりませんでした。ジル・イーブズは息子の体重の減少が著しいことに不安を感じ始めました。靈感を求めて祈ったとき、専門医を受診するようにとの導きを受けました。新しい医師はデビッドの食道の穴を治療しました。2週間後デビッドは退院して家に帰りました。



デビッドの父親レーモンドは、目標達成のための二つの重要な秘訣を息子に教えました。それは全力を尽くすことと決してあきらめないことでした。全力を尽くすことが習慣になっていたデビッドが、退院後翌週の月曜日に学校へ復帰したことは驚くに当たらないことでした。

「わたしは体にギブス、首には固定器具を付けた状態でした」とデビッドは言います。「必ず回復するという絶対的な信仰がありましたが、自分が学校の800人の生徒たちとはまったく違う存在だということにすぐに気づきました。けれどつらかった最初の1週間が過ぎると、や

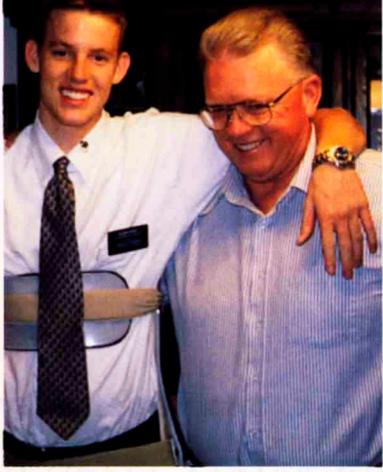
りたいことは何でもできるということが分かりました。ただ、今までと違う方法を見つける必要があったのです。」

数か月後、兄が生徒会長に立候補してはどうかとデビッドに提案しました。デビッドは再び全力を尽くしました。そしてスポーツの花形選手から校内のリーダーへと転身したのです。「その年はすばらしい1年でした」とデビッドは言います。「その1年は、伝道に出るための完全な準備期間となりました。」

伝道に出るという固い決心があるため、デビッドは理学療法に熱心に取り組みました。中には、デビッドは車いすで生活しているので伝道に出る必要はないと言う友人もいましたが、デビッドは彼らの言葉を受け入れませんでした。「わたしが伝道に出ることを主が望んでおられると知っていたのです。それで伝道に出られるように、すべてのことを自分の力でやろうと決心しました」とデビッドは言います。

すぐに、デビッドは一人でシャワーを使い、服を着られるようになりました。また車を運転して、車いすでどこへも行けるようになりました。実は主治医から不可能だと言われていましたが、デビッドは固定器具を付け、松葉杖をつけて両肩を使って体を前方へ押し出しながら歩くことを学びました。バランス感覚を失い、足もとの地面を感じ取ることのできない人にとって、これは信じ難い離れ業でした。

高校を卒業したデビッドは、19歳に



長期にわたる入院（左）の末、デビッド・イーブズは、彼の偉大な支援者である母親（右）と父親（上）からのほんの少しの手助けがあれば、必要なことはほとんど何でもできるということ学びました。





イーブズ長老は、午前中はデゼルト産業で、職業技能を獲得し向上させるために学んでいる研修生を教えました。

## 専任宣教師としての召し以外の選択肢

**医**学的な理由のために、専任宣教師としての召しを受けられない若い人たちがいます。そのような人たちも、ほかの人からの介助を必要としなければ、地元で教会奉仕宣教師として奉仕する機会が得られるかもしれません。

■ 奉仕伝道を希望する人は、両親の承諾を得た後に、教会奉仕宣教師として奉仕したいことについて監督または支部長と話し合います。

■ 監督または支部長は、奉仕伝道の務めがその人に適切であると感じたならば、その人が特技を生かして奉仕できる任務を探すことができます。例えば、地域の家族歴史センター、雇用センター、奉仕センター、インスティテュートで働くように召されたり、教会の建物や敷地の管理維持の手伝い、援助の必要な地域の会員を支援する割り当てが与えられたりするかもしれません。学校の勉強を個人的に指導したり読み方を教えたりする割り当てが与えられるかもしれません。また、地域の奉仕活動組織で奉仕するよう召されるかもしれません。

■ 監督または支部長は、奉仕伝道を希望する本人およびその両親と相談し、教会奉仕宣教師としての召しの期間を決定します。

■ ステーク会長または地方部長は、伝道の召しと解任を行います。また、個々の奉仕宣教師が専任宣教師の規則の中のどの規則が自分に適合するか決定する際に助言します。

■ 教会奉仕宣教師は、神権指導者と定期的に連絡を取らなければなりません。また、神権指導者は、奉仕宣教師の仕事を監督する人々とも、定期的に連絡を取らなければなりません。

■ 可能な場合、奉仕宣教師は専任宣教師と一緒に求道者や改宗者に福音を教えることもできます。□

なって、宣教師推薦書を提出するのが待ち切れませんでした。主治医は、デビッドが介助をまったく必要としないことを示す証明書を添付しました。

しかし、希望したとおりには事は運びませんでした。デビッドが受け取った手紙は伝道への召しではなく、専任宣教師として奉仕することはできないという知らせでした。

「愕然<sup>がくぜん</sup>としました」とデビッドは言います。「ほんとうに熱心に頑張ってきたというのに、ほんの数秒のうちに、すべてを失ったかのように感じました。」けれどデビッドはあきらめませんでした。教会本部での面接の際に、デビッドのための別の召しがあると知らされたのです。

1週間後デビッドは、ユタ州セントジョージにあるデゼルト産業の福祉宣教師に召されました。そこは自宅で両親と生活しながら通うことができる場所でした。デビッドはそのような召しを受け入れる心の準備ができていませんでした。「ほんとうのことを言うと、わたしはまたがっかりしました」とデビッドは言います。けれどデビッドは初等協会の歌「主の御言葉行いましょう」(「ニーファイの勇氣」『子供の歌集』64-65)の歌詞について考え続けました。そして教会が運営する中古衣料店兼職業訓練施設であるデゼルト産業で自分が奉仕することを、主が望んでおられるとデビッドは理解しました。デビッドはデゼルト産業で、職業技能を身に付け、技術を向上させようと努力している人々を助けました。

「今になって振り返ってみて、自分がいかに愚かだったかが分かります。この召しがどんな祝福であるかをこれっぽっちも理解していなかったのですから」とデビッドは言います。

デビッド自身が祝福を受けただけで

なく、彼のユーモアのセンスと肯定的な態度は、デゼレト産業の自立プログラムと伝道プログラムとともに学ぶ250人を超える人々の心を打ちました。「嫌なことがあった日はいつでも、イーブズ長老を捜しに行きます」と、研修生のデビー・ケリーは言います。「車いすで生活しているにもかかわらず、イーブズ長老がどんなに幸せで前向きな態度でいるかを見ると、『わたしたちは一体何を不満に思っているのだろうか』と自問したものです。」

イーブズ長老は宣教師として、午前中は高校の卒業証書または同等の証書を取得するために勉強する研修生を指導しました。「イーブズ長老がいなければ数学で合格点を取ることはできなかったでしょう。」ひとり親として子どもを育てながら職業技能向上のために学ぶブランディーという名の女性は言います。

けれどデビッドの指導は教育的な技能を教えることだけにとどまりませんでした。彼はまた研修生の一人であるリタ・ロバーツに、宣教師として福音を教えていました。「イーブズ長老は着実に福音が理解できるように助けてくれました」とリタは言います。「そしてどんなことでもイーブズ長老を頼りにできるということが分かりました。イーブズ長老は長老の家族と一緒に、わたしの引っ越しを2回も手伝ってくれました。教室だけでなくどこにおいても、彼以上にすばらしい人を見つけることはできないでしょう。イーブズ長老はたぐいまれな存在です。」

スタッフの指導だけでなく、デビッドはデゼレト産業でディポーショナルの責任を何度も果たしました。

「その日はイーブズ長老がディポーショナルで話をする番でした」とデゼレト産業の福祉宣教師であるスコット姉妹は言います。「イーブズ長老以外は皆、



### イーブズ長老は、夜は専任宣教師とともに働きました。ある若い女性はイーブズ長老にバプテスマを施してほしいと頼みました。

集まっていました。数分後彼は固定器具を付けて歩いてやって来ました。イーブズ長老が、逆境に打ち勝って目標を達成するために神に手を取っていただきながら働くということについて話をしたとき、そこにいただれも目が潤まさせていました。」

デビッドはデゼレト産業での奉仕を愛していましたが、宣教師としての彼の努力はそれだけにとどまりませんでした。夜は専任宣教師と一緒に福音を教えました。これらの努力によって数人の改宗者が誕生しました。その中の一人の若い女性は、デビッドにバプテスマを施してほしいと頼みました。

「彼女がわたしにバプテスマを頼むに足る信仰を持ち合わせているなら、その方法を見つけるだけの信仰がわたしにもあるはずだと考えました」とイーブズ長老は回想します。そして実に2000年1月1日、イーブズ長老はバプテスマフォントに置かれた自分用のシャワーいすに腰かけ、バプテスマの祈りをささげ、ロビン・ラスムッセンを水に沈め、バプテスマを施したのです。その日に感じた御霊をだれも決して忘れることはないでしょう。

デビッドのいる所にはどこでも、希望と平安がもたらされます。また彼のユーモアのセンスは人々の気持ちを和ませます。「わたしが冗談を言うのを聞くと、

一緒にいる人々はくつろいだ気分になります」とデビッドは説明します。「福音とたくさんの祝福のおかげでわたしが幸せであることを理解すると、人々の車いすに対する気遣いは消え、わたしを一人の人間として見てくれるようになります。」

また、祝福を数えることに、イーブズ長老は集中して取り組んでいます。「伝道によって学んだ最も大きなことは、自分がいかに祝福されているかということです。デゼレト産業で人々の直面している問題を見るとき、自分は彼らのようにできるだろうかと考えました。わたしには愛してくれる家族があり、福音が与えられ、伝道に出て主に奉仕する機会が与えられました。これ以上望むことは何もありません」とデビッドは言います。

デビッドは現在全額支給の奨学金で大学へ通い、固定器具を付けて自転車に乗る訓練を行っています。「準備ができて再び歩く日のために、固定器具を付けて足を伸ばす訓練を毎日行っています。」そう語るデビッドの口調には、<sup>あかし</sup>証を述べるときと同じ確信があります。

「わたしは教義と聖約の121章7節と8節が好きです。『息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。』ジョセフ・スミスが回復の預言者であることを知っています。またイエス・キリストがわたしたちの救い主であり、わたしたち一人一人を愛しておられることを知っています。わたしたちは逆境に直面するとき、独りぼっちだと感じることはありませんが、実際にはそうではありません。主はいつもわたしたちのそばにおられるのです。このことを知っていれば、すべての問題は解決します。」□

# 『リアホナ』 2002年3月号 の活用法

## 話し合いのためのアイデア

■「聖き御霊との交わり」2ページ——ジェームズ・E・ファウスト副管長が提示している、啓示や靈感を受けるための指針について話し合ってください。あなたとあなたの家族はどのようにすれば、これらの指針に従うことによって得られる利益を最大限に受けることができますか。

■「犠牲の律法」10ページ——M・ラッセル・バラード長老はこのように教えています。「わたしたちが主と隣人をどれほど愛しているかは、彼らのために何を進んで犠牲にするかによって測ることができます。」主、およびほかの人々のためにあなたが払っている犠牲について熟考するとき、自分自身についてどのようなことがわかりますか。

■「列車に乗り続ける」26ページ——グレン・L・ベイス長老の「若い人々に特に申し上げたいと思います」の部分について話し合ってください。この勧告を基に、あなたはエネルギーを使う対象をどのように変えることができますか。

■「わたしのようでなければならない」F16ページ——スペンサー・J・コンデニー長老は次のように語っています。「キリストのようになる〔ために、〕主が行われたようにゆるすことを学ばなければなりません。」自分を傷つけた人に対して赦しの心を示すことができますか。

フォトイラストレーション/クレーグ・ダイヤモンド

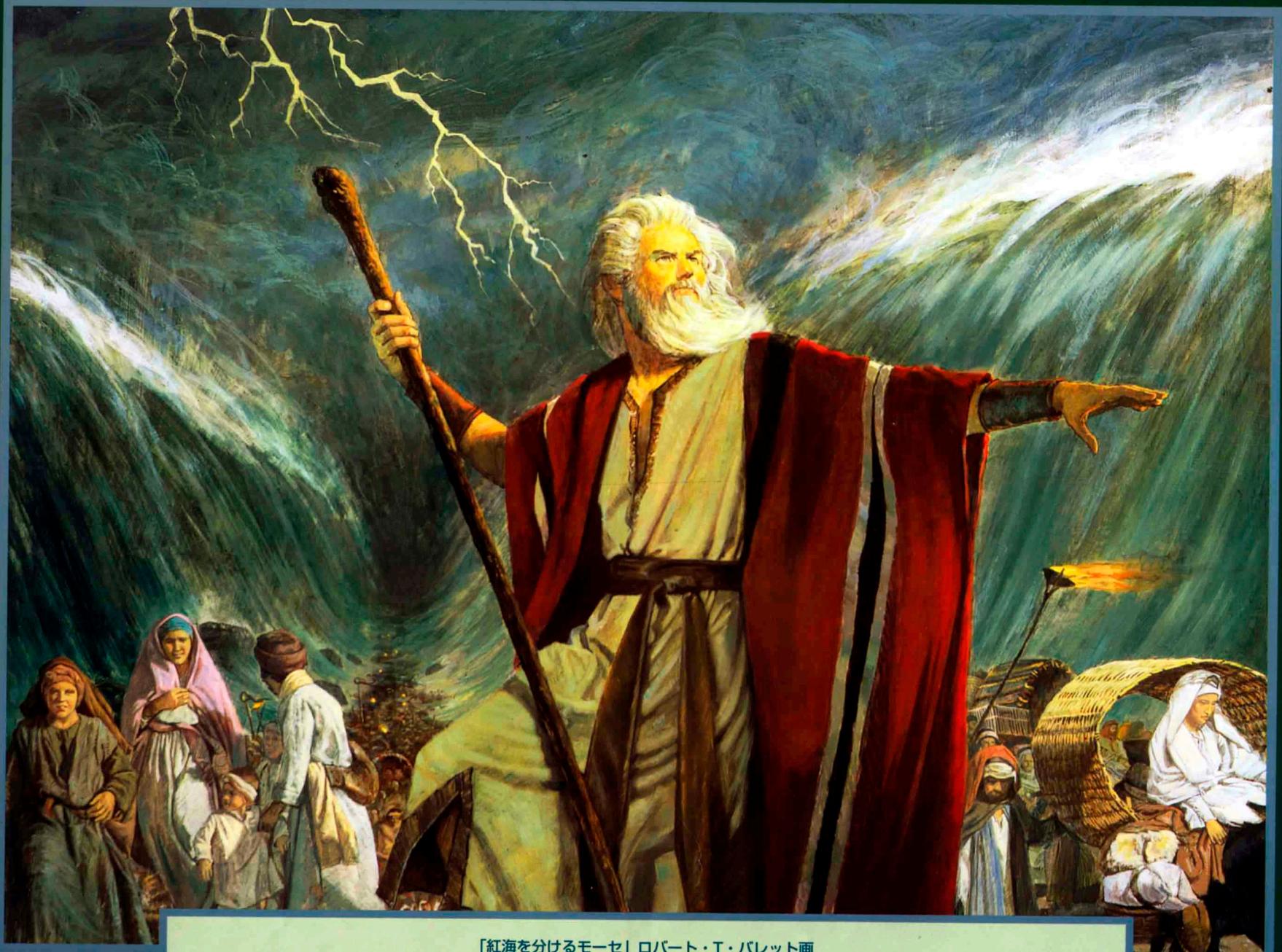
## 若い女性への招待

2001年3月に開かれた中央若い女性大会で、マーガレット・D・ナドル姉妹は若い女性一人一人に、それぞれが一人の若い女性を教会に連れ戻し、その姉妹が教会の活動に活発になれるように助けることを勧めました。この勧告に従った結果、あなたが経験したことを教えてください。あなたの氏名、年齢、住所、電話番号、ワード/支部、ステーク/地方部を明記し、あなたの記事をAn Invitation to Young Woman, *Liahona*, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT84150-3223, USAへ、またはEメールでCUR-Liahona-IMag@ldschurch.org までお送りください。

## 今月号に採り上げられているテーマ

証	25
イエス・キリスト	10, 22, 25, 28, 42, F7, F8, F10, F16
癒し	36, 42
教えること	48
家族関係	21
家族歴史	36
活発化	36, F10
家庭の夕べ	48
家庭訪問	25
犠牲	10
逆境	10, 22, 28, 36
清さ	F14
悔い改め	28, F8
敬虔	F2
啓示	2, 26, F14
高潔	36
従順	22, 26
障害	44
初等協会	F14
神権	36
信仰	10, 28, 36, 42
神殿と神殿活動	F14
新約聖書ものがたり	F7, F8, F10
聖文研究	25
聖霊	2, F4
世界に広がる教会	F12
伝道活動	44
忍耐	36
ホームティーチング	7
赦し	21, F16
預言者	8





「紅海を分けるモーセ」ロバート・T・バレット画

「モーセが手を海の上にさし伸べたので、主は夜もすがら強い東風をもって海を退かせ、海を陸地とされ、水は分れた。」(出エジプト14:21)



アブラハムはなぜモリヤの山へ登って  
主の約束された子孫への唯一の望みを  
犠牲として差し出すように  
命じられたのかと聞かれて、  
ヒュー・B・ブラウン副管長はこう答えました。  
「アブラハムはアブラハムについて何かを  
知る必要があったのですよ。」  
わたしたちがささげる犠牲は、  
従順を通して、わたしたちが何を  
進んで主にささげることができるかを  
教えてくれます。

M・ラッセル・バラード長老  
「犠牲の律法」10ページ参照。  
ヒュー・B・ブラウン長老  
「すぐりの木」22ページも参照。

## ヒンクレー大管長の最近の活動



オハイオ州ハイラムにある最近修復されたジョン・ジョンソンの家は、預言者ジョセフ・スミスが教義と聖約に記された15の啓示を受けた場所である。10月、ヒンクレー大管長によって奉献された。

写真/ショーン・シュタール、『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

**20**01年10月と11月、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は様々な活動に参加した。オハイオ州ハイラムにある修復されたジョン・ジョンソンの家を奉献し、オハイオ州カートランドの教会の史跡を訪れた。また、ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアにある二つの修繕された訪問者センターを奉献し、ユタ州シーダーシティーの150年記念祭に参加した。

カートランド訪問者センター所長デビッド・ブラウン(左)と前カートランドステーキ会長ティモシー・ヘッドリックとともにジョンソンの家を視察する。ヒンクレー大管長夫妻(前)とヘイト長老夫妻(後)。

写真/ショーン・シュタール。

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。



### オハイオ州の史跡

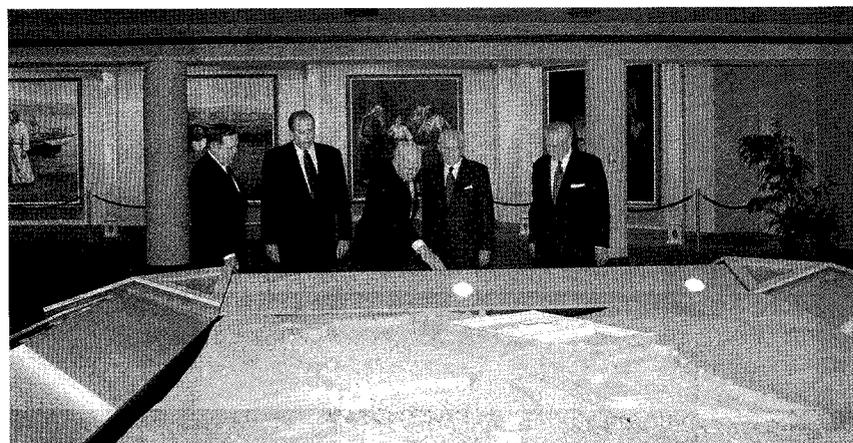
ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、オハイオ州ハイラムにあるジョン・ジョンソンの家を「この民の歴史における不朽のしるしになる場所」と呼び、2001年10月28日に奉献した。教会所有のジョンソン農場にある史跡ジョン・ジョンソンの家は、1830年代初めにジョセフ・スミスとエマ・スミスが住んでいた当時の姿にできるだけ近くなるよう、最近修復された。

農場の近くの教会の集会所で行われた奉献式で、ヒンクレー大管長は、「[この教会の]歴史が書かれ知られるかぎり、ジョン・ジョンソンの家は歴史に名高い場所となるでしょう」と述べた。集会の様はその地域の教会のほかのユニットにも放送された。

預言者ジョセフ・スミスは、1831年9月から約1年間、オハイオ州カートランドから25マイル(40キロ)離れた所にあるジョンソンの家に住んだ。この間ジョセフは、現在教義と聖約に記されている、15の啓示を受けた。それらの啓示には、教義と聖約のはしがきとなった第1章も含まれている。1832年2月、ジョンソンの家でジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは、天の御父の右におられる神の御子



ヒンクレー大管長夫妻、ヘイト長老夫妻とともに、オハイオ州カートランドのニューエル・K・ホイットニーの家を訪れる。写真/ジョン・シュタル、【チャーチニュース】(Church News)の厚意により掲載。



ゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長とともに、テンプルスクウェアの北訪問者センターでエルサレムの模型を見る。展示品の説明をしているのは、ダリン・H・オクス長老(中央)。左はジェフリー・R・ホルランド長老。写真/ゲリー・アバント、【チャーチニュース】(Church News)の厚意により掲載。

の示現を見た。この示現は、3種の栄光に関する啓示された教義と同様、教義と聖約第76章に記されている。また、ジョンソン家に住んでいる間、ジョセフ・スミスは聖書の翻訳の大部分を完成させた。

ヒンクレー大管長はこのように述べた。「ここで現され知らされた神の力は……地上に広がりましたが、それはまだ始まりにすぎません。御業は発展を続けるでしょう。現在1,100万人〔の教会員〕がいることを考えると、将来、数え切れないほどの会員数になることでしょう。」

教会歴史のこの時期は多くのすばらしい啓示が与えられた時であるが、それはまた、激しい迫害の時でもあった。1832年3月の寒い夜、暴徒がジョセフとシド

ニーをベッドから引きずり出し、なぐり、毒を飲ませようとし、身体に熱いコールドールをかけて羽を付けた。ジョセフとエマの幼い息子は、暴徒に襲われたとき寒さにさらされ、5日後に亡くなった。

ヒンクレー大管長は、次のような奉獻の祈りをささげた。「ジョン・ジョンソンの家を、天の御父とわたしたちにとって聖なる場所として、天の御父が愛する御子とともに御姿を現された場所として、また預言者が住み、聖書を翻訳し、御子の指示の下に多くの啓示を世に出し、この上ない苦しみを経験した場所として奉獻し聖別いたします。

これからもこの家が、遠くあるいは近くから来る人々にとって、天の御父が生きておられ、語られ、御子もまた生きて

おられ、語られたこと、この場所で天の御父が語られた言葉を預言者が記録し、恵まれた現代に生きるわたしたちのために神聖に保ってきたことを思い起こす場所となりますようにお祈りいたします。」

ジョンソン家の修復は、1984年に教会によって歴史的なオハイオ州カートランドで開始された、4段階の修復計画の第2段階である。この年、エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)が、修復されたニューエル・K・ホイットニーの店を奉獻した。ジョンソン家で預言者の塾が開かれ、ジョセフは教義と聖約の幾つかの章の啓示を受けた。また、預言者ジョセフ・スミスとその家族が住んでいた間、教会本部としても使われた。

修復計画の第3段階は、2002年春に完了する。その中には、新しい訪問者センターの建設、ホイットニー家の修復、ジョン・ジョンソンの宿屋の再建が含まれる。訪問者センターは1830年代の代表的な建物となり、大きなピクチャーウィンドー(大きな一枚板ガラス窓)からはチャグリン川の眺めを一望できる。

そのプロジェクトの第4段階としては、灰焼場、製材所、学校などのレプリカが2003年中に完成することになっている。それぞれの建物は1830年代のカートランド住民の日常生活の特徴をよく表している。

ジョン・ジョンソンの家を奉獻する前に、ヒンクレー大管長はカートランドを訪れ、史跡を見て回った。マージョリー夫人、十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老、ルビー夫人が同行した。

### テンプルスクウェア訪問者センター

ヒンクレー大管長はオハイオ州カートランドを訪問した後ソルトレーク・シティに戻り、2001年10月31日、テンプルスクウェア内の二つの新たに修繕された訪問者センターを奉獻した。大管長は、それぞれの訪問者センターがこのにぎやかな街の中の平和な島となり、人々が御霊を感じて心打たれ、生活が変わるような所となるように祈った。

ヒンクレー大管長とともに奉獻式に出席したのは、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二

副管長、ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理、十二使徒定員会会員のダリン・H・オークス長老、ジョセフ・B・ワースリン長老、ジェフリー・R・ホランド長老である。ワースリン長老が司会し、姉妹宣教師の聖歌隊が「救い主の愛(Our Savior's Love)」「(賛美歌)[英文]113番)を歌った。

奉献の祈りをささげる前、ヒンクレー大管長はテンプルスクウェアの訪問者センターの歴史を手短かに説明した。「100年前にはタバナクルで日曜日の集会が行われていました。教会員だけでなく教会員ではない人も集会に出席しました。当時7人しかいなかった七十人第一定員会が……メーンストリートの東側に土地を購入し、訪問者を招待して教会のことを学べるようなホールを建てるように提案しました。

その考えが採り上げられ、1902年にあずまやのような小さな建物が「サウスゲートのそばに建てられました。訪問者を収容するというよりは、ガイドを寒さから守るための建物でした。」それがテンプルスクウェアの最初の訪問者センターとなった。

1904年インフォメーションビューローの建設が始まり、1910年に2階が増設された。テンプルスクウェアの東南の角にあったその建物は博物館としても使用された。1978年、そこに南訪問者センターが建てられた。北訪問者センターは1963年に完成した。

ヒンクレー大管長はこのように述べた。「これらの二つの建物は今日まで大変役に立ってきましたが、テンプルスクウェアの訪問者センターとして美しく生まれ変わりました。」

奉献の祈りの中で大管長は、訪問者センターが「全世界に開かれた[場所となり、]訪れる人々が神の偉大な御心と王国について学び、感謝し、理解できるように」と請い求めた。また、感動し精神を鼓舞されるように、理解と信仰が増し加えられ、「より多くのことを学び、教会員として改宗へと導かれる道を探求しようという」願いを持てるように、と祈った。

## シーダーシティー150年記念祭

ユタ州のシーダーシティーは、2001年11月10日、創立150年記念祭の夕べを祝った。ゴードン・B・ヒンクレー大管長がゲストスピーカーとして招かれた。1851年11月11日に始まった教会のユタ州南部の製鉄所について言及し、大管長はこのように述べた。「当時の小さな村落が、この150年の間存続し、発展してきました。今日、すばらしいコミュニティとなり、産業、教育、文化、芸術の地として発展しています。コールクリークのそばに馬車を最初に止めた人々の後継者である皆さんは、先祖にいつも感謝しなくてはなりません。」

記念祭の前に晩餐会があり、記念祭の後に150年記念ダンスパーティーが開かれた。当日の朝、記念囃馬車隊が北方20マイル(約32キロ)のパロワンからシーダーシティーへ向けて出発した。最初の入植者たちが、後にシーダーシティーとなった地域へ向かう前、まずパロワンに集合したことにちなんだのである。

ヒンクレー大管長はスピーチの中で、南へ向かって製鉄所を作るようにというブリガム・ヤングの呼びかけにこたえた人々の歴史を回顧してこのように述べた。「製鉄所の話は、……犠牲の物語です。また、勇気の物語であり、知識には乏しくとも大きな信仰をもって歩んだ人々の話です。それはシーダーシティー

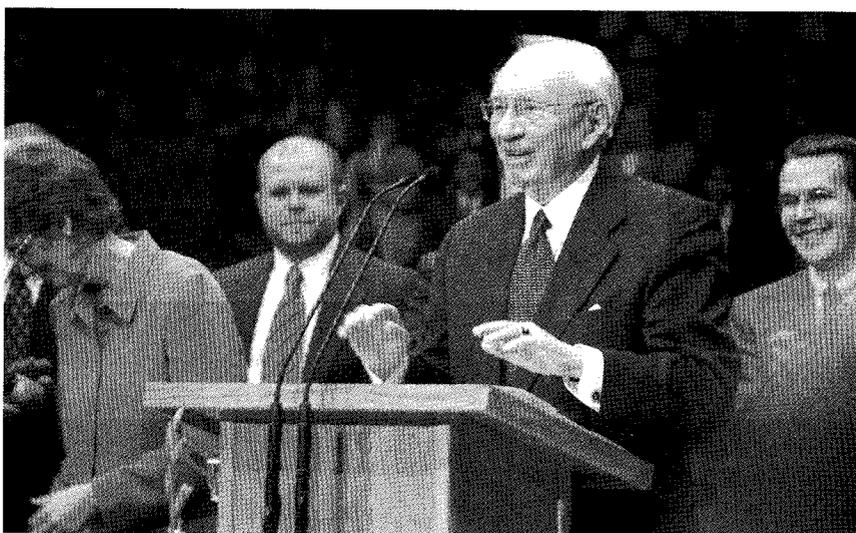
の建設の物語です。……

……人々はソルトレイク盆地に着いたときに旅は終わったと思いました。しかし、さらに南へ300マイル[約482キロ]下って、見知らぬ未開拓地へ行くように要請されました。それから7年間、人々は採鉱と鉱石の製錬の設備を完成させようとして身を粉にして働きました。……幾ばくかの鉄を製造することはできましたが、手に入る鉱石と石炭、溶剤を利用して製鉄するすべを身に付けるには至りませんでした。……

とうとう1858年、ここに大きな入植地ができたとき、製鉄所は閉鎖されました。人々は非常に失望しました。きつとブリガム・ヤングほど深い失望を感じた人はほかにいなかったことでしょう。この入植地だけでなく、その地域のほかの入植地にも失望感は広がりました。

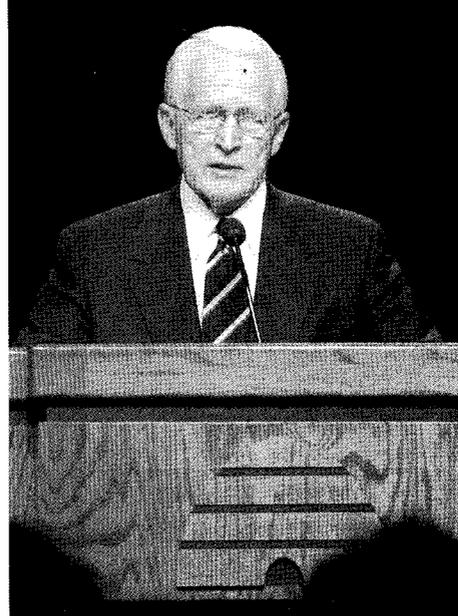
挫折感が広がる一方で、すばらしい出来事も起こりました。大きなコミュニティがここに建設されたのです。それは堅固で強い町でした。その力は多方面に伸びていきました。道路や家が作られ、教会が建てられました。そして、ついに、南ユタ大学の建設が……始まりました。かつてここに茂っていた杉の木にちなんで名付けられたシーダーシティーは、合衆国のこの地方で力強く活力にあふれたコミュニティとなりました。」

□



ユタ州シーダーシティーで行われた150年記念祭において、話をする前に起立して歓迎する観衆にこたえるヒンクレー大管長。写真/ R・スコット・ロイド、「チャーチニュース」(Church News)の厚意により掲載。

## バンクス長老、ヤングアダルトに向けて語る



教会教育システムのファイヤサイドでヤングアダルトに向けて語るベン・B・バンクス長老。  
写真/マイケル・フランディー、「チャーチニュース」  
(Church News)の厚意により掲載。

「わたしたちは自身の経験を通して、この世において平安を得るために頼みとするところは一つしかなく、それは救い主イエス・キリストであると知ることができます。」七十人会長会のベン・B・バンクス長老は、2001年11月4日に行われた教会教育システムのファイヤサイドで、そう述べた。

「どれほど大きな試練であっても、どれほど多くの苦痛を受けても、主はいつでも必要な平安を与える力をお持ちです。悪魔の影響力によって闇に包まれた世にあって、主の福音は方角を示すかがり火のように掲げられています。今日、何百万もの人々が答えを探しています。彼らは平安を熱望し、慰めが与えられることを求め、自分たちがはたして安全なのかどうかを知りたいと思っています。」

バンクス長老は、ブリガム・ヤング大学マリオットセンターに集まった2万人以上のヤングアダルトに、「平安を得るための主の計画」に従うように勧めた。このほかにも北、中央、南アメリカで約13万5,000人が、衛星中継により、バンクス長老の話を生中継で聴いた。ファイヤサイドは22か国語に通訳され、時間をずらしてヨーロッパ全土に放送され、さらに世界中のインスティテュートの生徒のためにビデオに収録された。

バンクス長老は話の中で、家族が危機に瀕したときの経験について語った。義理の娘は髄膜炎によって脳が重い感染症に冒され回復期に入っていた。息子は仕事上の事故で手の親指を失った。バンクス長老の妻は皮膚病に冒されていることが分かった。

「わたしはそのとき事態がどのようになるの分かりませんでした。何が起きようとも家族とわたしは救い主から愛されていることを知っていました。」

バンクス長老はまた、初期の教会員が受けた激しい迫害や、最近の試練の例として、水泳中の事故によって四肢まひになった若い兄弟の経験について話した。

「わたしたちは皆、生活の中で試練と艱難に出遭います。したがって、わたしたちは準備を整え、霊的なものを蓄えておき、それをいつも持ち歩いて、必要なきにその蓄えから助けを得られるようにすることが大切です。」

バンクス長老は若い人々に向けて、自分用の霊的なパラシュートを持つ必要があることについて話した。試練や困難に直面したときに守りとなるパラシュート、混乱する世の中にあつて平安をもたらしてくれるパラシュートのことである。

「大きな苦境に陥ったときに傘が開いて守ってくれる霊的なパラシュートは多くの要素から成っています。今日、それらの要素の中から7つを採り上げたいと思います。」

預言者に従う。「わたしたちは激動する世の中で、様々なチャレンジに囲まれた困難な時代に生きていることを知っています。信頼できるところから常に霊的な導きを受ける必要があります。」

清くある。「ポルノグラフィの持つ巧妙な影響力に生活を汚されたままにしていると、平安を得られません。助けを求めてください。暗黒の霧から抜け出して、永遠の命に通じる正しい道に引き返してください。」

正直である。バンクス長老は、年齢を重ねるとともに、完全な正直が教会員の従うべき原則であることを強く認識するようになってきたと語った。「正直という特質をわたしたちの生活の根底に据える必要があります。」

安息日を聖なる日とする。「安息日を聖く過ごすことによって、霊的な人になることができます。世の誘惑を退けることは必ずしも易しいことではありませんが、そうすることの中に平安と安全があるのです。」

聖文を読んで深く考え、しばしば祈る。十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老の言葉を引用して、バンクス長老はこう語った。「皆さんが聖文について深く考え、神と聖約を交わした内容を実践し始めるなら、神に対する愛をい

っそう深めることができ、また皆さんに対する神の愛をいっそうよく感じられることを約束いたします。そして、この愛を念頭に置いてささげられる皆さんの祈りは、感謝と願いとで心を満たしつつ、真心からささげられることとなります。」(「祈り」「リアホナ」2002年1月号, 18-19)

人々に仕える。「奉仕を通して自分自身を人々のためにささげましょう。わたしたちは人々の必要や苦難を見て見ぬふりをすることはできません。どのような環境に置かれていても、人々に奉仕する機会は必ずあります。」

戒めを守る。バンクス長老は十二使徒定員会のダリン・H・オックス長老の言葉を引用してこう述べた。「平和獲得のための公式(は)……主の戒めを守ることです。」戦争や紛争は罪悪がその根底にあり、平和は義にかなった生活から生まれます。」(「世界の平和」『聖徒の道』1990年7月号, 78)

バンクス長老は、全世界の会衆に向かい、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、試練や苦難を免れることはできないと語った。一方で教会員は毎週聖餐を受ける機会があるということもバンクス長老は語った。「わたしたちは進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、戒めを守ることを永遠の御父に約束します。これに対してわたしたちは、いつも御子の御霊を受けるという約束を

与えられます。新しい1週間を世の中で生活しようとする皆さんにとって、これ以上の慰めが考えられるでしょうか。」

まとめとしてパンクス長老は、ふさわしい状態で聖餐にあずかることがきわめて重要であることを話した。「このようにして聖餐を受け、交わす聖約を守ることによって、必要なときに取り出せる

力を蓄えているのです。そうすることによってまた、わたしたちはいっそう善良な人へと変わっていくのです。周囲の人々に道を示すかがり火として立つようになります。福音を忠実に守る人々に与えられる静かな自信を実感するようになります。人々からの質問や心配事に答える能力に自信を持つようになります。助

けが必要なきに人々はあなたのもとに来るでしょう。そして、わたしたちはイエス・キリストの福音が与える平安を見つけられるよう彼らを助けることができるようになるのです。」□

サラ・ジェーン・ウィーパーの厚意により、「チャーチニュース」(Church News)2001年11月10日付けの記事より掲載。

## ともに悼む仏領ポリネシア市民

**20**01年9月11日のテロリストによる攻撃の映像は、仏領ポリネシアの人々を含む世界中に衝撃を与えた。9月14日午前8時、仏領ポリネシア市民は政府の呼びかけにより、この悲劇に見舞われた家族との連帯感を示すために3分間の黙とうをささげた。

また各宗教団体もそれぞれの会員たちに祈とう会に参加するよう呼びかけた。カトリック教徒、セブンスデー・アドベンティスト派会員、コミュニティー・オブ・クライスト教会の会員、プロテスタント、ユダヤ教徒、末日聖徒、そのほかの宗教団体の会員が一同に会して悲しみ、犠牲者を追悼して共通の祈りがささげられた。3,000人以上が参列したこの会では、世界が変わり、このような悲劇が二度と繰り返されることのないよう祈りがささげられたのである。

仏領ポリネシアの大統領のガストン・フロッセおよびそのほかの政府官僚も祈とう会に参列した。大統領は冒頭で、ジョージ・W・ブッシュ合衆国大統領とアメリカ人への連帯感と愛を公式に宣言した。「何千人もの人を襲ったテロによる野蛮な行為に、わたしたちは大きな衝撃を受けていることを伝えたいと思います。わたしたちは皆、憎悪と暴力を否定し、人命を最大限に尊重するという共通の立場に立ち、ここに集っています。……わたしはポリネシア人すべてを代表し、友人であるアメリカ人と死を悼む家族に対して、わたしたちの深い悲しみをお伝えします。アメリカには、このような悲惨な攻撃に対し適切に対処する力があると確信しています。神がアメリカと全人類を祝福してください。」

その後様々な宗教団体が、哀悼の歌

を歌い、メッセージを伝えた。末日聖徒イエス・キリスト教会はこの集会で、タヒチ・パペアリステークの青少年聖歌隊が開会および閉会の賛美歌を歌うという機会に恵まれた。そして太平洋諸島地域会長第一副会長のアール・M・モンソン長老は、最後の話者を務めた。またタヒチ・パペアリステーク伝道部で、リディア夫人とともに夫婦宣教師として働いているマーリン・オルセン長老が閉会の祈りをささげた。祈りの後、現在この地域で働くアメリカ人宣教師たちは壇上に来て、アメリカ国歌を歌う会衆を指揮するよう要請された。

最後にフロッセ大統領とそのほかの政府指導者も壇上に上がり、アメリカ人宣教師らと愛と支援を象徴する握手を交わした。指導者の模範に倣い、多くの参列者も列に並び、同様に握手を交わした。□

## ニュージーランドにおける、福音を分かち合う新しい取り組み

**1**年以上前に出された簡潔な質問がきっかけとなって、ニュージーランド・ハミルトン神殿訪問者センターでは、教会員と宣教師による奉仕の場が広がった。昨年ニュージーランドでの神殿ツアーから帰った数人の教会員から、訪問者センターの宣教師が行うファイヤサイドやコンサートを、近隣のワードやステークで実施することが可能かどうかという質問が出たのである。

全国の教会員を強め、訪問者センターを一度も訪れていないと思われる人々に福音を紹介する目的で、第1回目のプログラムが2000年8月に行われた。それ以来、教会員と求道者を対象としたファイヤサイドとコンサートは、ノースアイ

ランド東海岸のワイマナのような田舎町の地域でも、教会員が小さな公共の建物を使用して行われている。一方で、ウェリントン、オークランド、ヘイスティングズ地域の大規模なステークセンターでも開催されている。

「各ファイヤサイドの参加者は、25人程度の少人数から、1,700人程に至るまで様々です」と訪問者センターでディレクターを務めるレオ・D・レオナード長老は言う。訪問者センター以外の場所で開催されたプログラムに1万2,000人が参加し、そのうち6,800人がその後宣教師に会うことを希望している。

「ファイヤサイドやコンサートを行うことで、訪問者センターで働く夫婦宣教

師が遠隔地の地元指導者を支援できるようになりました。6か月に1度ずつ、宣教師は各支部の会員記録を調べ、レッスンを<sup>せいさん</sup>行い、聖餐会で話をすることができます」と、レオナード長老は言う。訪問者センターの夫婦宣教師は1か月間に近隣地域で24回、話の責任の要請に応じた。

また同じころ、訪問者センターの指導者が、教会のメッセージをより多くの人に伝える方法を模索していたところ、ニュージーランド公営ラジオ局の職員が、訪問者センターの宣教師にラジオ番組を制作する関心があるか尋ねてきた。直ちに地域広報代表と訪問者センターの宣教師は、毎週行われているモルモン

タバナクル合唱団の放送番組に倣ったラジオシリーズを企画した。  
レオナード長老は次のように述べた。

「教会のパンフレットを手に毎月数百人の人々を訪問するのに加え、ラジオ放送によって1時間に大勢の人々にメッセー

ジを伝えられるようになりました。」□  
【チャーチニュース】(Church News)の厚意により、2001年10月27日付けの記事より掲載。

## アフガン難民へ冬物衣料が送られる

**20**01年11月、ウズベキスタン、タジキスタン、パキスタンにいるアフガン難民への物資の供給の必要性が高まる中、それを少しでも緩和しようと大量の救援物資が船で輸送された。教会の人道の救援機関が最初に行った対応策は、難民キャンプに必要な毛布、新生児キット、衛生キット、ビニールシート、水袋といった食料品以外の物資の提供であり、合わせて17万2,000キログラムに上る。これらに加え、厚手の冬物衣類やウール毛布、約4万枚も送られた。物資は貨物船パキスタンのカラチまで輸送され、そこから各キャンプまでトラックで運ばれた。

今年人道の救援機関のディレクターであるゲリー・R・フレークは次のように語っている。「これは大規模な人道の救援活

動、すなわち今年最大のものと言えます。送られた物資の中には〔ほかの〕場所へ送られる予定だった厚手の冬物衣類のコンテナ7つ分が含まれています。すぐに物資を送ろうと考えた理由は、冬が来る前に物資が届くようにしたかったからです。〕ほかの場所への物資は後日送られる。

フレーク兄弟はこのように述べている。「これは教会が、必要のある所なら世界中どこでも、宗教や国籍に関係なく人々へ援助の手を差し伸べている姿です。教会の会員や友人たちがこれを可能にしています。」

教会は、物資が難民のもとに必ず届くように4つの組織と提携している。その組織とは、カウンターパート・インターナショナル(Counterpart International)、

マーシー・コー・インターナショナル(Mercy Corps International)、ノール・インターナショナル・エイド(Nour International Aid)、そしてプロジェクト・コンサーン(Project Concern)である。教会は過去にもこれらの組織と協力して他の緊急時に対処した経験があり、彼らの働きが効果を及ぼしていると確信している、とフレーク兄弟は語る。

彼の話によれば、救援活動に多くの制限が設けられており、唯一国内に入ること許されているアフガン・レッド・クレセント・ソサエティ(Afgan Red Crescent Society)によって、物資がアフガニスタン以外の地域の難民へ送られた。国際的な組織が現在できる精いっぱいのことを行っている、とフレークは言う。□

【チャーチニュース】(Church News)の厚意により、2001年11月10日付けの記事より掲載。

## 多くの車いすが中央アメリカに寄付される

**20**01年10月、教会は、車いす協会創立者ケネス・ベアリングの協力の下に、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアで助けを必要とする人々のために1,500台の車いすを寄付した。

エルサルバドル大統領夫人ローデス・マリヤ・ロドリゲス、ホンジュラス大統

領カルロス・ロベルト・フロレスと夫人のメアリー・フレーク・デ・フロレス、当時ニカラグア大統領だったアロノルド・アレミンと夫人のマラ・フェルナンダ・フロレス・デ・アレミンがそれぞれ、これらの国々への寄付を発表する式典に出席した。地元の教会指導者と人道の救援機

関の代表者も式典に出席した。

各式典では数台の車いすの贈呈が行われた。ニカラグアでは一人の少女が前に進み出て弟を車いすに座らせた。弟は生まれて以来ずっと姉であるこの少女に抱かれていたのだった。エルサルバドルでは若い男性が新しい車いすによって再び学校に行くことができると話した。ホンジュラスでは、約50年間人々に奉仕してきたカトリックの修道女が、奉仕を続けるうえで車いすがどのように役立つかを話した。

車いすの寄付への感謝に加えて、エルサルバドル大統領夫人は、祖国が昨年地震に見舞われた際の、教会の迅速かつ効果的な援助について触れた。ニカラグア大統領夫人は、近年自国が干ばつに見舞われた際の教会の援助に対

教会の人道の援助機関ディレクター、ゲリー・R・フレーク、ケネス・ベアリング氏、地域幹部七十人ホセ・E・ボゲ長老(車いすの後部)とエルサルバドル大統領夫人ローデス・マリヤ・ロドリゲスが、少年とその父親に車いすを贈呈する。

写真/人道の援助機関の厚意により掲載



する感謝の意を表した。ホンジュラス大統領は、次のように述べた。「教会はいつも国民のために手を差し伸べてくださ

っています。自由に動き回る特権のない多くの人々の生活に祝福をもたらすために、現在教会はベアリング氏と共同で

働いてくださっています。この寄付は、人々がより自立できるよう助けるものとなるでしょう。」□

## 違いを生み出す会員

若い女性たち、260時間をささげる

**昨**秋、ルーマニア・ブカレスト伝道部のチシナー支部の若い女性たちは、チシナー市営孤児院の乳幼児を助けるために献身した。彼女たちは、人道的救援宣教師であるローラ・マッキンタイヤ姉妹から教会が提供する教育玩具を使うための訓練を受けた。

若い女性たちのおかげで、乳児たちは愛ある手のぬくもりを感じ、静かな子守歌を聞いた。乳児たちはゲームで遊ぶことを覚えた。ある幼児たちは歩くことを学び、ほかの幼児は最初の言葉を覚えた。それまで一度も笑顔を見せたことのなかった男の子は、若い女性たちが来る度に満面の笑みを浮かべた。

8週間以上にわたり、合計260時間以上奉仕した後、数人の若い女性は学校の時間割を変えて、少なくとも毎週1回の午後は引き続き奉仕できるようにした。『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、2001年10月20日付けの記事より掲載。

### マーシー・コー活動

こ数か月間、ニューヨーク市の救援部隊は2001年9月11日の世界貿易センターへの攻撃で残された、ねじれた金属片や残骸を除去している。地域の指導者たちがその悲劇のもたらした苦痛や心の傷に対処するには、さらに多くの時間を要するであろう。

心に傷を負った家族や子どもたちに希望、安心感、カウンセリングを与えることを目的とした非営利組織、マーシー・コー・インターナショナル(Mercy Corps International)は最近、被害者を助けるために教会と手を結んだ。LDSファミリーサービス課の教会職員のチームはニューヨーク市に数週間滞在し、ニューヨークの子どもたちが抱く恐怖、怒り、悲しみに対する効果的な対応を支援する「子どもたちへの慰め」というマーシー・コーのプログラムの立ち上げを手伝った。

「子どもたちへの慰め」プログラムの目的は、9月11日の事件の影響を受けた子どもたちを支援すること、特に伝統に基づいた援助方法を得にくく、自ら援助を求めることに消極的な地域社会に住む子どもたちの支援を目指している。

教会の職員たちは、様々な地域の指導者や支援者との情報交換会を計画し、開くことに多くの時間を費やした。地域の指導者たちはカウンセリング技術を学び、心の癒しや忍耐を促進する教材を与えられ、親、教師、そのほか子どもの支援者となる人々を指導できるように訓練された。集会の中には、英語が第一の言語ではない地域からの代表者が出席している者もあった。その際、2か国語を話す教会の職員が通訳を行った。

教会員や専任宣教師は、子どもたちの心を癒す品物のセット500個を用意し、マーシー・コーを支援した。これら

のセットには懐中電灯、画材、ぬいぐるみなど、悩みを抱える子どもたちが安心して気持ちを感じつつ、起こった出来事に関する自分の気持ちを理解できるように励ます物品が含まれた。また、セットには親が子どもを助けるときの指針になるパンフレットも入れられた。

マーシー・コーのプロジェクトディレクターであるグリフェン・ジャックは、教会員の参画と効果的な働きに感謝の意を示した。ジャック女史は次のように語った。「奉仕に喜びを感じている人々と、喜びを感じているうえにチームワークを備えている人々の間には違いがあります。教会員と手を取り合って働くことにより、教会のプログラムがどのように一貫したものとなっているか分かりました。」

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、2001年10月27日付けの記事より掲載。

### 4人の会員、仏領ポリネシア国会議員に選任される

**最**近、4人の教会員が仏領ポリネシア国会議員に選出された。現在49人の議員から成る国会で議員を務めているのは、マケモ・ツアモツ地方部のテマウリ・フォスター、タヒチ・ファーステークのタリタ・シンジュ、タヒチ・バペアリステークのヒナノ・テトゥアヌイ、ならびにタヒチ・バペアリステークのアルセヌ・ツアイラウである。□

## 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年3月

 以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2002年3月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」14、15ページ「かみのみや」を参照する。

1. 教義と聖約88:119には、神殿建築の指針以上の意味が含まれていることを説明する。つまり家庭と個人の生活を築くうえでの青写真も含まれている(トーマス・S・モンソン「永遠の家庭を築き上げる」『リアホナ』1999年10月号、2-7参照)。子どもたちを二人一組、またはグループに分け、より堅固な家庭と

生活を築くうえでできることを見つけさせる。割り当てを受けた指導者か教師に見つけたことを報告させる。以下の割り当てを用意し、各グループに一つずつ与える。

● 祈り——ヤコブの手紙1:5-6を読んで、話し合い、祈りについて学ぶ。

● 断食——マタイ6:16-18を読んで、



ページ右上の言語欄をクリックして日本語を選択する。

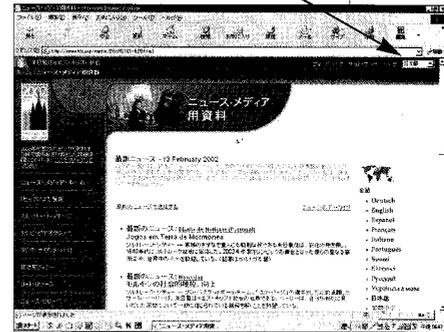
## 日本語で読める教会公式ホームページ

ソルトレークシティー・オリンピックの開催と共に教会広報部へのメディアからの取材は急増した。それと同時に教会の公式ホームページからの情報を利用するメディアからの問い合わせも増加の傾向にあ

る。現在、教会の公式ホームページは様々な言語へと翻訳が進められ、日本語への翻訳も日々更新されている。主にメディア用資料として写真、音声、ビデオと共に各種情報を得ることができるが、それらの情報は伝道

や広報活動の資料としても大いに役立つものである。

<http://www.lds.org/media/>へアクセスし、次にページ右上の言語欄から日本語を選択すると様々な情報を日本語で読むことができる。□



## プレストーリー

### プリガム・ヤング大学フットボールチームの元スター選手、安息日について語る

カーティス・ガーサ  
ニュースネット配信の記事を基に構成



イライ・ハーリングはプリガム・ヤング大学フットボールチームのスターだった。

ハーリングは1995年のドラフトで先行指名されると見られていた。しかし彼は、巨額の契約金が生じるナショナル・フットボール・リーグ(NFL)の申し入れを断った。理由は「日曜日が主の聖日であり、それを聖く保つことに決めたからである。

オークランド・レイダースはわずかな望みをかけて6番目に指名してみたが、ハーリングはその申し出を当てもまた現在に至っても受け入れていない。6年経った現在、ハーリングはユタ州オレム市にあるマウンテン・ビュー高校の数学教師として働き、結婚して8年になる妻とともに4人の子どもを育てながら、教会と家庭で忙しく責任を果たしている。

●ハーリングはオレム市のインスティテュートで、何年もかけて理解を深めてきたテーマである安息日の重要性について以下のように話した。

「救い主はパリサイ人にこう尋ねられました。『あなたがたはキリストをどう思うか?』ハーリングはこの聖句を用いてこう尋ねた。『わたしたちはキリストをどう思う?』でしょうか、また救い主はわたしたちをどう思っているのでしょうか……ニーファイ人のもとを訪れられたとき、救い主は祝福を施した子供たちについてどのような気持ちをお持ちだったのでしょうか? わたしは主が彼らをたいへん愛しておられたと感じています。そして同様にわたしたちのことも愛してくださっていることを確信しています。」

もし安息日に心が主や主の教え、家族、病氣や貧困で苦しむ隣人に向いているならば、心が神に向いていることのしるしになります。

ハーリングは、最も驚嘆したこととして、イエス・キリストが人類のためにひどい苦痛を耐え忍ばれたことを挙げている。「なぜイエスはそうなされたのでしょうか? わたしたちが御自分のもとに来ることを望んでおられるからです。わたしたちが永遠の命と昇栄を得ることを望んでおられるからです。ご自分が経験された苦痛をわたしたちが味わうことのないように望んでおられるからです。」ハーリングは、一人一人に自分自身にとって救い主はどのような御方であるかを考えるよう勧める。

「イエスがわたしたちのためにくださったことを知ったあとで、わたしたちはキリストをどう思うでしょうか? 自分の人生について考えてみましょう。どのように生活しているか考えてみましょう。救い主への自分の思いは主にどう伝わっているのでしょうか?……わたしたちが主イエス・キリ

ストに自身をゆだね、感謝していることをどのようにしたら示すことができるでしょうか?……ネルソン長老は、安息日の戒めに従うことによってそれを示すことができると言っています。」

●ハーリングは、もし安息日に心がプロ・フットボールや映画鑑賞に向いているならば、その心が主から離れていることを主に示すしるしになると言う。「一方で、もし安息日に心が主や主の教え、家族、病氣や貧困で苦しむ隣人に向いているならば、心が神に向いていることのしるしになります。……わたしたちが安息日に行くことを主への専心のしるしとして正直に考えるならば、安息日の活動は適切なものになるという結果にたどりつきました。」安息日のとらえ方は、時々わたしたちが思う以上に重要なことがある。「安息日は本当にそれほど重要なのでしょうか。什分の一を納めたり、聖餐を取ったりすることで主への愛を示すことになるのではないのでしょうか。守るべき戒めはたくさんあるのですから。」

しかしハーリングは、安息日を聖く保つことは個人の霊性を維持し主と交わした聖約を尊ぶ上で重要なものとなると言う。「それは単なる戒めではないのです。……単に行うだけのものではなく、主とその民の間で示されるしるしなのです。」

●ハーリングは現在、マウンテン・ビュー高校フットボール部の攻撃陣コーチとしても活躍している。プロ・フットボールの申し出を断ったことを後悔していないと言う彼の言葉には、何のためらいもない。□

# 神の賞と 特集 得る 青少年と安息日



1,500人の

男性が一気に境内に走り込む様子が各テレビ局で報道された。西宮市にある西宮神社の開門神事として全国に有名な行事である。転倒するもの、引き倒されるもの、太鼓の合図とともに開門された参道を走り、約200メートル先の「一番福」という栄誉を求めて人々は群がる。「一番福」を獲得した人は、その1年間で最も福の多い人となると言われているからである。そんなひしめき合う群衆の中をすり抜けられるように走る男性がいた。過去に2度も「一番福」を獲得した人物である。必死の形相で走る人々を引き離し、余裕で今年も一番福を獲得した。全国放送のテレビのインタビューで仕事を尋ねられた彼は「末日聖徒イエス・キリスト教会でステーキ宣教師をやっています」と胸をはって答えた。それが名古屋西ステーキ一宮ワードの吉田光一郎兄弟だった。

## 祝福されたアスリート

吉田兄弟は17歳のとき、1996年のインターハイ予選で10秒99のタイムを出したが、本選に駒を進めることはできなかった。「知恵に不足していたのでこのタイムしか出せなかった」とそのときのことを話す。「高校のときには陸上の良い指導者には恵まれておらず、独学で学ばなければなりません。自分だけで研究したので、これくらいのタイムしか出なかったんです。」しかし、大学に進学し、指導者に恵まれると急激にタイムは短縮された。「自己ベストタイムは

## 福音から力を受けた「一番福」のランナー

吉田光一郎 兄弟 名古屋西ステーキ一宮ワード

10秒56になりました。陸上をやっている人なら分かりますが、このようにタイムを急激に短縮するのは普通は無理なんです。」正しい指導を受けたときに、人は本来の可能性を引き出されることを身をもって証明したのであった。

しかし、まだまだ壁は厚かった。その年の大阪府国体選考会決勝では2位となった。1位はアジア記録保持者の朝原宣治選手。実力の差を見せつけられたと言うが、大阪国体の4×100mリレーでは、その朝原選手にバトンを渡しチームメイトとして活躍した。当時競い合っていた走者たちの多くはその後オリンピックへ出場することになる。

「最近、走っていてもあまり疲れない」と吉田兄弟は言う。知恵の言葉を守っている人は、競技者としてのピークは普通の人よりも遅く来るような気がする、と自分の体調を管理してきた経験から話す。吉田兄弟の競技や自己管理に対する意識は強い。練習日記に書き込まれた反省点などから、自分の体力的なデータも把握している。

吉田兄弟は1998年4月に競技中の事故で靭帯を損傷している。「父親がすぐに大阪に来て、祝福してくれました。」神権による祝福を受け、主に頼った吉田兄弟は急速で奇跡的な快復を見せた。そして、何と10月に行われた日本選手権では自己ベストとなる10秒42というタイムを出してしまったのである。

## 戒めが支える霊のコンディション

陸上競技と同じように吉田兄弟が関心を持ったのが西宮神社の開門神事だった。1998年の開門神事で「一番福」を獲得した吉田兄弟ではあったが、翌年の開門神事には参加を辞退した。理由は「安息日だったから」である。幼いころから安息日を守ることを大切に感じていた吉田兄弟にとって、それは自然なことであった。その後、2回の開門神事に参加し、

「えっさん」の絵本社で知られる兵庫西宮市社家町の西宮神社（吉井良隆宮司）で十日、「一番福を自指して健脚を競う慣例の「開門神事福男選び」があり、約千五百人の男性が参加した。

## 福男へ一直線 西宮えびす祭

内になだれ込んだ「雪男」。この日、「一番福」に輝いたのは愛知県一宮市の宣教師、吉田光一郎さん（三）。吉田さんは今年で三回目の参加で、平成十年と十二年に続き、三度目も「一番福」を果たした。昨年は左足首のけがで出場を断念した吉田さんは、「一番福でうれしい。人に幸せを与える福男になりたい」と話していた。



ともに「一番福」の栄冠を受けている。

安息日を守ることにに対して吉田兄弟は「自分は両親の模範やレールの上に乗っているだけです」と答える。「学校に両親が来て、安息日に部活などに参加できないことを話してくれたので、それ以来安息日を守っています。ただそれだけです。安息日を守ることで、クリスチャンとして信頼されることはありましたが、差別されることはありませんでした」と話す。また吉田兄弟の家族では、祈ることも重要なイベントの一つだ。仕事で家族の祈りの時間に戻ることのできない場合、家族から吉田兄弟の携帯電話に連絡が入ってくる。そして、電話口で一緒に祈りに参加するのだという。小さいこ

左側は日本の陸上界のエース朝原宣治選手。  
右側でバトンを渡しているのが吉田兄弟。

写真/朝日新聞社提供

とだが、普段からの吉田兄弟の霊的なコンディションを支えるうえでは欠かすことのできないものである。「コンディション作りを甘く見ている人は意外に多いんですよ」と彼は語る。

### 必ずしも速く走る者が 勝利を収めるのではない

独学で陸上競技を学んだ経験から、睡眠時間、体温の上昇、暖める筋肉の箇所など、詳細にわたって研究を積んでいる吉田兄弟は、同じように霊的なコンディション作りについても明確な証を持っている。「最高タイムは関係ないんです。どんなに速く走った経験がある人でも、コンディション作りが悪ければ勝つことはできません。試合のときにピークが合うよう導くのは日々の節制です。実は、練習量を抑えることがコンディション作りには大切です。試合の前に練習したいという欲求を抑えるのは難しいことなんです。」試合の前になると不安になって練習量が多くなったり、練習への欲求を抑えられずコンディション作りに失敗したりする選手が多いという。そのような意味で、休むことがとても重要になるとも語る。競技する者にとって休むことは不安につながるが、吉田兄弟は安心して安息日を休んでいる。「競技で勝つためには、練習、休むこと、そして栄養をとることが大切です。多くの人が練習ばかりに集中しますが、練習はその構成の中で3分の1にすぎないんです。休むことと栄養をと



ることは3分の2です。ですから、いかに練習以外にも大切なものがあるか分かると思います。わたしが大胆に安息日を休めるのは、過去のデータがすべてを表しているからです」と分析する。そして安息日には、体に休息と栄養を与えるのと同様、霊にも栄養を注ぎ込む。吉田兄弟にとって、自分がつけてきた過去のデータが競技者としてのよりどころになっているのと同じく、聖典に記されていることは人生を走り抜くうえでのよりどころとなっている。「競技者の中でも過去の記録をつけていない人は大胆に休むことができません。だから、休むことによって得られる勝機を失っています。」

### コンディションこそが命

コンディション作りについて、吉田兄弟は毎日の聖典学習にたとえて説明する。「一人の、聖典の知識があり証のある人が、ある朝、聖典を学ばないで一日を始めたとします。もう一方で、その人よりも聖典の知識がない人が、聖典を学んで一日を始めたとします。知識量は比較できないかもしれませんが、コンディション作りという意味では、後者の人の方がその日に限っては準備されていると思います。」これが競技ならば、過去のデータから見て、後者が勝利を収めるのだと笑う。吉田兄弟は「コンディションが命」と何度も繰り返す。

霊的にも肉体的にも安息日を尊ぶというコンディション作りは、両親によって幼いころから培われてきた。「プライマリーのとき、わたしと両親はある約束を結び

ました。それは安息日に教会に行くため、ソフトボールの練習は休むという約束でした。しかしそれでもわたしはレギュラーに選ばれることを知っていました。中学生になっても安息日には陸上の部活の練習には参加しませんでした。しかし神様の恵みはあふれていました。わたしは小学生のころから今日に至るまで、レギュラーというレギュラーから、安息日に教会へ行っているために漏れたことは一度もありません。安息日を守ることから来る祝福への確固たる証がプライマリーの時代から築き上げられてきました。」

### 戒めを守るかぎり祝福される

吉田兄弟は、若い男性・女性、またお子さんを持つ御両親に「<sup>せんえつ</sup>」証を伝えたいという。「安息日に部活を休むことによって、神様の力を得ることが出来ます。また部活の仲間が日曜日の練習で肉体を鍛えている間、安息日に教会に集う競技者は、最も大切な霊を鍛えているのです。そして月曜日、皆が日曜日の練習で疲れている中、霊の栄養を蓄えた人は、フレッシュな肉体で1週間のトレーニングを行うことができるのです。」

この春から専任宣教師として働く準備をしている吉田兄弟は力強く証する。「伝道に出ることは神様より与えられたわたしの競技の能力をも高めてくれると確信しています。伝道に携わるとき、御霊に満たされたときの集中力、自分の力以上の力の働きを感じます。しかし祝福はいつも信仰が試された後に訪れます。

自分はまだまだ発展途上です、と語る  
ステーキ宣教師スタイルの吉田兄弟。  
この記事のご感想は [lewis@jp.c.ne.jp](mailto:lewis@jp.c.ne.jp) 吉田兄弟まで。



わたしは、戒めを守るかぎり、シオンの民がこれからもとこしえに祝福されること、どんな苦境にあっても守られること

を確信しています。」そして、「一番福を頂いて、福男になったからには、福を人に与える責任を神様から与えられたのだ

と思っています」とも語る。“福音を携えた福男”は今、伝道に出るための霊のコンディション作りに余念がない。□



## 安息日とクラブ活動は両立できます ~より高いレベルを目指して~

与那嶺 真史 長老/日本東京北伝道部専任宣教師 那覇ステーキ/小禄ワード出身

### インターハイ優勝チーム でプレーするまで

「インターハイで優勝したときの試合は日曜日ではありませんでした」——東京北伝道部で専任宣教師として働く与那嶺真史長老は、サッカー部に所属していた学生時代のこと語り始めた。小学校2年生からサッカーを始め、宣教師として召される前の大学1年生までサッカーを続けた。サッカーに没頭した学生時代を通じ、安息日を守ることは与那嶺長老にとってとても重要なことであった。

「小学生のときは自分ではっきり決めることができなかったので、親の言うとおりにしていました。安息日を守ることは家族の中での決まり事だったので、それに従うのは特別なことではありませんでした。ただし、安息日に教会へ出席することについては、両親は絶対に譲歩する態度は見せませんでした。」小学校のときは周りの友人も与那嶺長老が教会へ集まっていることを知っていたので、安息日を守ることは比較的楽であった。

しかし、中学校のサッカー部に入り、

環境は少し変わった。「中学校では先輩後輩の上下関係が厳しかったので、1年生のときには先輩から、日曜日に練習に参加するようにきつく言われました。そんなとき、『わたしは日曜日に練習に来ません』と答えるのはつらいことでした。」幸いにも、小学校からの先輩もいたので助けてもらうことができたが、「先生から言われるよりも、先輩から言われるのがきつかった」と振り返る。それでも、「小学校のとき大丈夫だったので、中学校でも大丈夫という信仰がありました。また、安息日を守らないと良い気持ちを感じないことは小さいころから知っていましたから。」

高校に入學し、サッカー部に所属しながら安息日を守ることはさらに難しくなった。「高校では先生も先輩も厳しく、毎週毎週聞かれました。教会とサッカーのどちらが大切か選ぶようにと言われました。それに対して、毎週毎週、安息日に練習することを断り続けました。」時には、「与那嶺は教会員だから日曜日は練習に来られませんよ」と中学からの同級生が代弁してくれて助けられたこともあった。

「最初はレギュラーではなかったので

さほど強く言われることはありませんでしたが、主要なメンバーになるにつれ、きつく言われ始めました。チームには100人ぐらいが所属していて5軍ぐらいまでありました。1年生のときには5軍にいましたが、2年生の終わりに1軍になったときに、『日曜日に練習していないのに選ばれている』と後ろに控える選手から批判を浴びることもありました。日曜日にも練習していながら1軍に入れないメンバーはたくさんいたからです。」日曜日に練習をしないと与那嶺長老が試合に出ていることに対する風当たりは強かったが、やがて「日曜日に練習しなくてもほかのメンバーと同じようにプレーできるということが周りにも分かってきたので、次第に強く言われることはなくなってきた」という。

那覇西高校がインターハイと日本選手権で優勝していたことで、大学では1年生からレギュラーに抜擢された。「大学はそんなに強いチームではなかったのですが、日曜日の練習に参加することは強要されました。また、歓迎会でお酒を飲むことも強く勧められました。『そんなことでは通用しない』とも言われました。しかし、戒めを守ることで十分に通用しました」と与那嶺長老は笑う。安息日を守るために、レギュラーであっても土曜日の試合にしか出場しなかったが、それでも与那嶺長老は満足している。

### 良い習慣の力

「安息日の戒めは小さいときから守り続けることが大切です。小学校、中学校と守ってこれなくて、突然、大人になってから守ろうと思っても難しいと思います。また、親の影響力というのは非常に強く、大切だと思います。わたしは親がきちんとやっていたので言うことを聞きました。親が守っていなければ、また家族が守っていなければ従う価値を見い



伝道中の与那嶺長老（左）。  
右は同僚のデヴィン・松森長老。



高校サッカー界で「那覇西高校」といえば有名である。最後列右から5人目のゼッケン19番が与那嶺長老。彼の右隣と左隣に立つかつてのチームメイトは、近々プロとしてJリーグ入りを果たす。

だせなかったと思います。」与那嶺長老の安息日に対する価値観は幼いころから良い両親の下で形成されたのである。

「わたしの両親は子ども一人一人に合った教え方をしてくれました。わたしに対しては小学校のときに安息日の大切さを強く言い、その後は自分で選択するように任せました。ほかの子どもたちには繰り返し言われた子もいれば、何も言われなかった子もいます。わたしにとって早い時期にははっきりと指針を示されたことは幸いでした。両親は子育ての中で一人一人の子どもたちを導く方法について啓示を受けていたのだと思います。自分で選択したことは、信仰を養ううえで、また伝道へ出る決心を強めるうえでとても役に立ちました」と改めて両親に感謝する。

「セミナーについても、学んでいるときにはその価値が分かりませんでした。が、セミナーを修了して、そのすばらしさを知ることができました。高校では6時からサッカーの朝練、授業は7時30分から始まり、授業が終わってから再びサッカーの練習をします。そんな日課でも、セミナーの先生がよく助けてくれたので、出席できないときにも宿題を出してもらおうなど、うまく調整しながらセミナーを学んでいました。日曜日に練習に参加しないうえにセミナーまであって、どうして1軍でプレーできるのか不思議に思う人たちもいます。しかし、わたしは安息日に教会へ集いつつ、クラブ活動で取り組む目標が達成できるとははっきり分かりました。」それは青少年の

時期あかしに感じ取った確固たる証だった。

### 言い訳を捨てる人になる

「宣教師として働いていて、求道者、特に青少年のご両親と話す機会がありました。クラブ活動に参加することにも、安息日を守れないことにも、みんな必ずそれなりの理由があることでしょう。そのような中で、自分の持っている言い訳を捨てた人はしっかりと守ることができます。言い訳を捨てた人は他の戒めも守り始め、しっかりと進むことができます。それができない人は、いつまでも同じ状態にとどまって進むことができません。言い訳を探そうとしたら幾らでも探すことができます。」しかし、今でこそ宣教師として力強く証する与那嶺長老だが、「大学1年のときには地元の教会員や宣教師に随分と助けられました」と言う。伝道期間中、多くの機会を捕らえ戒めのもとたす祝福について証するのは、かつての自分と同様のチャレンジに直面している人々への応援歌なのである。

与那嶺長老は昨年末、3人の中国人の求道者を教会へと導いた。彼らはバプテスマの面接のとき、「その日は、バプテスマ会までには教会に行けるけれども、その前の安息日の集会には出席できない」と答えた。彼らが初めて見つけた仕事の面接がその日だったのである。しかし与那嶺長老は、安息日に教会へ集う大切さを知っていたので、「安息日を守れないならばバプテスマを施すことはできません」と伝えて譲らなかった。

彼らは熟考し、結局は面接の予定をキャンセルして集会へ集うことを選んだ。3人はその仕事の機会を失ったが、あのと自分がかたし、戒めを守ることに引き下がっていたならば、彼らは安息日の大切さを学ばなかったかもしれない、と与那嶺長老は振り返る。宣教師には、単にバプテスマを施すよりも大切なことがある、とも語る。

### 誘惑は同じ、それなら高い目標を

「突然変わるのレベルは難しいことです。様々な機会を通じて安息日の大切さを学んでいく必要があります。特に、青少年は小さいときからその大切さを知ることが必要です。習慣は大切です。安息日を守れる環境を選ぶことによって、自分の目標を曲げる人もいるかもしれませんが、クラブ活動が安息日にあるのであきらめる人もいるでしょう。しかし、自分は、そのような環境の中に身を投じて、安息日を守ろうと思っていました。時々、『日本では部活と教会を両立させることは難しい』と言う人もいらっしゃいます。しかし、そんなことは決してありません。自分はやり通すことができましたし、ほかの青少年にもできると思います。もっとたくさんの青少年が、安息日を守っていても部活でも成功できるということを証明し、それをたくさんの教会員にも理解してもらいたいと思います。」

また与那嶺長老は、可能性があるならば競技レベルの高い場所へチャレンジすべきだという。「どこへ行っても同じ誘惑があります。レベルを落としたチームへ行けば、その中では優秀な選手として、安息日に練習や試合へ参加することをますます強要されるかもしれません。ですから、受ける誘惑は同じです。それならば、高い目標を目指すべきです。」与那嶺長老は自らの体験を通し、夢をあきらめないことを勧め、安息日はじめ主の戒めを守ることは、人生において表面的な成功ではなく真の意味で成功するための大切な条件だと、今日も求道者に証し続けている。□

# わが家の 伝統 Legacy



**結**婚して17年目を迎えようとしている谷口正剛兄弟と晶子姉妹は3人の子どもに恵まれている。長女の千恵姉妹は中学3年生、長男の弘樹兄弟は中学2年生、そして次女の陽子姉妹は小学校3年生だ。夫婦として幼児期の子育てからは解放されたが、思春期の子どもを見守るという大切な時期を迎えている。特に中学校の剣道部で活躍する弘樹兄弟の安息日への取り組みは、家族に大きな影響を与えた。

## 安息日を尊んだ剣道少年

弘樹兄弟は幼稚園から剣道を始め現在に至っている。幼いうちは安息日を守ることはそれほど困難ではなかったが、「小学校3年生くらいから盛んに先生方から安息日に行われる試合に出るようになって言われました」と話す。剣道少年にとって、頑張ってきたことを認めてもらえる剣道の級位の認定試験も通常日曜日に行われているので、それも受けることはなかった。「最初は安息日に行われる試合に出たくてしかたなかったのですが、小学校5年生になってからは、自分の意志で安息日を守るようになりました。」両親から安息日には教会へ行くように教えられていたので、弘樹兄弟はそれに従って生活してきた。

高学年になって剣道も上達するにつれ、周りから試合に出るようになるとの誘いや期待も大きくなっていった。剣道は団体競技のため、長年続けてきた弘樹兄弟には特に期待がかかってきた。それでも家族全員で安息日は教会へ行くことを選んだ。

あるとき、安息日に弘樹兄弟以外全員が参加した試合があった。そして、次の練習日には参加者全員が表彰を受けたのである。「息子もまだ小学生ゆえ、友達が先生から褒められ、景品をもらって喜ぶ姿を見せつけられて恨めしく思わないはずがありません。わたし自身も、

## 段位よりも大切なもの

～日々の積み重ねが家族にもたらした宝～

谷口家族 静岡ステーキ/浜松ワード

ただ一人参加賞もいただけずたたずんでいる息子の小さい後ろ姿を見ては、「つらいけど頑張れ」と心の中で祈りました」と母親の晶子姉妹は当時を振り返る。そして弘樹兄弟にこのように言った。「今は見えないけれど、あなたの胸には神様からの金メダルがかけられているよ。それはみんながもらうメダルと違ってすごく大きいメダルだよ」と。

「出場した試合は、祝日と土曜日の試合のみで年間3試合だけでした」と語る

弘樹兄弟は、それでも安息日を忠実に守りとおし、十分喜びをもって7年間通った剣道クラブを卒業した。5年生のときには土曜日に月1回家族で神殿に行きながらも、そのときの土曜日の練習が金曜日に変更になることもあり、年間100回くらいある練習日に皆勤賞を受けることができた。

周りの友達がどんどん級位を取得していく中、弘樹兄弟は無級のまま6年生になった。実力があっても級位がないことは少し寂しいことでもあった、しかし、そんな弘樹兄弟にもチャンスが訪れた。昇級試験の日程が土曜日に組まれたのである。通常は級は順に昇級していくが、弘樹兄弟は小学生としては最上級になる一級に挑戦した。そして見事に合格し、今まで一度も手にすることがなかった賞状を受け取ったのである。熱望していた賞を、「安息日を守りながらもらうことができた」と嬉しく回想する。

## 「神様には何もできないことはない」

幾多のつらい思いはあったが、今では安息日に練習や試合に出ないことは定着し、弘樹兄弟自身の意思で選択している。中学校の剣道部へは、日曜日には参加できないことを顧問の先生に自分自身で話したうえで入部した。7年間の

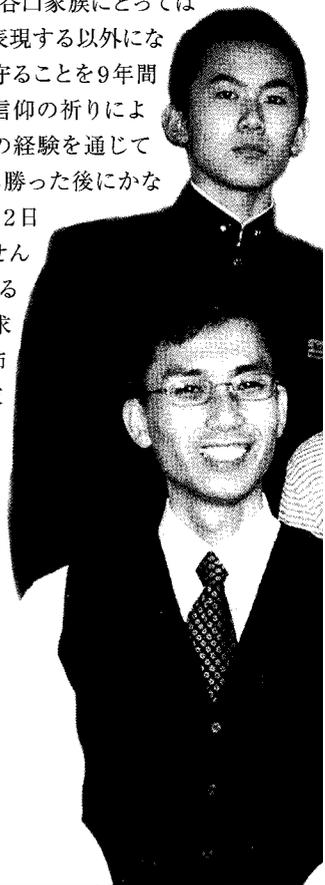
経験もあり、初心者と比べれば当然技術的にも優り、上級生と練習試合をやっても引けをとらないことも度々あったので、試合へ出たいという欲求も強くなっていた。しかし弘樹兄弟は胸の奥に、「神様には何もできないことはない」という信仰を持ち、試合に出場できるように祈り始めていた。

「奇跡は祈りを通して起きるものです」と晶子姉妹は話す。驚いたことに、2年生になってからの公式試合のすべてが平日に予定されたのである。県大会、全国大会を含めてすべての試合がである。それは弘樹兄弟の願いが聞き届けられた瞬間であった。

晶子姉妹は続けて話す。「試合のスケジュール表をわたしに見せてくれた息子の喜びようは大変なものでした。なにしろ昨年まで試合はすべて日曜日だったからです。先輩の応援にも行けませんでしたから。」それは谷口家族にとっては奇跡という言葉で表現する以外になかった。安息日を守ることを9年間続け、9年越しの信仰の祈りによるものだった。その経験を通じて「願いは試しに打ち勝った後にかえられます。1日や2日の祈りではありませんでした。信仰による試しには忍耐が要求されます」(晶子姉妹)ということを経験した。弘樹兄弟には「生涯の宝」となる経験であった。

## 証と祈りの 積み重ね

谷口家族には安息日の教えを守ることに加えて、もうひとつの伝統がある。弘樹兄弟が8歳



でバプテスマを受けた時から足かけ6年、断食証会で家族全員で証をすることを毎月続けているのである。父親の正剛兄弟はその伝統を始めた契機について話す。それは子どもの質問から始まった。「なぜ教会から離れる人がいるの」と長女の千恵姉妹に尋ねられた。その時正剛兄弟は「人は証を失うと教会へ来るのが楽しくなくなってくる。そうすると教会へ来る価値がないと考えるようになる。だから証を失った人は教会から離れてしまう」と答えた。「どうしたら証が強められるの」と再び問われた。「今持っている証を人々の前ですればいい。証は証をすることによって強められるし、持っているのに証をしなければ証は消えてしまう。証に上手も下手もないので、信じている気持ちを伝えればいい。」そのような会話がヒントとなり、家族全員で証をする習慣がスタートした。それは月に1度のことだが、継続することによって、子どもたちの小さな証は強い証へと成長していった。子ども自身が証をすること

によって証が強まっていくのがはっきりと分かった。「親として子どもをどのように光と真理の中へ導くか試行錯誤しながらやってきた」と話す正剛兄弟は、家族の祈りについても紹介してくれた。「我が家では家族で手をつないで輪になって祈ります。代表の人が祈るとき、その祈りを皆が反復して声を出して祈ります。

とえそれが、一般的に健全な活動と言われるものであっても、安息日を破るものであるならばやめるべきだと思っています。だから、剣道の試合に出たいという欲求を満たすよりも、安息日に教会へ集うことの方が、



20人もの剣道部員を率いるキャプテンの谷口弘樹兄弟には段位がないが、部員や先生方の信任は篤い。

●谷口家族……●谷口正剛兄弟（お父さん）／●晶子姉妹（お母さん）／●千恵さん（中3）／●弘樹君（中2）／●陽子さん（小3）——お父さんも若いころは剣道をやっていた。1981年に開かれた伝道80周年記念の全国モルモン剣道大会では団体の部で優勝している。「わが家は霊的スパルタ教育です」と言うお父さんに、家族は爆笑していた。スパルタとはほど遠い温厚なお父さんらしい。また、長女の千恵さんは中学の生徒会で副会長を務めていたとき、毎年日曜日に開かれる運動会を土曜日にするよう呼びかけたいと語っていたとか。



ほんとにささやかな時間ですが、家族が全員一つとなれる平和なひとときです。それまでは、祈っている人以外はうわのそらになることがありましたが、皆で反復して声を出して祈るようになってから、さぼる人がいなくなりました」と笑う。

比較にならないほど価値があると思います」と話す。

晶子姉妹は「子どもにとって最も大切な場所は家庭です。一時的にかわいそうに思えるようなことがあっても、親が信念をもって教え、道を示してあげる必要があります。そうすることにより永遠の家族への道が開けると思います」と話す。

### 「大切なものを見出しはじめた」子どもたち

家族を導くために様々な提案をし、普段は温厚な正剛兄弟だが、安息日についての厳格な態度を崩すことはない。「安息日の活動については、選択の自由という言葉を用いて『子どもの考えを聞いてから』という人もいるかも知れませんが、我が家では安息日に活動することは受け入れていません。選択の自由とは、正しいことを選択する自由が神様から与えられているとわたしたちは理解しています。間違ったことをする選択の自由ではないと教えています。安息日を守れない活動をするのであれば、その活動はやめるべきで、た

現在、弘樹兄弟は剣道部のキャプテンを務めている。周りの部員は既に昇段しているものもいる。段位を持っていないキャプテンだが、「段がなくても有段者に勝ったらもっとかっこいい」と明るく話す。

今でも先生を含め多くの父兄から「なぜ試合に出さないのか」と度々聞かれることがあるという。しかし、それらの言葉ももう気になることはない。信仰を養う長年の積み重ねの影響で、「安息日の試合以上に大切なものを見出しはじめた」からだという。安息日を信仰の礎としてきた谷口家族と弘樹兄弟が証するように「犠牲と思われることも、裏返せば永遠の命へとつながる投資」なのである。□

# 専任宣教師

2002年1月(266期生)10人・海外2人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



あだち ともなり  
**足立智成**  
名古屋伝道部  
岡山ステーキ  
松江ワード



いわた まいこ  
**岩井麻衣子**  
東京北伝道部  
福岡ステーキ  
福岡ワード



グレン・グラバド  
名古屋伝道部  
フィリピン・  
ディゴスステーキ  
マリタ支部



こじま えな  
**児島恵奈**  
札幌伝道部  
東京西ステーキ  
八王子第2ワード



さいとう あい  
**斎藤 愛**  
東京南伝道部  
郡山地方部  
会津若松支部



ジョン・ヒョンジン  
**鄭 賢珍**  
仙台伝道部  
韓国・マサンスステーキ  
マサンワード



とがみ あやの  
**戸上綾乃**  
福岡伝道部  
大阪北ステーキ  
豊中ワード



なかやま のりこ  
**中山典子**  
広島伝道部  
札幌ステーキ  
白石ワード



やまぐち ゆきえ  
**山口幸恵**  
東京北伝道部  
福岡ステーキ  
井尻ワード



やまざき あきこ  
**山崎安希子**  
仙台伝道部  
神戸ステーキ  
西宮ワード



すみや あいこ  
**角屋 愛子**  
カリフォルニア州  
サンフランシスコ伝道部  
熊本ステーキ  
長瀬ワード



まつやま えりか  
**松山絵里香**  
オーストラリア・  
ブリスベン伝道部  
熊本ステーキ  
熊本ワード

\*

## 役員の変動

2001年1月10日から2002年2月13日まで  
に管理本部会員統計記録課に通知のあ  
った役員の変動(敬称略)

- 岡山ステーキ松江ワード  
監督:中谷 典正
- 山口地方部下関支部  
支部長:平田 浩二
- 横浜南ステーキ保土ヶ谷ワード  
監督:宮木 一郎
- 仙台ステーキ長町ワード  
監督:大庭 一廣
- 東京南ステーキ東京第三ワード  
監督:Mcintyre, William
- 仙台ステーキ山形ワード  
監督:佐藤 祐輝
- 東京南ステーキ東京第二ワード  
監督:Sellers, Richard K
- 東京東ステーキ小岩ワード  
監督:山下 博

### 皆さんの情報をご提供ください

◎あなたや友人の経験、また地域のニ  
ュースなど、全国の読者に紹介したい  
有意義な情報をお寄せください。

◎お願い——海外に召される日本人宣  
教師を紹介いたします。氏名(フリガナ)、  
所属ステーキ/地方部、ワード/支部、  
MTC入所月、伝道部名を明記のうえ、  
編集室に写真を添えてお知らせください。

デジタルカメラでお撮りになった画像デ  
ータ(JPEG)を添付しての電子メール入  
稿(下記アドレスあて)も歓迎いたします。

◎あて先:〒106-0047 東京都港区南麻  
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト  
教会『リアホナ』編集室

TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275  
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、  
その他商品に関するお問い合わせは——  
教会配送センター

TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

## 奉献された教会堂

静岡ステーキ袋井支部

住所 〒437-0064

静岡県袋井市市川

字北裏 116-2

電話 0538-42-4980

竣工日 2001年10月25日

建築面積 407.09平方メートル

延床面積 403.68平方メートル

敷地面積 1983.49平方メートル

